

平成元年度 神戸市埋蔵文化財年報



1992

神戸市教育委員会

平成元年度 神戸市埋蔵文化財年報

1992

神戸市教育委員会

序

神戸市教育委員会では、本年度も文化財の保護・啓発・調査事業を意欲的に進めてまいりました。

埋蔵文化財関係では近年、都市再開発事業や、交通網の整備などの開発、民間の共同住宅建設の増加に伴う、緊急発掘調査の件数が年々急増し、それによる新たな遺跡の発見が相次いでいます。このような状況に対し、今年度は学芸員を2名増員し、教育委員会と財団法人神戸市スポーツ教育公社が調査を担当するという体制で調査をおこなっております。

また、平成3年9月には、西区髙台西神中央公園内に神戸市埋蔵文化財センターが開館しました。当センターは、市内出土の埋蔵文化財の整理・収蔵・展示・調査研究・啓発の拠点として一般公開しております。今後、市民の皆様に広く利用していただければ、幸いに存じます。

本書は、平成元年度に実施した発掘調査の概要を記したもので、市内で発見された「祖先の遺産」の記録です。市内の遺跡や、その出土遺物を通じて、神戸の歴史を知っていただければ幸いです。

最後になりましたが、事業の実施にあたり、御協力を賜りました関係各位に対し、深く感謝をいたします。

平成4年3月

神戸市教育長 福尾重信

例 言

1. 本書は、神戸市教育委員会が平成元年度に実施した埋蔵文化財事業の概要である。事業に関わる発掘調査は、神戸市文化財専門委員の指導を得て下記の調査組織によって行った。

調査関係者組織表

神戸市文化財専門委員（埋蔵文化財部会委員）

檀上 重光	神戸新聞社監査役 神戸市立博物館副館長
宮本長二郎	奈良国立文化財研究所
和田 晴吾	立命館大学文学部教授

教育委員会事務局

教育長 緒方 学	
// 福尾 重信	
社会教育部長 岡村 二郎	
文化財課長 西川 知佑	
埋蔵文化財係長 奥田 哲通	
文化財課主査 中村 善則・渡辺 伸行	
事務担当学芸員 西岡 巧次	
調査担当学芸員 丸山 潔	
// 丹治 康明	
// 千種 浩 (保存処理担当)	
// 黒田 恭正	
// 西岡 誠司	
// 山本 雅和	
// 安田 滋	
// 須藤 宏	
// 佐伯 二郎	
// 山口 英正	
// 東 喜代秀	
// 齋木 巖	
// 松林 宏典	
// 阿部 敬生	

財団法人神戸市スポーツ教育公社

理事長 宮岡 寿雄	
// 赤坂 典昭	
// 緒方 学	
副理事長 緒方 学	
// 福尾 重信	
専務理事 垂井 圭司	
常務理事 白石 仁志	
総務部長 藤井 浩	
総務課長 静観 圭一	
文化財調査係長 中村 善則 (文化財課主査兼務)	
事務担当 鷲尾 稔一	
調査担当学芸員 菅本 宏明	
// 口野 博史	
// 谷 正俊	
// 前田 佳久	
// 富山 直人	
// 池田 毅	
// 内藤 俊哉	
// 橋詰 清孝	
// 浅谷 誠吾	

2. 本書に掲載した位置図は、神戸市立中学校教育研究会社会科研究部編集（神戸市スポーツ教育公社発行）の5万分の1神戸市全図を、また各遺跡の位置図は、神戸市発行2500分の1地形図を使用した。
3. 本書は、埋蔵文化財発掘調査一覧表に示した各調査担当者が執筆して作成し、谷 正俊が編集を行った。
4. 表紙写真は、本山遺跡出土銅鐸（表表紙・A面）、（裏表紙・B面）である。

目 次

序

例 言

I. 平成元年度事業概要	1
平成元年度埋蔵文化財発掘調査一覧表	5
平成元年度神戸市埋蔵文化財調査地位位置図	12
II. 平成元年度の発掘調査	19
1. 神出遺跡	19
2. 和田遺跡	33
3. 柴遺跡	43
4. 養田遺跡	61
5. 鍋谷池遺跡	65
6. 大畑遺跡	69
7. 玉津田中遺跡 (平野地区)	75
8. 印路遺跡	97
9. 出合遺跡	111
10. 西神ニュータウン内遺跡 (西神No.65地点遺跡)	117
11. 長谷遺跡	123
12. 栃木遺跡	133
13. 狩口台遺跡	139
14. 五色塚古墳	143
15. 戎町遺跡 (第4次調査)	147
16. 戎町遺跡 (第5次調査)	157
17. 長田神社境内遺跡	163
18. 三番町遺跡	169
19. 上沢遺跡	173
20. 大開遺跡	189
21. 楠・荒田町遺跡	195
22. 熊内遺跡	201
23. 口暮遺跡	205
24. 西求女塚古墳	213
25. 郡家遺跡 (大蔵地区)	217
26. 住吉宮町遺跡	225

27. 魚崎中町遺跡	235
28. 本山遺跡	239
29. 森北町遺跡	249
30. 淡河中村遺跡	261
31. 宅原遺跡 (有井地区)	265
32. 宅原遺跡 (豊浦地区)	275
33. 下上津遺跡 (神子田地区), 宅原・上津条里遺構	295
34. 宅原遺跡 (内垣地区)	303
35. 北神ニュータウン内遺跡 (宅原・上天神地区)	309
36. 上小名田遺跡	313
37. 下二郎遺跡	327
III. 平成元年度の保存科学処理	335

挿 図 目 次

fig. 1 調査地位置図	19	fig. 24 同上細部 (西から) (写真)	36
fig. 2 第1トレンチS B01・02・03平面図	20	fig. 25 第1トレンチS D01出土土器	37
fig. 3 第1トレンチ平面図	21	fig. 26 第1トレンチ出土土器	38
fig. 4 第2トレンチ南半 (北から) (写真)	22	fig. 27 第1トレンチS P01土器出土状況 (写真)	39
fig. 5 第2トレンチ平面図	22	fig. 28 第1トレンチS P01土器出土状況図	39
fig. 6 第4トレンチ平面図	23	fig. 29 第2・第3トレンチ平面図	40
fig. 7 第4トレンチS B01平面図	23	fig. 30 第2トレンチ全景 (北西から) (写真)	40
fig. 8 第5トレンチ全景 (西から) (写真)	24	fig. 31 第3トレンチ全景 (北から) (写真)	41
fig. 9 第5トレンチ平面図	24	fig. 32 第2・第3トレンチ出土遺物	42
fig. 10 第6トレンチ全景 (南から) (写真)	25	fig. 33 調査地位置図	43
fig. 11 第6トレンチS B01平面図	25	fig. 34 試掘坑1出土土器	44
fig. 12 第6トレンチ平面図	26	fig. 35 第1地区第1遺構面 (北東から) (写真)	45
fig. 13 第6トレンチ竪状遺構土器出土状況図・ 平面図・断面図	27	fig. 36 第1地区第1・第2遺構面平面図	45
fig. 14 第6トレンチ竪状遺構検出状況 (南から) (写真)	28	fig. 37 第1地区第2遺構面S K04・06土器・河 原石出土状況図	46
fig. 15 第8・9トレンチ平面図	29	fig. 38 第1地区第2遺構面S K04土器・河原石 出土状況 (写真)	46
fig. 16 調査区遠景 (北から) (写真)	30	fig. 39 第1地区第2遺構面S K07土器・河原石 出土状況 (南から) (写真)	47
fig. 17 神出遺跡出土瓦	31	fig. 40 第1地区第2遺構面S K07底面の河原石 検出状況 (北から) (写真)	47
fig. 18 神出遺跡出土土器・硯	32	fig. 41 第1地区S K07遺物・河原石出土状況図	48
fig. 19 調査地位置図	33		
fig. 20 第1トレンチ全景 (南から) (写真)	34		
fig. 21 第1トレンチ平面図	34		
fig. 22 第1トレンチ遺物出土状況図・断面図	35		
fig. 23 第1トレンチS D01遺物出土状況 (写真)	36		

fig. 42	第1地区土坑出土土器	49	fig. 75	2トレンチII・I区土器出土状況図	72
fig. 43	第1地区古墳時代の自然流路平面図・土器出土状況図	50	fig. 76	大畑遺跡出土土器	73
fig. 44	第1地区自然流路内土器出土状況〔写真〕	51	fig. 77	2トレンチB・C区土器出土状況(北から)〔写真〕	74
fig. 45	第1地区自然流路内出土土器	51	fig. 78	2トレンチE区土器出土状況(東から)〔写真〕	74
fig. 46	第4トレンチSD101土器・河原石・焼土出土状況(西から)	52	fig. 79	調査地位置図	75
fig. 47	第3・第4トレンチ平面図	53	fig. 80	1トレンチ遺構配置図	76
fig. 48	第4トレンチSD01・SK01遺物出土状況図	53	fig. 81	1トレンチ北側(北から)〔写真〕	77
fig. 49	第4トレンチ出土遺物	54	fig. 82	1トレンチ全景(南から)〔写真〕	77
fig. 50	第5トレンチSK01出土土器	54	fig. 83	SB301平面・断面図	78
fig. 51	第5トレンチ平面図	55	fig. 84	SB302平面・断面図	79
fig. 52	第5トレンチSK02河原石・土器出土状況(西から)〔写真〕	56	fig. 85	SB302炭化材出土状況(東から)〔写真〕	79
fig. 53	第5トレンチSK03河原石・土器出土状況(東から)〔写真〕	56	fig. 86	SB302完備状況(東から)〔写真〕	79
fig. 54	第5トレンチSK02・03土器・河原石出土状況図	57	fig. 87	SB303平面・断面図	80
fig. 55	第5トレンチSK02・03出土遺物	58	fig. 88	SB303全景(西から)〔写真〕	80
fig. 56	第5トレンチSB01全景(南から)〔写真〕	59	fig. 89	SB304平面・断面図	81
fig. 57	第5トレンチSK02検出作業状況〔写真〕	60	fig. 90	SB304床面土器出土状況〔写真〕	82
fig. 58	調査地位置図	61	fig. 91	SB304全景(北から)〔写真〕	82
fig. 59	調査区平面図および断面模式図	62	fig. 92	SD101全景(東から)〔写真〕	83
fig. 60	Ⅲ区SD03平面・断面図	63	fig. 93	2トレンチ第2遺構面全景(西から)〔写真〕	84
fig. 61	竇田遺跡出土土器	64	fig. 94	2トレンチ第1遺構面遺構配置図	85
fig. 62	調査地全景(北西から)〔写真〕	64	fig. 95	2トレンチ第2・第3遺構面遺構配置図	85
fig. 63	調査地位置図	65	fig. 96	2トレンチSB201・202平面・断面図	86
fig. 64	A地区平面図	66	fig. 97	2トレンチSB201全景(西から)〔写真〕	87
fig. 65	地山整形遺構検出状況(東から)〔写真〕	67	fig. 98	SD209遺物出土状況図	87
fig. 66	地山整形遺構平面・断面図	67	fig. 99	SD209上層遺物出土状況〔写真〕	87
fig. 67	B地区平面図	67	fig. 100	SD209下層遺物出土状況(南から)〔写真〕	88
fig. 68	鍋谷池遺跡出土遺物	68	fig. 101	3トレンチ遺構配置図	89
fig. 69	調査地位置図	69	fig. 102	第1次調査出土土器	90
fig. 70	1トレンチ中世遺構面(南から)〔写真〕	70	fig. 103	4～7トレンチ遺構配置図	91
fig. 71	2トレンチ中世遺構面(北から)〔写真〕	70	fig. 104	SD401遺物出土状況(西から)〔写真〕	92
fig. 72	3トレンチ中世遺構面(南から)〔写真〕	71	fig. 105	7トレンチ出土馬形土製品	93
fig. 73	1トレンチ・2トレンチ平面図	71	fig. 106	SB701平面図	94
fig. 74	2トレンチH・I区断面図	72	fig. 107	SB701炭化材出土状況(南東から)〔写真〕	94
			fig. 108	SB701床面完備状況(南東から)〔写真〕	94
			fig. 109	SB701上面土器出土状況(南から)〔写真〕	94

fig. 110	7 トレンチ全景 (東から) [写真]	95	fig. 152	C トレンチ全景 (東から) [写真]	127
fig. 111	第2次調査出土土器	95	fig. 153	B・C トレンチ出土遺物	128
fig. 112	調査地遠景 [写真]	96	fig. 154	D トレンチ第1遺構面平面図	129
fig. 113	調査地位置図	97	fig. 155	D トレンチ第1遺構面西半全景 (東から) [写真]	130
fig. 114	I トレンチ平面図	98	fig. 156	D トレンチ第1遺構面東半全景 (東から) [写真]	130
fig. 115	I トレンチ第2遺構面全景 (西から) [写真]	99	fig. 157	D トレンチ第2遺構面全景 (東から) [写真]	131
fig. 116	S D14土層断面図	99	fig. 158	D トレンチ第2遺構面平面図	131
fig. 117	I トレンチ S D14出土土器	100	fig. 159	D トレンチ出土遺物	132
fig. 118	I トレンチ出土土器	101	fig. 160	調査地遠景 [写真]	132
fig. 119	I トレンチ出土土器	101	fig. 161	調査地位置図	133
fig. 120	II トレンチ第3遺構面 (北から) [写真]	102	fig. 162	第1地区平面・断面図	134
fig. 121	II トレンチ平面図	102	fig. 163	第1地区遺構面全景 (南から) [写真]	135
fig. 122	II トレンチ S K 21遺物出土状況 (西から) [写真]	103	fig. 164	第1 トレンチ平面図	136
fig. 123	II トレンチ S K 21出土縄文土器	103	fig. 165	第1 トレンチ断面図	136
fig. 124	IV トレンチ第2遺構面全景 (南西から) [写真]	104	fig. 166	第1 トレンチ S K 02平面・断面図	137
fig. 125	IV トレンチ平面図	104	fig. 167	第1 トレンチ遺構面検出状況 (北から) [写真]	137
fig. 126	III~V トレンチ出土土器	105	fig. 168	第1 トレンチ S K 02検出状況 (南東から) [写真]	137
fig. 127	VII・VIII トレンチ平面図	106	fig. 169	第1 トレンチ遺構面検出状況 (東から) [写真]	137
fig. 128	VII・VIII トレンチ出土土器・土剣	107	fig. 170	第1 トレンチ S K 02セクション (南から) [写真]	137
fig. 129	IX・X トレンチ平面図	108	fig. 171	栃木遺跡出土土器	138
fig. 130	IX・X トレンチ出土土器	109	fig. 172	調査地位置図	139
fig. 131	調査地位置図	111	fig. 173	第2地区遺構面平面図	140
fig. 132	南地区基本土層模式図	112	fig. 174	第2地区全景 [写真]	141
fig. 133	水田遺構平面図	113	fig. 175	弁口台遺跡から淡路島を臨む [写真]	142
fig. 134	南地区水田遺構 (北から) [写真]	113	fig. 176	調査地位置図	143
fig. 135	北地区柱穴群 (南から) [写真]	113	fig. 177	調査トレンチ平面図	143
fig. 136	北地区柱穴群平面図	114	fig. 178	五色塚古墳とトレンチの配置 [写真]	144
fig. 137	南地区柱穴群平面図	114	fig. 179	1 トレンチ全景 (東から) [写真]	145
fig. 138	出合遺跡出土土器	115	fig. 180	2 トレンチ全景 (東から) [写真]	145
fig. 139	出合遺跡出土遺物	116	fig. 181	2 トレンチ西端壁輪出土状況 (東から) [写真]	145
fig. 140	調査地位置図	117	fig. 182	2 トレンチ東端周溝部分 (南から) [写真]	145
fig. 141	調査地周辺航空写真 [写真]	118	fig. 183	各調査トレンチ北壁断面図	145
fig. 142	調査地全景 (南から) [写真]	118	fig. 184	五色塚古墳出土遺物	146
fig. 143	調査地平面図	119	fig. 185	調査地位置図	147
fig. 144	調査地北斜面全景 (南から) [写真]	120	fig. 186	第6遺構面河道2断面 [写真]	148
fig. 145	地山整形遺構平面・断面図	121	fig. 187	第6・第7遺構面平面図	148
fig. 146	S X 09全景 (北から) [写真]	122			
fig. 147	調査地位置図	123			
fig. 148	A・B トレンチ遺構配置図	124			
fig. 149	A トレンチ全景 (南から) [写真]	125			
fig. 150	B トレンチ全景 (東から) [写真]	125			
fig. 151	C トレンチ遺構配置図	126			

fig. 188	第5遺構面全景(東から)〔写真〕	149	fig. 225	I区北半第1遺構面遺構配置図	175
fig. 189	第5遺構面平面図	149	fig. 226	II区全景(北から)〔写真〕	175
fig. 190	第5遺構面河道下層面枕列遺構 (南から)〔写真〕	150	fig. 227	II区第1遺構面遺構配置図	175
fig. 191	第5遺構面河道上層面枕列遺構・出土遺物 平面図	150	fig. 228	I区北半S D02出土土器	176
fig. 192	第4遺構面平面図	152	fig. 229	I区南半全景(北から)〔写真〕	176
fig. 193	第4遺構面S B03全景(北東から) 〔写真〕	153	fig. 230	I区南半遺構面平面図	176
fig. 194	第4遺構面S B04全景(南東から) 〔写真〕	153	fig. 231	III区仮歩道部分平面図	177
fig. 195	第3遺構面平面図	154	fig. 232	I区北半・II区下層流路	178
fig. 196	第1・第2遺構面平面図	154	fig. 233	II区北半全景(南から)〔写真〕	179
fig. 197	第3遺構面全景(北西から)〔写真〕	155	fig. 234	III区第1・第2遺構面平面図	180
fig. 198	第2遺構面近景(北西から)〔写真〕	155	fig. 235	III区第1遺構面全景(南から)〔写真〕	181
fig. 199	調査地位図	157	fig. 236	III区第1遺構面S K01第4層土器出土状況 (北から)〔写真〕	181
fig. 200	第1遺構面土器出土状況図	158	fig. 237	III区S K01出土土器	182
fig. 201	第1遺構面平面図	158	fig. 238	III区第2遺構面全景(南から)〔写真〕	183
fig. 202	第2遺構面平面図	159	fig. 239	II・III区第2遺構面流路1全景(西から) 〔写真〕	183
fig. 203	第3遺構面平面図	160	fig. 240	IV区第1遺構面平面図	184
fig. 204	第1遺構面全景(西から)〔写真〕	161	fig. 241	IV区第1遺構面全景(南から)〔写真〕	184
fig. 205	第2遺構面全景(北から)〔写真〕	161	fig. 242	IV区第1遺構面S D01土器出土状況 〔写真〕	185
fig. 206	第2遺構面全景(西から)〔写真〕	161	fig. 243	IV区第2遺構面平面図	186
fig. 207	第3遺構面落ち込み出土土器〔写真〕	162	fig. 244	IV区第2遺構面全景(南から)〔写真〕	186
fig. 208	調査地位図	163	fig. 245	V区試掘坑断面(南から)〔写真〕	186
fig. 209	第1遺構面南側全景(南西から)〔写真〕	164	fig. 246	調査地位図	189
fig. 210	第1遺構面北側全景(北西から)〔写真〕	164	fig. 247	環溝完掘状況(東から)〔写真〕	190
fig. 211	第1遺構面南端全景(西から)〔写真〕	164	fig. 248	遺構配置図	191
fig. 212	第1遺構面平面図	164	fig. 249	S B401全景(南から)〔写真〕	192
fig. 213	第3遺構面北側全景(西から)〔写真〕	165	fig. 250	S B404全景(北から)〔写真〕	192
fig. 214	第4遺構面竪穴住居址1(西から) 〔写真〕	166	fig. 251	大間遺跡環溝出土土器〔写真〕	193
fig. 215	自然河道土器出土状況(1)〔写真〕	166	fig. 252	大間遺跡出土土器形状土器〔写真〕	194
fig. 216	自然河道土器出土状況(2)〔写真〕	167	fig. 253	調査地位図	195
fig. 217	自然河道土器出土状況(3)〔写真〕	167	fig. 254	遺構平面図	196
fig. 218	自然河道出土土器	168	fig. 255	S K01・02 S P01・02完掘状況 (西から)〔写真〕	197
fig. 219	調査地位図	169	fig. 256	S D01完掘状況(西から)〔写真〕	198
fig. 220	S D01出土土器	170	fig. 257	S D01内張出部平面・断面図	199
fig. 221	遺構平面・断面図	171	fig. 258	楠・荒田町遺跡出土土器	200
fig. 222	遺構面全景(南西から)〔写真〕	172	fig. 259	調査地位図	201
fig. 223	調査地位図	173	fig. 260	遺構平面図	202
fig. 224	調査地地区劃図	174	fig. 261	S B01全景(南から)〔写真〕	203
			fig. 262	S B02全景(南から)〔写真〕	203

fig. 263	調査区全景(南から)(写真) ……204	fig. 301	4号墳及び下層検出溝断面図 ……227
fig. 264	館内遺跡出土土器 ……204	fig. 302	平安時代・奈良時代遺構面(第1遺構面)平面図 ……228
fig. 265	調査地位置図 ……205	fig. 303	第1遺構面出土遺物 ……228
fig. 266	第1遺構面平面図 ……206	fig. 304	南地区第1遺構面掘立柱建物址(西から)(写真) ……229
fig. 267	石組井戸検出状況(写真) ……207	fig. 305	南地区第1遺構面遺構群(南西から)(写真) ……229
fig. 268	第2遺構面全景(東から)(写真) ……208	fig. 306	古墳時代遺構面(第2遺構面)平面図 ……230
fig. 269	柱穴内出土土器(S P01)(写真) ……208	fig. 307	南地区第2遺構面1号墳全景(西から)(写真) ……230
fig. 270	最終遺構面検出状況(東から)(写真) ……209	fig. 308	南地区1号墳丘上遺物出土状況(南から)(写真) ……230
fig. 271	掘立柱建物址S B01(北から)(写真) ……209	fig. 309	南地区第2遺構面2号墳全景(南から)(写真) ……231
fig. 272	S B01平面・断面図 ……210	fig. 310	南地区2号墳柱石検出状況(南から)(写真) ……231
fig. 273	第2・第3遺構面平面図 ……210	fig. 311	S B04全景(東から)(写真) ……232
fig. 274	日暮遺跡出土土器 ……211	fig. 312	S B04平面図 ……232
fig. 275	日暮遺跡出土土鉢・土製品 ……212	fig. 313	第2遺構面掘立柱建物址(北から)(写真) ……233
fig. 276	調査地位置図 ……213	fig. 314	古墳時代遺構面(第2遺構面)出土土器 ……234
fig. 277	調査区東壁断面図 ……214	fig. 315	調査地位置図 ……235
fig. 278	第1遺構面平面図 ……215	fig. 316	調査地平面図 ……236
fig. 279	第2遺構面平面図 ……215	fig. 317	S B01平面図 ……236
fig. 280	周障状遺構と古墳との位置関係 ……215	fig. 318	SB01全景(北から)(写真) ……237
fig. 281	周障完掘状況(南から)(写真) ……216	fig. 319	SB01(西から)(写真) ……237
fig. 282	西水塚古墳出土遺物 ……216	fig. 320	柱根検出状況(写真) ……237
fig. 283	調査地位置図 ……217	fig. 321	調査区全景(南から)(写真) ……237
fig. 284	A-C-1区北壁・B-1~5区西壁断面図 ……218	fig. 322	魚崎中町遺跡出土遺物 ……238
fig. 285	調査地区配置図 ……219	fig. 323	調査地位置図 ……239
fig. 286	調査地区平面図(A・B・C-1~5第1遺構面) ……219	fig. 324	トレンチ配置図 ……240
fig. 287	C-2区第1遺構面(北から)(写真) ……220	fig. 325	トレンチ1第1遺構面水田筋ちり状況(東から)(写真) ……241
fig. 288	A-3区第1遺構面(東から)(写真) ……220	fig. 326	トレンチ4第2遺構面平面図 ……242
fig. 289	A-4・5区第1遺構面(南から)(写真) ……220	fig. 327	トレンチ2流路6石器出土状況(南東から)(写真) ……243
fig. 290	第1遺構面出土土器 ……221	fig. 328	トレンチ2流路6石器出土状況(北から)(写真) ……243
fig. 291	第2遺構面自然流路上層土器出土状況(写真) ……221	fig. 329	第4遺構面平面図 ……244
fig. 292	B-1区第2遺構面(東から)(写真) ……222	fig. 330	トレンチ1第4遺構面上器ブロック西(北から)(写真) ……245
fig. 293	C-1区第2遺構面(南から)(写真) ……222	fig. 331	トレンチ1第4遺構面土器ブロック東(南から)(写真) ……245
fig. 294	調査地区平面・断面図(A・B・C-5・6・7) ……222	fig. 332	銅鐸出土状況図 ……246
fig. 295	第2遺構面出土土器(弥生時代中期後半) ……223	fig. 333	トレンチ1第4遺構面銅鐸出土状況(南から)(写真) ……247
fig. 296	第2遺構面出土土器(弥生時代後期後半) ……224		
fig. 297	調査地位置図 ……225		
fig. 298	第9次調査との位置関係 ……226		
fig. 299	北地区グリッド-1完掘状況(北から)(写真) ……226		
fig. 300	北地区遺構平面図 ……227		

fig. 334	トレンチ 1 出土銅鐸(写真) ……………	247	fig. 378	河道の状況(西から)(写真) ……………	273
fig. 335	調査地位置図 ……………	249	fig. 379	河道出土土器・管玉 ……………	274
fig. 336	調査地遠景(南西から)(写真) ……………	250	fig. 380	調査地位置図 ……………	275
fig. 337	第 1 遺構面平面図・第 1 遺構面水田耕上 出土須恵器 ……………	250	fig. 381	第 1 トレンチ S K02~04(南から)(写真) ……	276
fig. 338	S B10 全景(南から)(写真) ……………	251	fig. 382	第 1 トレンチ第 1 遺構面平面図 ……………	276
fig. 339	第 1 遺構面水田・流路 1 平面図 ……………	251	fig. 383	第 1 トレンチ第 2 遺構面南平(西から) [写真] ……………	277
fig. 340	第 2 遺構面平面図 ……………	252	fig. 384	第 1 トレンチ第 2 遺構面平面図 ……………	277
fig. 341	流路 10・12 完掘状況(南から)(写真) ……	252	fig. 385	第 1 トレンチ S K14 出土遺物 ……………	278
fig. 342	第 3 遺構面平面図 ……………	253	fig. 386	第 1 トレンチ群 05・S K07 出土遺物 ……	279
fig. 343	第 3 遺構面流路 2 出土土師器 ……………	254	fig. 387	第 2 トレンチ S B02 完掘状況(南から)(写真) ……………	281
fig. 344	第 4 遺構面平面図 ……………	254	fig. 388	第 2 トレンチ S B02 平面・立面図 ……………	281
fig. 345	S B04 遺物出土状況(南から)(写真) ……	255	fig. 389	第 2 トレンチ G・H 区全景(南から)(写真) ……………	281
fig. 346	S B04 完掘状況(南から)(写真) ……………	255	fig. 390	第 2 トレンチ G・H 区平面図 ……………	281
fig. 347	S B06 完掘状況(南から)(写真) ……………	256	fig. 391	第 2 トレンチ S B02 出土土師器 ……………	282
fig. 348	S B03・04 完掘状況(南から)(写真) ……	256	fig. 392	第 2 トレンチ S T01 平面・立面図 ……………	283
fig. 349	S B11 全景(西から)(写真) ……………	257	fig. 393	第 2 トレンチ S T01 遺物・楕材出土状況 [写真] ……………	283
fig. 350	S B12 全景(南東から)(写真) ……………	257	fig. 394	第 2 トレンチ S T01 出土遺物 ……………	283
fig. 351	第 4 遺構面流路 13 出土土器 ……………	258	fig. 395	S B01 完掘状況(写真) ……………	284
fig. 352	第 4 遺構面河道 13 南部遺物出土状況 (北から)(写真) ……………	259	fig. 396	第 2 トレンチ S B01 平面・断面図 ……………	284
fig. 353	第 4 遺構面河道 13 北部遺物出土状況 (南から)(写真) ……………	259	fig. 397	第 2 トレンチ S X02 平面・立面図 ……………	284
fig. 354	森北河遺跡出土初期須恵器・埴式土器 ……	260	fig. 398	第 2 トレンチ S X02 石材出土状況(写真) ……………	285
fig. 355	調査地位置図 ……………	261	fig. 399	S X02 出土遺物 ……………	285
fig. 356	遺構平面図・土層断面図 ……………	262	fig. 400	第 6 トレンチ S B01・02(東から)(写真) ……	286
fig. 357	S P02 土器出土状況(西から)(写真) ……	262	fig. 401	第 6 トレンチ平面図 ……………	286
fig. 358	調査区全景(南東から)(写真) ……………	262	fig. 402	第 6 トレンチ出土遺物 ……………	287
fig. 359	S K01 土器・河原石出土状況(南から) (写真) ……………	263	fig. 403	第 7 トレンチ平面図 ……………	288
fig. 360	S K01 断面図 ……………	263	fig. 404	第 7 トレンチ S X02 平面・断面図 ……………	289
fig. 361	淡河中村遺跡出土土器 ……………	263	fig. 405	第 7 トレンチ S X02(北から)(写真) ……	289
fig. 362	調査地遠景(南から)(写真) ……………	264	fig. 406	第 8 トレンチ平面図 ……………	289
fig. 363	調査区作業状況(南東から)(写真) ……	264	fig. 407	第 9 トレンチ平面図 ……………	290
fig. 364	調査地位置図 ……………	265	fig. 408	第 9 トレンチ出土遺物 ……………	291
fig. 365	調査区全体図 ……………	266	fig. 409	第 10 トレンチ平面図 ……………	292
fig. 366	調査地全景(南から)(写真) ……………	267	fig. 410	第 11・第 12 トレンチ平面図 ……………	293
fig. 367	S B01・02・05 全景(南から)(写真) ……	267	fig. 411	第 11 トレンチ A 地区全景(西から)(写真) ……	294
fig. 368	S B01・02・03・04 平面・立面図 ……	268	fig. 412	調査地位置図 ……………	295
fig. 369	S B03・04・06 全景(北東から)(写真) ……	269	fig. 413	第 1・第 2・第 3 トレンチ平面図 ……	296
fig. 370	竪穴住居出土土器 ……………	269	fig. 414	第 6 トレンチ全景(北から)(写真) ……	297
fig. 371	S B05 平面図 ……………	270	fig. 415	第 6 トレンチ平面図 ……………	298
fig. 372	S B05 全景(北から)(写真) ……………	270	fig. 416	第 6 トレンチ出土土器 ……………	298
fig. 373	S B05 出土土器 ……………	270	fig. 417	宅原・上津条尾トレンチ・グリッド設定図 ……………	299
fig. 374	S B06 平面・立面図 ……………	271	fig. 418	宅原・上津条尾遺構確認調査土層断面図 ……………	300
fig. 375	S B06 炭化材検出状況(南西から)(写真) ……………	272	fig. 419	第 3 グリッド平面図 ……………	302
fig. 376	S B06 出土土器 ……………	272			
fig. 377	土坑出土土器 ……………	273			

fig. 420	宅原・上津条里出土土器	302	fig. 466	トレンチ配置図	328
fig. 421	調査地位位置図	303	fig. 467	1トレンチ S K01近景(北から)(写真)	329
fig. 422	調査区遠景(北から)(写真)	304	fig. 468	2トレンチ全景(北から)(写真)	329
fig. 423	遺構完掘状況(北から)(写真)	304	fig. 469	1・2・3トレンチ平面図	330
fig. 424	遺構平面図	304	fig. 470	3トレンチ全景(南から)(写真)	331
fig. 425	第2遺構面中世ビロ群完掘状況(西から)(写真)	305	fig. 471	3トレンチ南端の遺構群(東から)(写真)	331
fig. 426	S D01完掘状況(西から)(写真)	306	fig. 472	4トレンチ第2遺構面(南から)(写真)	332
fig. 427	S D05・07完掘状況(北から)(写真)	306	fig. 473	4トレンチ第2遺構面(北から)(写真)	332
fig. 428	第2遺構面 S K01完掘状況(東から)(写真)	307	fig. 474	4トレンチ第2遺構面北端部(北から)(写真)	332
fig. 429	第2遺構面 S K01平面・断面図	307	fig. 475	4トレンチ平面図	332
fig. 430	宅原遺跡(内垣地区)出土土器	308	fig. 476	1~3トレンチ出土遺物	333
fig. 431	調査地位位置図	309	fig. 477	4トレンチ出土土器	334
fig. 432	土坑平面・断面図	310	fig. 478	「竈状遺構」の周囲を掘り下げる。(写真)	335
fig. 433	調査地平面図	310	fig. 479	「竈状遺構」を保護するために和紙を貼る(写真)	335
fig. 434	土坑群全景(東から)(写真)	310	fig. 480	裏側を掘り下げた後、合成樹脂を塗る(写真)	335
fig. 435	宅原・上天神地区出土須恵器	312	fig. 481	表面からも合成樹脂を塗り、土を固める(写真)	335
fig. 436	調査地位位置図	313	fig. 482	S X126上半の杭をはずす(写真)	336
fig. 437	遺構配置(模式)図	314	fig. 483	同上和紙で全体を保護(写真)	336
fig. 438	X I区遺構平面図	315	fig. 484	同上全体を発泡ウレタンで梱包(写真)	336
fig. 439	X II・X III区遺構平面図	315	fig. 485	同左裏側から土を取り除き、杭の下部を 検出し、記録を取る(写真)	336
fig. 440	IX・X区全景(北から)(写真)	316	fig. 486	「箕」ウレタンで梱包し取り上げた後に、裏 側の土を取り除き、記録を取る(写真)	336
fig. 441	平成元年度調査区割図	316	fig. 487	発泡ウレタンで全体を梱包(写真)	337
fig. 442	S P914・921遺物出土状況図	317	fig. 488	下部は鋼板とH鋼で切り離す(写真)	337
fig. 443	S B23平面・柱穴断面図	317	fig. 489	2台のクレーン車で吊り下ろす(写真)	337
fig. 444	S B23全景(南から)(写真)	317	fig. 490	神「市埋蔵文化財センター」での展示(写真)	338
fig. 445	S B24全景(西から)(写真)	318	fig. 491	銅鐸内面の土埃の土層転写(写真)	338
fig. 446	S B25全景(北から)(写真)	318	fig. 492	銅鐸内面に付着している白色析出物(写真)	338
fig. 447	S B25平面・柱穴断面図	318	fig. 493	乾燥により変形した杭の上端。上端のみ数 週間露出、その結果、厚みが約半分に入 り込んだ。(写真)	339
fig. 448	S B27・28全景(南から)(写真)	319	fig. 494	1点ずつ不織布で梱包(写真)	339
fig. 449	S B24・27・28平面・柱穴断面図	319	fig. 495	P E G 含浸液に入れる(写真)	339
fig. 450	S B29全景(南から)(写真)	320	fig. 496	取り上げ時の状態(写真)	340
fig. 451	S B29全景(西から)(写真)	320	fig. 497	上面の土を取り除く(写真)	340
fig. 452	S B29平面・柱穴断面図	320	fig. 498	取り上げ時の状態(写真)	340
fig. 453	S B30・31平面・柱穴断面図	321	fig. 499	処理後(写真)	340
fig. 454	S B23柱穴出土土器	322	表 1.	杭列遺構一覧表	151
fig. 455	IX区 S D901出土土器	322	表 2.	掘立柱建物址一覧表	321
fig. 456	IX・X区建物柱穴・土坑・溝出土土器	323			
fig. 457	掘立柱建物址遺構配置(模式)図	324			
fig. 458	S K617出土土器	325			
fig. 459	S K617出土黒色土器	325			
fig. 460	S X601出土土器	325			
fig. 461	S K636出土土器	326			
fig. 462	IV区 S D601出土土器	326			
fig. 463	包含層出土緑釉陶器	326			
fig. 464	調査地位位置図	327			
fig. 465	1トレンチ S K01平面・断面図	328			

I. 平成元年度事業概要

1. 普及啓発 事業

文化財保護強調月間の催し

大蔵山遺跡公園（垂水区西舞子4丁目）では、11月1日から11月7日までの間、復元竪穴住居の内部の公開とともに、古代人の生活の一部を実際に体験できるよう、火おこし、脱穀等を行った。

「地下に眠る神戸の遺跡展Ⅶ ―速報展―」

例年、11月1日から30日までは、市立旧考古館において最近の発掘資料を広く市民の方々に知っていただくために、特別展示「地下に眠る神戸の歴史展」を行っている。7回目の展示会となった今回の展示では、速報展として、市内で新たに出土した土器や石器を縄文時代から中世までの年代順にならべ身近にある遺跡に対する理解を深めていただくように展示した。

五色塚古墳展示室「古墳時代の祭祀展」の開催

昭和60年度より五色塚古墳展示室で、市内出土の古墳時代の遺跡・遺物をテーマにして展示しているが、今回は市内の遺跡から出土した玉類などの祭祀遺物を集め展示した。

地域活動への参加

市内各地の公民館、学校では、様々な地域・文化活動が行われているが、各地域の歴史を地元の方々に知っていただくことを目的に、周辺の遺跡の出土遺物や写真パネルの展示会を開催している。今年度は以下の場所で文化財展を行った。

(1)西区玉津南公民館「明石川流域 平安・鎌倉時代の人々の生活展」

明石川流域から発見された平安・鎌倉時代の遺構・遺物を展示し、それから判明した当時の人々の住居・食生活・墳墓・習慣などを紹介した。

(2)北区長尾町公民館「誰も書かなかった長尾の歴史展」

北区長尾町内から出土した歴史時代の遺物を中心に展示した。

(3)西区泉立高塚高校「西区埋蔵文化財展」

泉立高塚高校で、西神ニュータウン内出土の資料を中心に西区の遺跡・遺物を紹介した。

現地説明会の開催

発掘調査の状況や成果を早く市民の方々に知っていただくために、下記

のとおり現地説明会を開催し、多くの見学者の参加を得た。

番号	遺跡名	開催年月日
1.	森北町遺跡	平成元年11月5日
2.	本山遺跡	平成2年2月4日

刊行物

平成元年度の埋蔵文化財関係の刊行物は以下の8点である。

1.	昭和63年度遺跡現地説明会資料	頒価	500円
2.	狩口台遺跡発掘調査報告書	頒価	300円
3.	舞子・東石ヶ谷遺跡II	頒価	700円
4.	長田神社境内遺跡発掘調査概報	頒価	1,200円
5.	楠・荒田町遺跡III	頒価	800円
6.	郡家遺跡（御影中町地区第3次調査概報）	頒価	1,200円
7.	住吉宮町遺跡（第11次調査）	頒価	600円
8.	地下に眠る神戸の歴史展 VII	頒価	100円

2. 文化財 調査事業

当市における埋蔵文化財の発掘調査件数は年々増加の傾向にあるが、今年度は55件（1件は樹木伐採作業のみ）となり、前年度比で6件減少である。ただし、民間調査団の調査件数は28件、前年度比60%増と著しく増加している。

また、開発計画の際に提出される遺跡分布調査依頼件数は68件（前年度比4件減）、それに基づく試掘調査件数は220件（前年度比6件減）とやや減少傾向にある。

これらを地域別に見ると、昨年度と同様に旧市街地での試掘調査がほぼ全体の2/3を占めているが、中央区での試掘件数の増加が顕著である。

平成元年度埋蔵文化財試掘調査および緊急発掘調査状況

	試掘調査件数	緊急発掘調査件数
東灘区	33	6
灘区	23	4
中央区	25	5
兵庫区	16	1
長田区	12	5
須磨区	7	2
垂水区	14	3
西区	59	16
北区	31	13
合計	220	55

また、兵庫県教育委員会および民間の遺跡調査会の行った調査件数は試掘調査を含めて46件である。

発掘調査原因の事業別件数は民間事業18件、公共事業37件で、公共事業が約5割を占める。公共事業のうち、圃場整備事業・道路建設事業等の原因が多くをしめている。民間事業の場合は、そのほとんどが市街地におけるマンション建設や店舗等の工事が調査原因となっている。

上記の緊急発掘調査に要した経費は、7億5千4百万円であった。

また、保存処理業務によって、遺物の保存処理および遺構の切り取り保存等の作業をさらに押し進めた。

3. 市内遺跡
発掘調査
の概要
縄文時代

西区印路遺跡では土坑が検出され、埋土中から縄文時代後期の粗製深鉢が発見された。

兵庫区上沢遺跡では縄文時代晩期～弥生時代前期の自然流路が検出され、晩期の土器（長原式）とともに、弥生時代前期前葉～中葉の土器が発見された。自然河道の堆積土からの出土という点で、良好な資料とはいえないが、縄文時代晩期と弥生時代前期の土器が共伴する例として、神戸市域における当該時期の様相を考える上で重要な資料となった。

弥生時代

兵庫区大開遺跡は、前年度に引き続き調査が行われてきたが、縄文時代後期～晩期の突帯文土器を伴う自然流路や土坑が確認された。また、弥生時代前期前葉の環濠集落が検出され、環濠の規模は、東西70m×南北40mに復元することができる。環濠内外からは、竪穴住居址5棟、貯蔵穴等の遺構が確認できた。この遺跡では、弥生時代前期前葉の土器と縄文時代晩期の突帯文土器が共伴して出土しており、また、縄文時代の祭祀遺物である石棒が遺構から出土するという2つの文化が接触し、共存している段階を窺うことができる貴重な資料を提示した。

須磨区戎町遺跡では、弥生時代前期の自然河道と中期の竪穴住居址、土器棺墓が確認された。自然流路からは、土器、木製農耕具（箕、網代、広楯、大足）、獣骨、種子などと共に、円形杭列遺構が8基検出された。この遺構は全国的にみても例が少なく、その性格は明確でないため、今後に課題を残している。

東灘区本山遺跡では、弥生時代中期の遺構面から銅鐸が埋納された状態で発見された。この銅鐸は、紐の大半を欠損しているが、現高18.1cmの4区袈裟禪文銅鐸である。銅鐸が発掘調査によって発見されることは、極めて少なく、その埋納状態を確認できたことは大きな成果であった。なお、この埋納坑については半截した状態で切り取りを行い、現在、神戸市埋蔵文化財センターに保管・展示している。

西区大畑遺跡では、洪水砂層から弥生時代後期～庄内期の土器が完形の状態で多量に発見され、資料が少なかった明石川流域の当該時期の土器様相に新資料を提出することとなった。

長田区長田神社境内遺跡では、幅40m以上、深さ約4mに達する自然河道から、縄文時代晩期～弥生時代後期の土器が発見されているが、特に弥生時代後期の土器は、昭和61,62年度に行った第1次調査同様に出土量が多く、今後出土遺物の整理がさらに進めば、西摂の弥生時代後期の土器様相をさらに明らかにできるものとして注目される。

古墳時代

東灘区森北町遺跡では、弥生時代後期～古墳時代後期の集落址が確認された。特に弥生時代後期～古墳時代中期にかけては遺構・遺物の量や当時の貴重品である青銅製品の出土、他地域で作られた土器がかなりの多く発見されることなどから、他地域との交流が盛んに行われていたようであり、この地域の核となる拠点集落であったことが窺える。

北区宅原遺跡（有井地区）では、古墳時代前期～中期の竪穴住居址が6棟確認された。住居址の平面形は、長方形、方形、多角形、隅円方形など多様で、火災により炭化材が多量に出土するものも検出された。宅原遺跡では、周辺の調査により、弥生時代～近世の集落遺跡が各地区で確認されており、集落立地の変遷を考える資料を提示している。

西区玉津田中遺跡（平野地区）では、弥生時代～古墳時代後期の竪穴住居址が多数発見された。圃場整備に伴うトレンチ調査のため、集落址の規模、棟数などは明確ではないが、段丘上と沖積地という立地条件の異なるところにほぼ同時期の集落址が確認されており、当時の集落の立地の在り方を示した一つの例といえる。

歴史時代

北区上小名山遺跡は、昭和62年度から調査を継続してきたが、平安時代中葉から鎌倉時代初頭にかけての遺構・遺物が確認された。特に掘立柱建物址は34棟以上検出され、その中には、四面廂をもつ大規模な建物址が検出された。それとともに、緑釉陶器香炉片や石帯などが発見されており、一般の集落とは異なった様相を示している。また、土坑などから平安時代の須恵器・土師器・施釉陶器・黒色土器がまとまって出土し、従来あまり知られていなかった西摂北部の土器様相が明らかになりつつある。

北区宅原遺跡（豊浦地区）では、室町～戦国時代の遺構・遺物が多く発見された。この時期の遺構・遺物はこれまであまり確認されておらず、貴重な発見といえる。また近世の竪穴状建物址が確認されたが、これは県下ではじめての発見である。同様の建物址は、長野県以東ではしばしば検出されるが、関西では類例が少なく、この建物の性格を考えることが今後の課題となっている。

平成元年度埋蔵文化財発掘調査一覧表（事業別）

番号	事業名	遺跡名 (地名)	所在地	調査主体	調査面積	調査期間	内容	調査担当者
1	ニュータウン建設事業	大津遺跡 西神ニュータウン内遺跡	西区御部谷町・ 梶野台	神戶市 スポーツ教育公社	2,400㎡	元.4.17～元.7.31	弥生時代土坑・土坑上 中世・土坑	山野博史 富山眞人
2	〃	北神ニュータウン内遺跡	北区長尾町	神戸市教育委員会	2,240㎡	元.10.10～元.11.30	奈良～平安時代土坑 時期不明土坑群	黒田眞正 宮本浩一
3	小学校校舎工事	大宮遺跡	神神区八潮町	神戶市 スポーツ教育公社 神戸市教育委員会	1,300㎡	63.8.1～元.4.30	縄文時代自然遺跡土坑 弥生時代埋蔵品	船山佳久 内藤俊哉
4	幼稚園改築工事	大石東遺跡	南区石原町	神戸市教育委員会	140㎡	元.6.29～元.6.22	平安～鎌倉時代土坑 近代	山本雅和 阿部敬生
5	道路建設事業	上沢遺跡	長田区八潮町・ 七瀬町	神戶市 スポーツ教育公社 神戸市教育委員会	290㎡ 877㎡	元.8.1～元.8.31 元.3.1～元.10.24	縄文～弥生時代埋蔵 物土坑 弥生～古墳時代土坑 古墳・中世	山野 富山 西岡(誠) 山本 弘弘 森本 阿部
6	〃	貝田神社境内遺跡	貝田区大塚町	神戸市教育委員会	12㎡	元.2.17～2.1.23	弥生時代埋蔵品	佐伯二郎
7	〃	上小名川遺跡	北区八多町	神戶市 スポーツ教育公社	5,110㎡	元.4.30～元.8.4 昭和62年度2期継続	平安～鎌倉時代築造址	宮本浩一 船山佳久
8	〃	水原遺跡(内原地区)	北区長尾町	〃	540㎡	元.8.1～元.10.5	古墳時代土坑・溝 中世・ビッド	宮本浩一 船山佳久
9	〃	出合遺跡	西区平野町	神戸市教育委員会	1,422㎡	元.4.3～元.10.7	弥生時代中期 水田・柱穴	宮本浩一 黒田眞正
10	歩道改良事業	下二郎遺跡	北区有野町	神戸市教育委員会 神戶市 スポーツ教育公社	130㎡ 150㎡	元.4.26～元.5.10 元.8.8～元.8.28	古墳時代後期土坑墓 弥生時代後期・中世遺物	山本雅和 阿部敬生 佐伯 敬
11	〃	上小名川遺跡	北区八多町	神戶市 スポーツ教育公社	120㎡	元.9.4～元.9.20	中世～近世遺物・遺物	船山 毅
12	〃	大塚遺跡	西区平野町	神戸市教育委員会	20㎡	元.6.6～元.8.9	弥生時代後期 遺物 中世遺・土坑・ビッド	黒田眞正
13	〃	上上津遺跡	北区長尾町	〃	90㎡	元.10.23～元.11.2	権堂文化財	〃
14	都市再開発事業	美田神社境内遺跡	長田区大塚町	〃	2,700㎡	元.6.4～2.2.10	弥生時代後期土坑墓 古代～中世遺物	西岡誠司 船山佳久
15	〃	赤木・日向遺跡	赤木区日向	〃	100㎡	元.4.24～元.4.28	中世遺物包含層	佐本 繁
16	住宅地区整備事業	野川台遺跡	垂水区神戸古	神戶市 スポーツ教育公社	1,185㎡	元.4.1～元.4.13 元.8.8～元.10.2	弥生時代後期住居・土 坑・溝・ビッド	宮本浩一 佐伯 敬 松林典典 浅谷誠吾
17	市民病院建設事業	三浦町遺跡	貝田区一多町	神戸市教育委員会	1,200㎡	元.7.10～元.7.11	古墳時代～中世 遺物 包含層 自然遺跡	山本 雅和 松林典典
18	墓園建設事業	鍋谷池遺跡	西区平野町	〃	3,550㎡	元.4.10～元.8.8 元.8.17～元.8.25	弥生時代 土坑・ビッド・ 地山掘削遺構	山本 雅和 船山 毅
19	下水幹線管敷設	上津遺跡	北区長尾町	〃	60㎡	元.9.25～元.10.4	中世水井遺跡	山口英正
20	庁舎建設事業	橋・荒田町遺跡	中央区橋通	神戶市 スポーツ教育公社	1,900㎡	元.9.18～元.12.16	古墳時代前期土坑 平安～鎌倉時代溝	宮本浩一 船山 毅
21	市営住宅建設事業	三島町遺跡	長田区二番町	〃	90㎡	元.7.12～元.8.4	古墳後期埋蔵物・土坑・ 溝・ビッド	佐 正徳 浅谷誠吾
22	区立センター建設事業	古宮町遺跡	東灘区住吉町	〃	165㎡	元.12.18～2.3.16	古墳時代住居・古墳 奈良～平安時代埋蔵物	船山佳久
23	公会堂建設事業	中大洲遺跡	東区大洲町	神戸市教育委員会	50㎡	元.4.10～元.4.13	鎌倉～室町時代遺物 包含層	山本雅和
24	ロープウェイ建設事業	滝山城址	中央区磯子区	〃	100㎡	元.5.30～元.6.3	中世・ビッド・土坑	佐藤 聖
25	商業施設建設事業 (文化庁補助)	神出遺跡	西区神出町	神戶市 スポーツ教育公社	2,320㎡	元.4.5～元.4.20 元.5.15～元.7.11 元.10.18～元.10.31	平安～鎌倉時代埋蔵物 ビッド・宮伏遺構・土坑	佐 正徳 浅谷誠吾 山本浩一
26	商業施設建設事業 (文化庁補助) (農政補助)	渡辺遺跡	西区御部谷町	神戸市教育委員会	81㎡	元.4.5～元.4.13	平安～鎌倉時代遺物 包含層	佐伯二郎 船山佳久
27	〃	新木遺跡	西区城谷町	神戶市 スポーツ教育委員会 神戸市教育委員会	50㎡ 300㎡ 238㎡	元.5.8～元.5.9 元.11.27～元.12.15 2.2.29～2.2.13	弥生時代 古墳～平安時代遺構 成塚遺跡	宮本 繁 佐藤 聖 丸山 英
28	〃	長谷遺跡	〃	神戸市教育委員会 神戸市教育委員会	170㎡ 1,940㎡	元.4.26～元.4.28 元.9.4～元.10.17 元.12.16～2.2.6	弥生時代 弥生～平安時代土坑・ビッド 中世・ビッド・溝	富山眞人 宮本浩一 山野博史 内藤俊哉
29	〃	栄遺跡	西区御部谷町	神戶市 スポーツ教育公社	200㎡ 1,298㎡	元.3.8～元.3.10 元.6.7～元.6.9 元.10.4～元.11.25	縄文遺物 弥生時代 弥生～平安時代遺構	佐 正徳 浅谷誠吾
30	〃	印路遺跡	西区平野町	神戸市教育委員会 神戶市 スポーツ教育公社	218㎡ 890㎡	元.4.14～元.4.22 元.10.16～2.1.12	弥生～古墳時代土坑 中世後期土坑・溝	佐伯二郎 船山佳久
31	〃	玉降田中遺跡(平野地区)	〃	神戶市 スポーツ教育公社 神戸市教育委員会	148㎡ 1,380㎡ 508㎡	元.4.25～元.4.28 元.10.17～元.12.27 2.1.17～2.3.16	弥生時代 平安～鎌倉時代住居 土坑・溝・ビッド	佐 正徳 浅谷誠吾 富山眞人 山口英正

平成元年度埋蔵文化財発掘調査一覧表（事業別）

番号	事業名	遺跡名 (地点名)	所在地	調査主体	発掘面積	調査期間	内容	調査担当者
32	〃	和田遺跡	西区押部各町	神神戸市 スズノブ教育公社	136㎡ 210㎡	元.5.8～元.5.16 元.12.16～元.1.31	鉄器調査 奈良～鎌倉時代土器・ 溝・ピット・溝路	奈良代巻 許 正俊 横田謙吉 後宮義典
33	〃	木見遺跡	〃	〃	88㎡	元.4.25～元.4.27	鉄器調査 奈良文化財なし	奈良代巻 横田謙吉
34	〃	宅原遺跡(豊田地区) 上二津遺跡(神ノ田地区) 毛原・上津家平遺跡	北区長尾町	神戸市教育委員会	3,240㎡ 1,980㎡ 336㎡	元.4.17～元.10.9 元.16.7～元.10.31 元.9.8～元.10.19	古墳～近世 住居址・ 埴輪土・土坑・穴溝・ 木棺墓・ピット	室岡 徹 藤本 龍
35	〃	神川遺跡	北区淡河町	神神戸市 スズノブ教育公社	80㎡	元.12.15～元.12.16	試掘調査 埋蔵文化財なし	谷 正俊
36	遺跡発掘事業 (文化庁補助)	淡河川中遺跡	〃	〃	40㎡	元.12.18～元.12.20	奈良時代埋蔵物・ 土坑・ピット	〃
37	共同住宅建設事業 (文化庁補助)	郡家遺跡(篠ノ坪地区)	東灘区御影町	神戸市政府委員会	10㎡	元.7.17～元.7.18	弥生～古墳時代前期	岡藤 宏
38	〃	榎・光田町遺跡	中央区夙川町	〃	170㎡	元.4.11～元.4.28	弥生時代土坑・ピット 中世銅杖遺跡	藤岡 誠(国史館奈良史学センター) 藤岡 誠(国史館奈良史学センター)
39	〃	篠原遺跡	灘区篠原中町	〃	871㎡	元.5.19～元.5.27	縄文～中世前期土器	竹田泰明 藤岡 誠
40	本堂様水汲遺跡 (文化庁補助)	如政寺遺跡	西区塚本町	〃	51㎡	元.5.18～元.6.3	鉄器調査 下層遺構確認	奈良代巻 横田謙吉
41	土地区画整理事業 (文化庁補助)	八多中遺跡	北区八多町	〃	208㎡	2.1.26～2.3.9	鉄器調査 平安～鎌倉時代土器	高田巧次 西安 泰正
42	共同住宅建設工事	福ノ坂遺跡	灘区高野ノ尾ノ坂	〃	—	2.1.19～2.3.31 次年年度調査継続	遺構～穴探査作業	藤岡 誠
43	〃	森上町遺跡	東灘区森上町	〃	1,300㎡	元.4.4～元.5.15 元.6.25～元.11.26	弥生～古墳時代集落址 鉄器時代土坑	竹田泰明 藤岡 誠
44	〃	五色塚古墳	灘小區五色山	〃	46㎡	元.4.17～元.4.20	試掘調査 調査区域探査	山本謙和
45	〃	郡家遺跡(大島地区)	東灘区御影町	〃	80㎡	元.5.15～元.5.31	弥生時代後期 平安時代土坑・ピット	山本謙和 河部敏生
46	〃	山音遺跡	中央区南野町	〃	330㎡	元.9.11～元.11.1	奈良時代～中世 溝 6,7世紀以降土器	丸山 泰 松村英典
47	〃	熊内遺跡	中央区西園瀬	〃	172㎡	2.2.26～2.3.2	弥生時代後期住居址 土坑・溝	〃
48	〃	森崎町中遺跡	東灘区森崎中町	〃	250㎡	元.6.6～元.6.22	平安時代後期土器 弥生～中世遺物包含層	竹田泰明 藤岡 誠
49	〃	百本女塚古墳	灘区部通	〃	110㎡	元.11.27～元.12.13	古墳調査 中世遺物の包含層	岡藤 宏
50	用地造成工事 保存のための試掘	西脇山遺跡	北区山山町	〃	200㎡	元.6.29～元.7.12	平安～鎌倉時代礎石 ピット	山本謙和 河部敏生
51	農協新築工事	宅原遺跡(有月地区)	北区長尾町	〃	830㎡	元.11.6～2.1.18	古墳時代住居址・溝路	丸山 泰 藤本 龍
52	テナントビル建設	戎町遺跡(第4次調査)	浪速区戎町	〃	300㎡	元.11.1～2.3.12	縄文～弥生時代住居址・ 溝路・住居址・土器調査	山本謙和 河部敏生
53	店舗兼マンション 建設	戎町遺跡(第3次調査)	〃	〃	130㎡	2.3.13～2.3.31 次年年度調査継続	弥生時代中前期ピット 古墳時代前期ピット	〃
54	会社ビル建設工事	本山遺跡	東灘区本山山町	〃	1,520㎡	元.11.13～2.3.31	弥生時代自然坑跡 銅鐻銅鏡	竹田泰明 藤岡 誠
55	商業新築物・鉄塔 建設工事	古田南遺跡	西区森友	〃	325㎡	元.7.18～元.8.9	奈良～鎌倉時代遺物 包含層	山本謙和 河部敏生
56	占 塚 移 葬	入王山S号墳	西区北野町	〃	—	—	—	—
57	東宮住宅建設事業	河江北山遺跡	東灘区河江北町	兵庫県教育委員会	1,572㎡	元.7.20～元.10.13	弥生時代後期 土坑・ 弥生住居址・溝路・ 中世～近世 耕作痕	村上賢治 藤山 淳 伊栗昭光
58	土地区画整理事業	玉津田中遺跡	西区玉津町	〃	10,649㎡	元.8.7～2.3.20	弥生時代中前期住居址 水田址・溝	大平 茂・藤田孝之 中川 洋・藤岡 誠 多岐茂史
59	国 道 拡 充 事 業	玉津田中遺跡	〃	〃	500㎡	2.1.16～2.1.17	ピット	大平 茂
60	商業大学建設事業	古田南遺跡	〃	〃	1,444㎡	元.7.4～元.7.31 2.1.18～2.3.20	溝・ピット	山口和彦・岡崎正徳 藤岡 誠
61	河川改修事業	西川原遺跡	〃	〃	527㎡	元.12.6～元.12.14	遺物包含層	藤岡 誠・久保弘幸
62	用地造成工事	下大谷古墳群・田崎古墳群 志保台上墓	西区平野町	〃	450㎡	2.2.6～2.3.25	古墳時代前期古墳 弥生時代初期土器	小山島人・村上幸博 村上 賢治・藤岡 誠
63	河川改修事業	武石遺跡	北区長尾町	〃	45㎡	元.11.27～元.11.29	ピット	藤岡 誠 久保弘幸
64	山陽自動車道路建設	Nd11地点	北区淡河町	〃	108㎡	2.2.22～2.2.27	埋蔵文化財なし	岡田幸一・山下史朗 藤岡 誠・中村 弘 多岐茂史

平成元年度埋蔵文化財発掘調査一覧表(事業別)

番号	事業名	遺跡名 (地点名)	所在地	調査主体	調査面積	調査期間	内容	調査担当者
65	山南自動車道建設	No63地点	北区旗河町	兵庫県教育委員会	12㎡	2.2.28～2.2.28	埋蔵文化財なし	岡田幸一 山下史郎 内藤 高 中村 弘 多賀茂雄
66	〃	No64地点	〃	〃	40㎡	2.2.28～2.3.6	埋蔵文化財なし	〃
67	〃	光通跡 No67地点	〃	〃	80㎡	2.2.30～2.3.23	中世 ビット・溝	〃
68	〃	No77地点	〃	〃	52㎡	2.3.14～2.3.16	埋蔵文化財なし	〃
69	〃	No78地点	〃	〃	8㎡	2.3.14～2.3.14	埋蔵文化財なし	〃
70	〃	No80地点	〃	〃	8㎡	2.3.14～2.3.14	埋蔵文化財なし	〃
71	〃	ココノ木城址No94地点	北区八多町	〃	540㎡	2.3.14～2.3.23	中世 山城址?	〃
72	〃	No98地点	〃	〃	16㎡	2.3.13～2.3.13	埋蔵文化財なし	〃
73	〃	清水廻り遺跡No106地点	〃	〃	64㎡	2.3.13～2.3.13	中世 ビット・土坑	〃
74	〃	八多中遺跡 No110地点	〃	〃	26㎡	2.2.26～2.3.9	古墳→中世 集落址	〃
75	市街地再開発事業	笠井遺跡	中央区笠井通	笠井遺跡調査会	947㎡	2.2.13～2.3.31 次年年度継続	縄文後期～弥生時代前期 土坑・土坑・土坑 古墳時代瓦葺	阿部謙治
76	市営住宅建設事業	部賀遺跡	西区神岡町	妙見児童遊園調査会	410㎡	元.6.15～元.10.31	弥生時代前期瓦葺 弥生→古墳時代瓦葺 奈良～鎌倉時代瓦葺	徳原多喜雄
77	住宅地区整備事業	狩口台遺跡	北区狩口台	〃	3,500㎡	元.9.2 ～2.5.31	弥生時代住居址 雑物址	真野 修
78	市街地再開発事業	熊水・日向遺跡	熊水 区 大ノ下町・神田町	妙見山麓遺跡調査会	516㎡	2.1.10～2.3.31 次年年度継続	中世ビット・土坑 近世貯蔵庫	神崎 勝
79	道路拡張工事	好田遺跡	熊水区好田通	好田遺跡調査会	440㎡	2.1.18～2.2.8	鎌倉時代土坑・土坑 土坑・土坑	阿部謙治
80	〃	部賀遺跡(城ノ前地区)	東灘区部賀町	部賀遺跡調査会	3,200㎡	2.1.17～2.5.11 次年年度継続	中世石段跡	高山正久
81	道路建設事業	上小水山遺跡	北区八多町	上小水山遺跡調査会	880㎡	元.4.1 ～元.4.20 先年度継続	雑物・土坑探掘・近 世水田址	藤井利幸
82	園地整備事業	神出遺跡	西区神出町	妙見山麓遺跡調査会	2,028㎡	元.4.17～元.10.19	平安時代・土坑・掘土 式・遺物・土坑	神崎 勝
83	〃	長谷遺跡	西区長谷町	神戸女子大学遺跡調査会	323㎡	2.3.5～2.3.31 次年年度継続	古墳時代瓦葺・土坑	藤井利幸
84	〃	下上津遺跡	北区長坂町	妙見山麓遺跡調査会	3,730㎡	元.11.1～2.5.7 次年年度継続	中世瓦・奈良時代瓦葺	徳原多喜雄
85	〃	旗河町中津遺跡	〃	中津遺跡調査会	6,412㎡	元.10.20～2.2.21 次年年度継続	平安～鎌倉時代瓦葺 式・土坑	村尾成人
86	事務所建設工事	本山遺跡	東灘区本山町	本山遺跡調査会	1,700㎡	元.11.6～2.4.9 先年度継続	古墳～平安時代土坑・ 溝・土坑	吉川真彦
87	レジャー施設建設	居住遺跡	西区上津町	居住遺跡調査会	1,162㎡	元.8.10～2.1.16	中世瓦葺・溝 平安～鎌倉時代瓦	阿部謙治
88	教会・共同住宅建設工事	部賀遺跡(新部町地区)	東灘区新部町	〃	735㎡	元.6.1～元.11.30	古墳時代土坑・土坑・ 土坑・土坑 平安時代土坑	藤井利幸
89	共同住宅建設工事	心木遺跡	北区心木町	〃	1,430㎡	元.6.20～元.8.19	奈良時代瓦葺・ビット・溝	真野 修
90	〃	赤松河遺跡	東灘区河津	赤松河遺跡調査会	600㎡	元.8.1～元.10.14	弥生～古墳時代土坑・ 土坑・土坑 溝	村尾成人
91	〃	岡本遺跡	東灘区岡本	六甲山麓遺跡調査会	997㎡	元.8.1～元.11.27 先年度継続	弥生～古墳時代瓦葺 土坑・土坑	根木 久
92	〃	森北河遺跡	東灘区森北町	太子聖女子大学内 森北河遺跡調査会	800㎡	元.3.17～元.7.31	古墳時代土坑・土坑 奈良時代瓦葺	川口宏倫
93	〃	森北河遺跡	〃	〃	140㎡	元.9.8 ～元.10.24	古墳時代土坑 中・瓦葺	〃
94	〃	本山遺跡	東灘区本山町	妙見山麓遺跡調査会	600㎡	2.1.16～2.1.25	鎌倉時代瓦葺・土坑 奈良～近代瓦葺	神崎 勝
95	〃	舞子家ヶ谷遺跡	平水区舞子坂	舞子ヶ谷遺跡調査会	830㎡	元.12.1～2.1.27	土坑・溝・ビット	藤井利幸
96	〃	舞板口遺跡	東灘区舞板口	妙見山麓遺跡調査会	500㎡	2.1.11～2.4.18 先年度継続	古墳時代土坑・土坑 奈良時代瓦葺	神崎 勝
97	〃	旧舞子病院内遺跡	平水区五色山	〃	1,410㎡	63.11.20～元.5.19 先年度継続	中・近世の基盤群	真野 修
98	〃	神楽遺跡	東灘区神楽町	妙見山麓遺跡調査会	400㎡	元.3.1～元.4.12 先年度継続	古墳時代瓦葺・土坑 中世ビット	神崎 勝 徳原多喜雄
99	〃	徳井町遺跡	東灘区徳井町	〃	400㎡	元.3.16～元.5.16 先年度継続	平安～鎌倉時代瓦葺 土坑	徳原多喜雄
100	〃	東川崎河遺跡	中央区東川崎町	東川崎河遺跡調査会	2,150㎡	元.8.12～元.9.5	瓦葺遺物・瓦葺 近代下水道施設	片岡 修
101	〃	東川崎河遺跡	〃	〃	3,050㎡	元.8.22～元.9.20	近世貯蔵庫	田代元巳
102	駐車場建設	〃	〃	東川崎河遺跡調査会	2,800㎡	元.6.19～元.8.5	近代下水道施設	片岡 修

平成元年度 埋蔵文化財発掘調査一覧表（本書掲載分）

番号	遺跡名	所在地	調査主体	調査面積
1	神出遺跡	西区神出町東	神戸市 スポーツ教育公社	2,320㎡
2	和田遺跡	西区押部谷町和田	〃	210㎡
3	栄遺跡	西区押部谷町栄	〃	1,280㎡
4	養田遺跡	西区押部谷町養田	神戸市教育委員会	81㎡
5	鍋谷池遺跡	西区平野町黒田	〃	3,550㎡
6	大畑遺跡	西区平野町大畑	〃	300㎡
7	玉津田中遺跡(平野地区)	西区平野町下村・福中	神戸市 スポーツ教育公社 神戸市教育委員会	1,380㎡ 500㎡
8	印路遺跡	西区平野町印路・中津	神戸市 スポーツ教育公社	890㎡
9	出合遺跡	西区平野町中津	神戸市教育委員会	1,422㎡
10	西神65地点遺跡	西区榎野台1丁目	神戸市スポーツ 教育公社	1,200㎡
11	長谷遺跡	西区榎谷町長谷	〃	1,040㎡
12	栃木遺跡	西区榎谷町栃木	〃	300㎡
13	狩口台遺跡	垂水区狩口台6・7丁目	〃	1,185㎡
14	五色塚古墳	垂水区五色山3丁目	神戸市教育委員会	40㎡
15	戎町遺跡(第4次調査)	須磨区戎町3丁目	〃	300㎡
16	戎町遺跡(第5次調査)	須磨区戎町2丁目	〃	130㎡
17	長田神社境内遺跡	長田区大塚町1丁目	〃	2,700㎡
18	三番町遺跡	長田区二番町3丁目	神戸市 スポーツ教育公社	90㎡
19	上沢遺跡	長田区6番町1丁目 7番町1丁目	神戸市 スポーツ教育公社 神戸市教育委員会	290㎡ 817㎡

調査期間	調査担当者	調査内容	備考
元.4.5～元.4.20 元.5.15～元.7.11 元.10.18～元.10.31	谷 正俊 富山 直人 浅谷 誠吾	範囲確認調査 平安～鎌倉時代 掘立柱建物址・土坑・溝 ビット・笠状遺構	
元.12.16～2.1.31	谷 正俊 浅谷 誠吾	奈良時代 土坑・溝 平安～鎌倉時代 自然流路・ビット	
元.5.8～元.5.10 元.10.4～元.11.25	〃	古墳時代 土坑・溝・自然流路 平安～室町時代 土坑・溝・掘立柱建物址	
元.4.5～元.4.13	佐伯 二郎 橋詰 清孝	中世遺物包含層 平安～鎌倉時代 溝・ビット	
元.4.10～元.7.6 元.8.17～元.8.25	丸山 潔 松林 宏典	弥生時代 土坑・ビット・地山整形遺構	
元.6.6～元.8.9	東 喜代秀	弥生時代の洪水砂から多量の土器が出土 中世の溝・土坑・ビット	
元.10.17～元.12.27 2.1.17～2.3.16	口野 博史 富山 直人 山口 英正	弥生時代後期 竅穴住居址・土坑 古墳時代 竅穴住居址・溝 平安～鎌倉時代 ビット・溝	
元.10.16～2.1.12	池田 毅	縄文時代後期 土坑 弥生～古墳時代 水田址 古墳時代 溝	
元.4.3～元.10.7	黒田 恭正 東 喜代秀	弥生時代中期 水田・水路・柱穴	
元.7.7～元.7.31	口野 博史 富山 直人	弥生時代 土坑・焼土坑・地山整形遺構	
元.9.4～元.10.17 元.12.16～2.2.6	菅本・口野 富山・内藤	弥生時代 土坑・ビット 中世 ビット・溝	
元.11.27～元.12.15	谷 正俊 浅谷 誠吾	古墳時代後期 土坑・ビット 平安時代 焼土坑・溝・ビット	
元.4.1～元.4.13 元.8.8～元.10.2	菅本・谷 松林・浅谷	弥生時代 竅穴住居址・土坑・溝・ビット	
元.4.17～元.4.20	山本 雅和	周溝の肩部・埴輪片	
元.11.1～2.3.12	山本 雅和 阿部 敬生	縄文時代晩期～弥生時代前期の自然流路 弥生時代中期 竅穴住居址・土器棺墓	
2.3.13～2.3.31	〃	弥生時代中期 落ち込み・ビット 庄内期～布留期 落ち込み・ビット	2年度へ 継続調査
元.6.4～2.2.10	西岡 誠司 佐伯 二郎 橋詰 清孝	弥生時代後期 竅穴住居址 古代末期～中世初頭 水田址 中世 掘立柱建物址・井戸	63年度～ 継続調査
元.7.12～元.8.4	谷 正俊 浅谷 誠吾	古墳時代後期 自然流路・ビット・土坑・溝	
元.8.1～元.8.31 元.3.1～元.10.24	口野・富山 西岡・山本 佐伯・阿部	縄文時代晩期～弥生時代前期 自然流路 弥生時代後期～古墳時代後期 土坑 古墳時代～中世 ビット・溝	

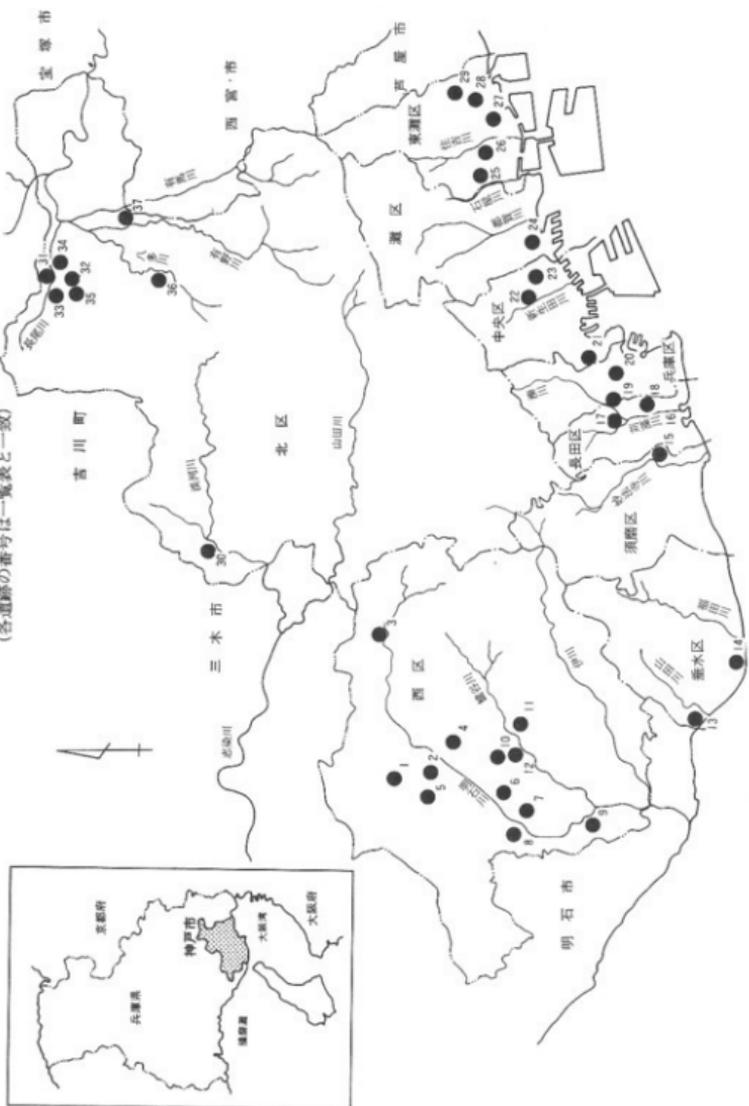
平成元年度 埋蔵文化財発掘調査一覧表（本書掲載分）

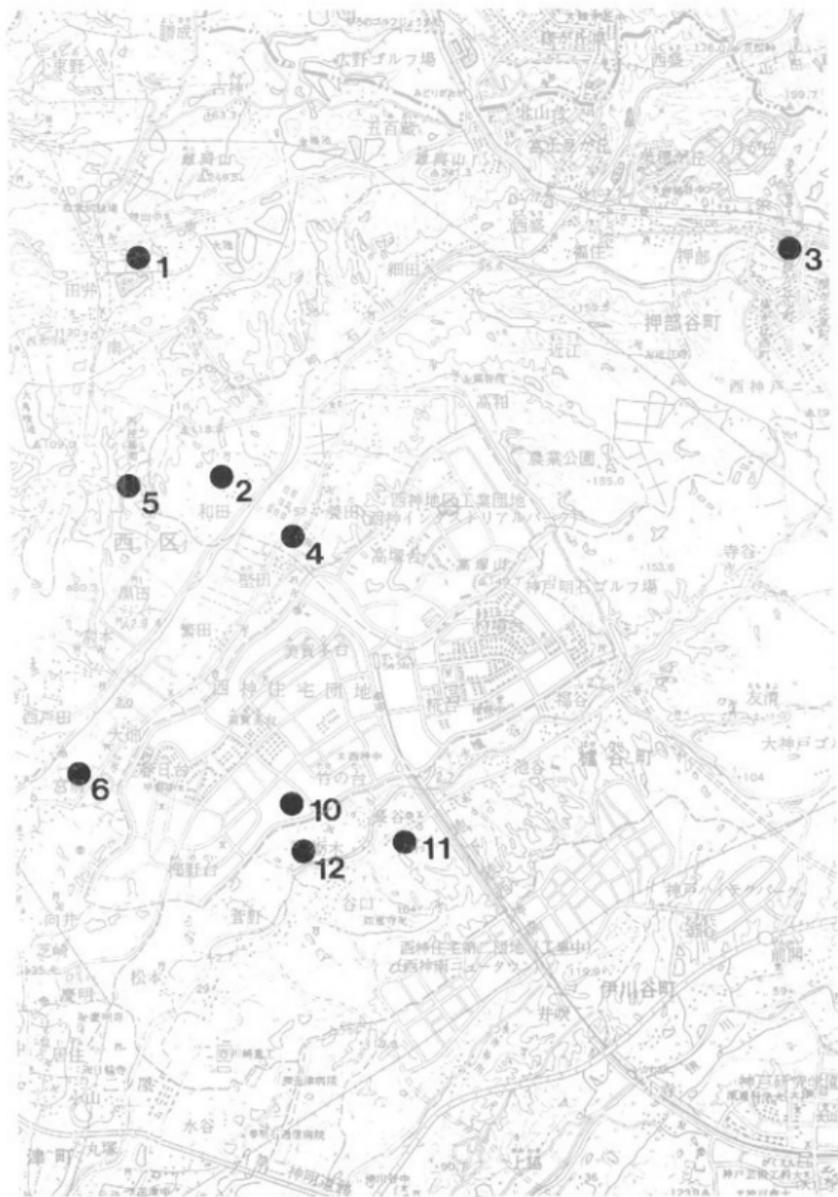
番号	遺跡名	所在地	調査主体	調査面積
20	大開遺跡	兵庫区大開通4丁目	神戸市教育委員会	1,590㎡
21	楠・荒田町遺跡	中央区橋通3丁目	神戸市スポーツ教育公社	1,900㎡
22	熊内遺跡	中央区熊内橋通6丁目	神戸市教育委員会	172㎡
23	日暮遺跡	中央区筒井町3丁目	〃	530㎡
24	西求女塚古墳	灘区都通3丁目	〃	110㎡
25	郡家遺跡（大蔵地区）	東灘区御影町郡家字大蔵	〃	80㎡
26	住吉宮町遺跡	東灘区住吉東町5丁目	神戸市スポーツ教育公社	165㎡
27	魚崎中町遺跡	東灘区魚崎中町1丁目	神戸市教育委員会	250㎡
28	本山遺跡	東灘区本山南町8丁目	〃	1,520㎡
29	森北町遺跡	東灘区森北町4丁目	〃	1,300㎡
30	淡河中村遺跡	北区淡河町淡河	神戸市スポーツ教育公社	40㎡
31	宅原遺跡（有井地区）	北区長尾町宅原	神戸市教育委員会	830㎡
32	宅原遺跡（豊浦地区）	北区長尾町宅原	〃	3,240㎡
33	下上津遺跡（神子田地区） 宅原・上津桑里遺構	北区長尾町宅原・上津	〃	1,080㎡ 330㎡ 60㎡
34	宅原遺跡（内垣地区）	北区長尾町宅原	神戸市スポーツ教育公社	540㎡
35	北神ニュータウン内遺跡 （宅原・上天神地区）	北区長尾町宅原	神戸市教育委員会	2,000㎡
36	上小名田遺跡	北区八多町上小名田	神戸市スポーツ教育公社	5,140㎡
37	下二郎遺跡	北区有野町二郎	神戸市教育委員会 神戸市スポーツ教育公社	130㎡ 150㎡

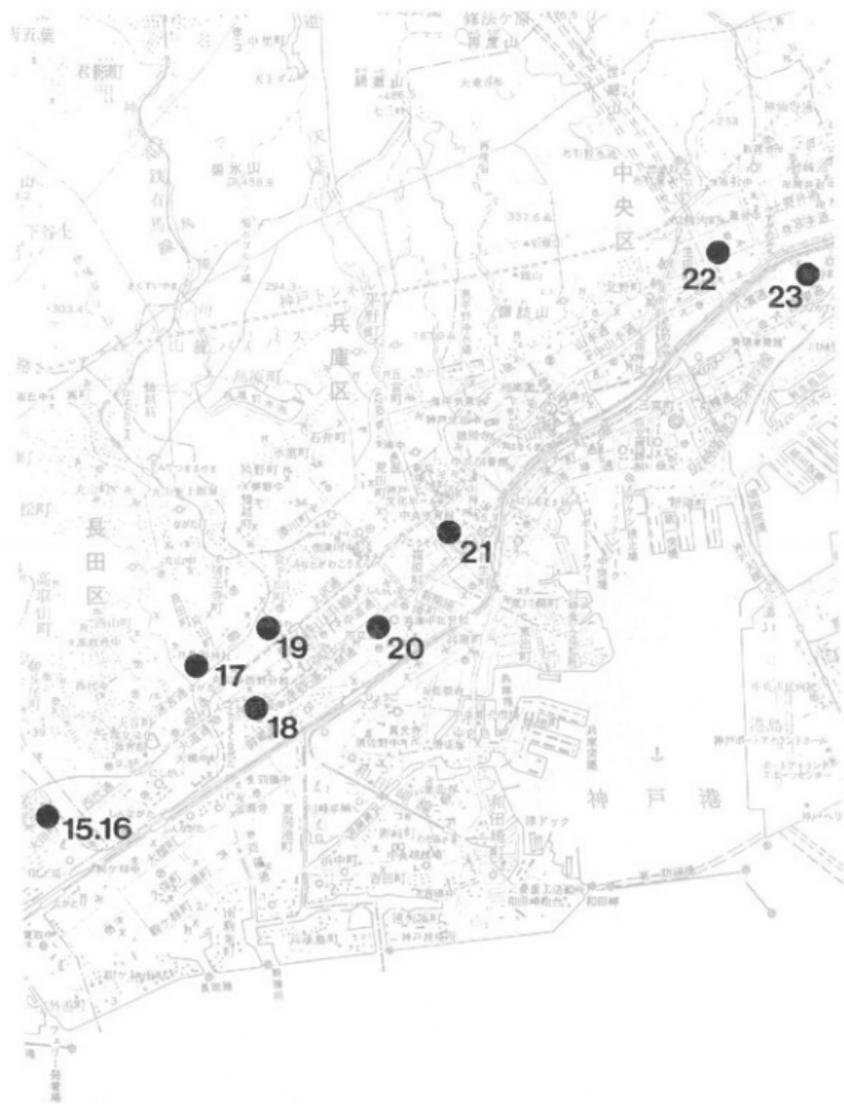
調査期間	調査担当者	調査内容	備考
63.8.1～元.4.30	前田 佳久 内藤 俊哉	縄文時代晩期 土坑・自然流路 弥生時代前期 環濠集落	63年度～ 継続調査
元.9.18～元.12.16	菅本 宏明 池田 毅 橋詰 清孝	古墳時代前期 土坑 平安時代後期～鎌倉時代 溝	
2.2.20～2.3.2	丸山 滋 松林 宏典	弥生時代後期 竪穴住居址・土坑・ピット	
元.9.11～元.11.1	//	奈良時代～中世 ピット・溝 6～7世紀掘立柱建物址, 近世 井戸	
元.11.27～元.12.13	須藤 宏	古墳周障? 中世 遺物包含層	
元.5.15～元.5.31	山本 雅和 阿部 敬生	弥生時代中期末～後期後半 自然流路 平安時代前期 土坑・ピット	
元.12.18～2.3.16	橋詰 清孝	古墳時代後期 古墳・竪穴住居址・掘立柱建物址 奈良～平安時代後期 掘立柱建物址	
元.6.6～元.6.22	丹治 康明 須藤 宏	弥生時代～中世 遺物包含層 11世紀 掘立柱建物址	
元.11.13～2.3.31	//	弥生時代 自然流路・土器群・銅鐸埋納坑	2.2.4 現地説明会
元.4.4～元.5.15 元.6.26～元.11.26	//	弥生時代～古墳時代中期 集落址・流路 飛鳥時代 水田	元.11.5 現地説明会
元.12.18～元.12.20	谷 正俊	奈良時代 掘立柱建物址・土坑・ピット	
元.11.6～2.1.18	安田 滋 斎木 巖	古墳時代前期～中期 竪穴住居址 古墳時代前期～中期 自然流路	
元.4.17～元.10.31	//	古墳時代中期 竪穴住居址 奈良時代～鎌倉時代 大溝・木棺墓 近世 竪穴状建物址	
元.9.8～元.10.19 元.9.25～元.10.4	安田 滋 斎木 英正 山口 英正	平安時代末～鎌倉時代 土坑・溝・ピット 中世 桑里水田・溝・畦畔 //	
元.8.1～元.10.5	菅本 宏明 池田 毅 橋詰 清孝	中世 ピット群 古墳時代 土坑・溝	
元.10.10～元.11.30	黒田 恭正 東 喜代秀	奈良時代～平安時代 土坑 時期不明 土坑	
元.4.3～元.8.4	菅本・富山 池田・橋詰	平安時代中葉～鎌倉時代初頭の集落址	62年度～ 継続調査
元.4.26～元.5.10 元.8.4～元.8.28	山本 雅和 阿部 敬生 池田 毅	弥生時代後期～中世 遺物 古墳時代後期 ピット・土坑墓	

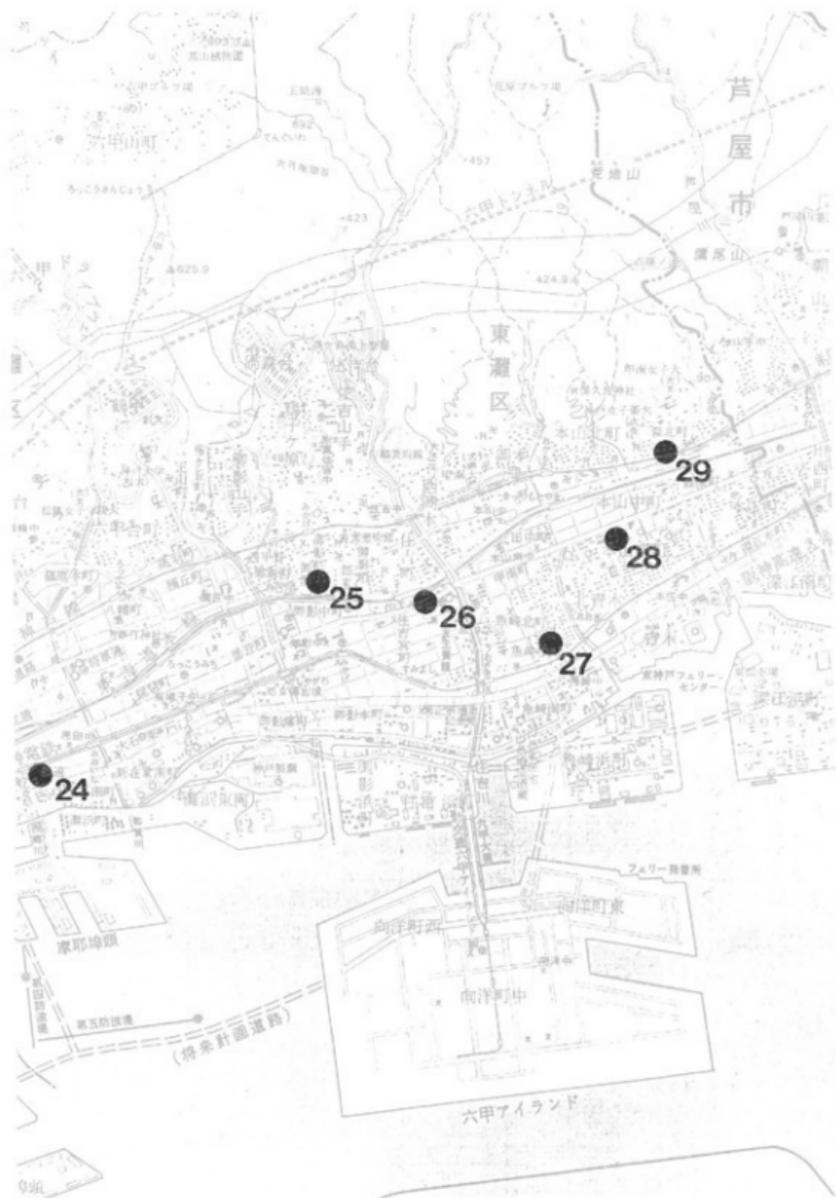
平成元年度 神戸市埋蔵文化財調査地位位置図

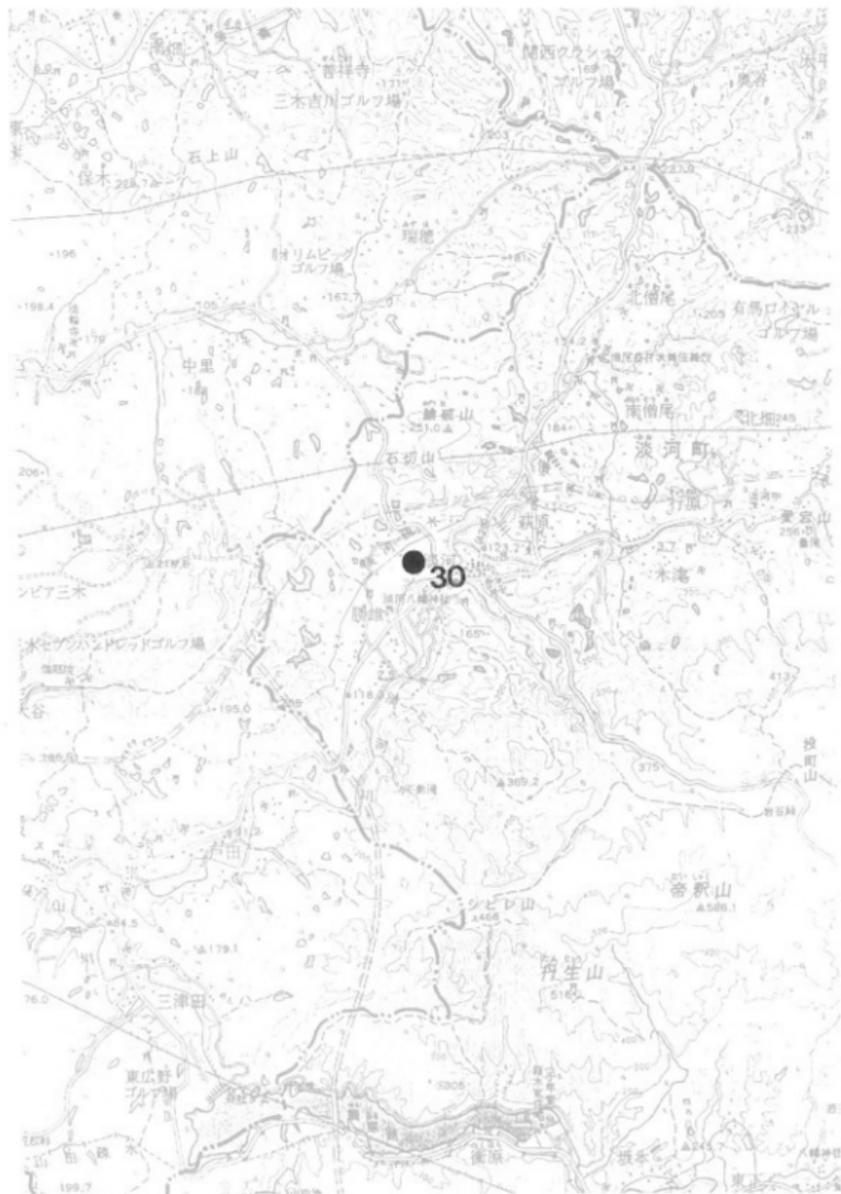
(各遺跡の番号は一覧表と一致)

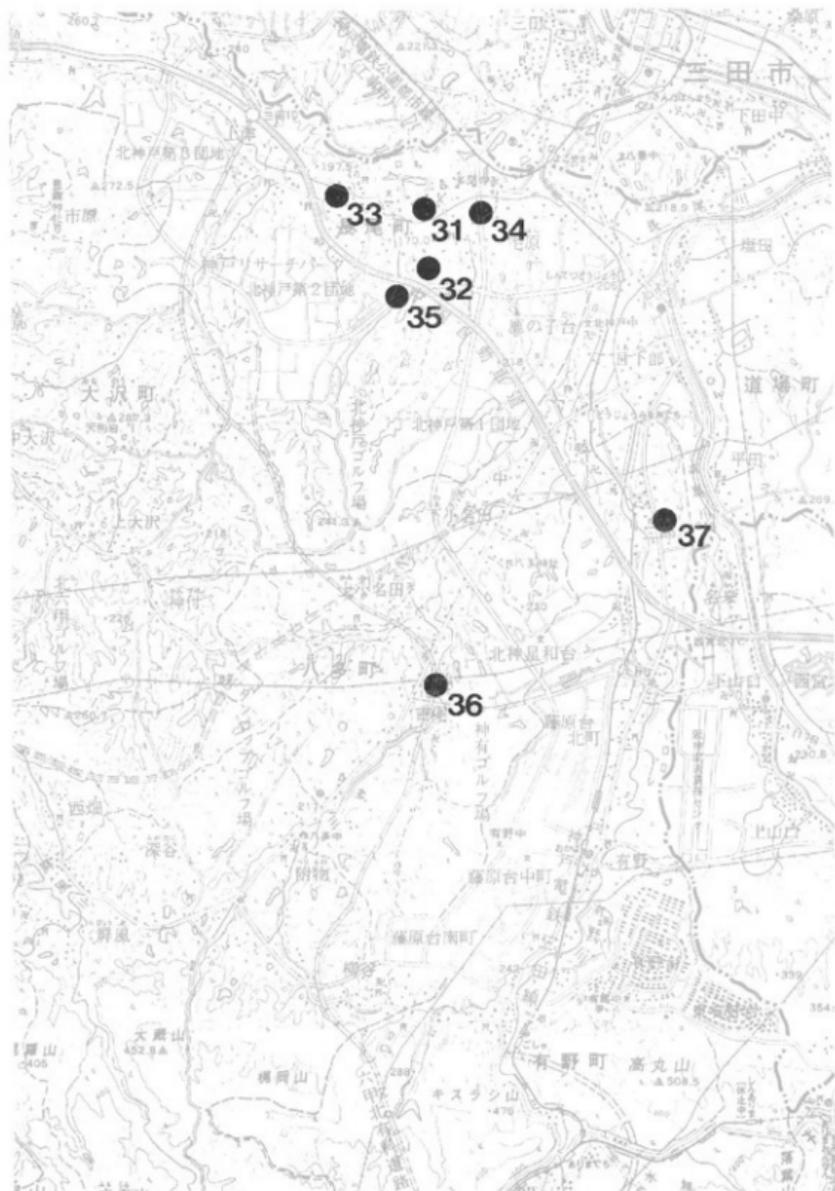












II. 平成元年度の発掘調査

1. 神出遺跡

1. はじめに 神戸市西区神出町一帯は、昭和56年より土地改良事業に伴う発掘調査によって、継続的に調査が行われ、竪穴、粘土採掘坑、柱穴群、土坑、溝、墓址等多くの遺構や遺物が確認されている。今回の発掘調査対象地は工事区分では東7工区（約15ha）にあたり、神出中学校の南側から中ノ池の北側に位置する。

神出古竪穴群は、印南野台地東端にある雄岡山、雌岡山という標高200m台の独立丘を中心とした洪積世高位段丘に立地する。周辺では先土器時代～弥生時代にかけての石器が採集されているが、当時の集落址等は確認されていない。また、段丘縁辺部には後期古墳が点在している。

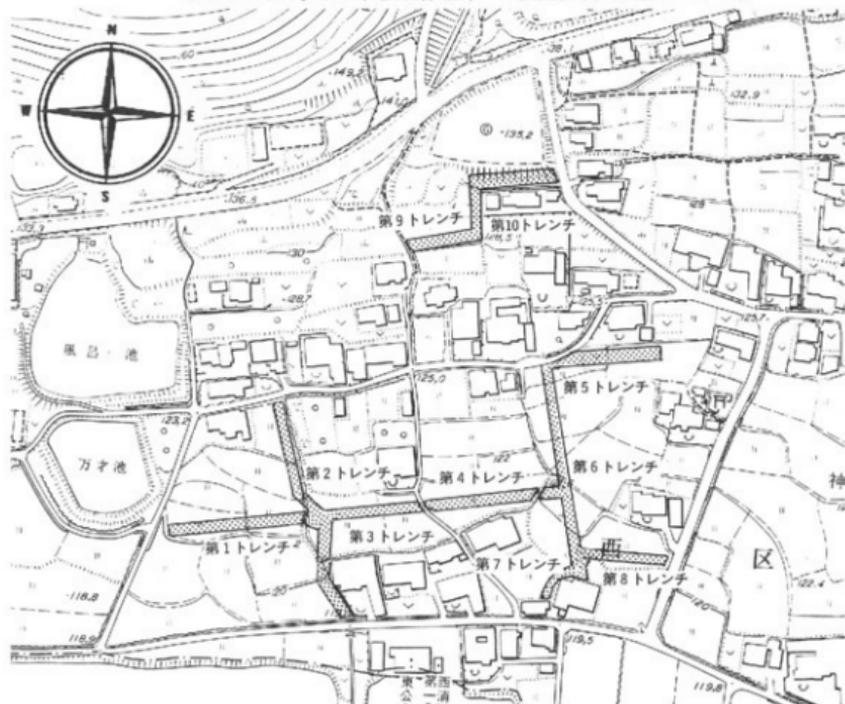


fig. 1 調査地位圖 S = 1 : 3000

2. 調査の概要 約15haの工事施工区域内で、掘削によって遺跡の破壊が免れない排水路とパイプライン部分約3800㎡について、約1720㎡を財団法人神戸市スポーツ教育公社が調査を実施した。

調査は平成元年5月15日～7月11日、平成元年10月18日～10月31日の2回に分けて実施した。

調査区については排水路、パイプラインの施工部分を第1～10トレンチに区分した。

第1トレンチ 調査区の西端に位置する幅約2.5m、長さ約67mのトレンチである。ピット、土坑、溝がトレンチのほぼ全域で多数確認された。

基本層序 現地表面は耕作土層が厚さ約0.2～0.3m堆積し、以下には、黄灰褐色細砂層(床土)、淡灰褐色細砂層、暗灰色細砂層(遺物包含層)、黄褐色シルト混じり細砂層(地山、遺構検出面)が堆積する。現地表面から遺構検出面までの深さは、約0.5～0.7mとなる。

主な遺構 第1トレンチでは、柱穴が並ぶ部分について一部拡張を行った結果、3棟の掘立柱建物址が確認された。

SB01 東西方向4間、南北方向4間以上の規模をもつ掘立柱建物址である。柱間距離は、約1.9m～2.7mである。柱掘形の大きさは0.4～0.5mのものが多く、西端と南端のものは、0.2m程度であり、庇の柱の可能性がある。

SB02 東西方向3間、南北方向2間以上の規模をもつ掘立柱建物址である。柱間距離は、約2.1m～2.4mである。

SB03 東西方向6間、南北方向3間以上の規模をもつ掘立柱建物址である。柱間距離は、約1.7m～2.2mである。

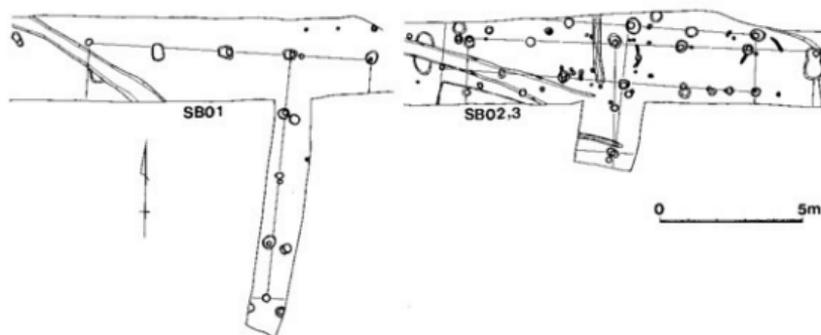


fig. 2 第1トレンチSB01・02・03平面図

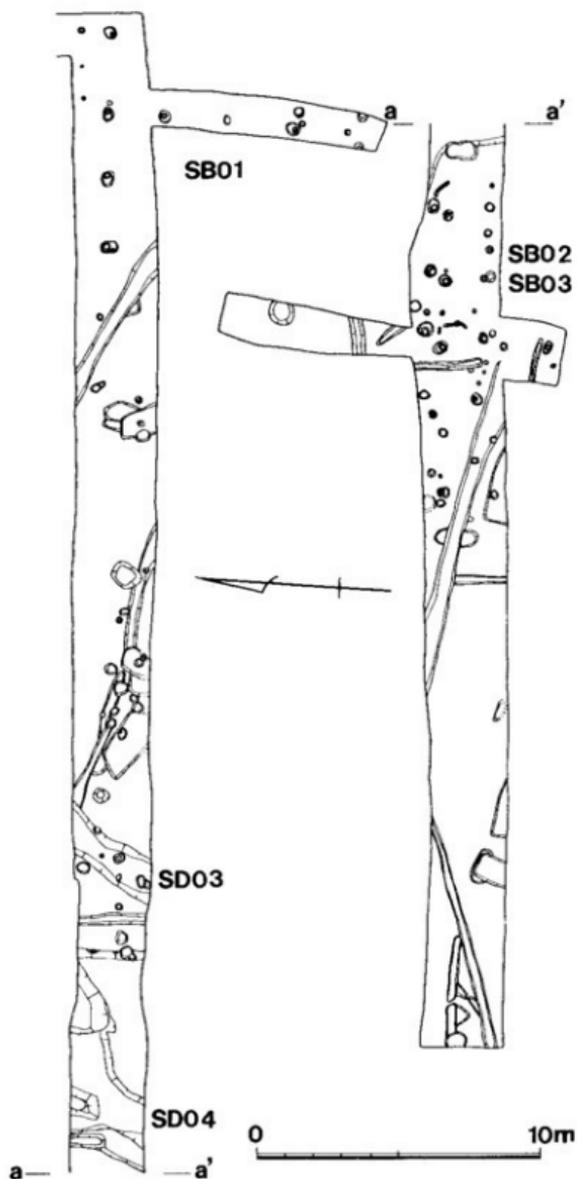


fig. 3
第1トレンチ平面図

SD03 幅約1.3m、検出長約5m、深さ約0.1mの溝である。溝内には灰色シルト層が堆積している。底面から遊離した状態で須恵器、土師器が多く出土した。

SD04 幅が南端では2.3m、北端では7mとY字状に広がり、北東部は深く落ち込む部分がある。上層には灰褐色極細砂、下層には暗灰褐色細砂混じりシルトが堆積し、深く落ち込む部分には暗灰色シルトが堆積している。遺物は上、下層ともに大量に出土しているが、落ち込む部分からの出土は少量であった。出土遺物は須恵器、土師器、青・白磁、瓦等であるが、出土量は多いにもかかわらず、他の破片と接合が困難なものが大半を占めた。

第2トレンチ 第1トレンチとほぼ直交する幅約2m、長さ約120mの現用の水路に沿った調査区である。第1トレンチと交わる地点から北側は遺物包含層およびピット3基、溝2条が確認されたのみであった。また南端部でピット、溝が検出された。ピットの中には柱痕を残すものもあったが、掘立柱建物址としての柱穴のまともりは確認できなかった。



fig. 4 第2トレンチ南半（北から）

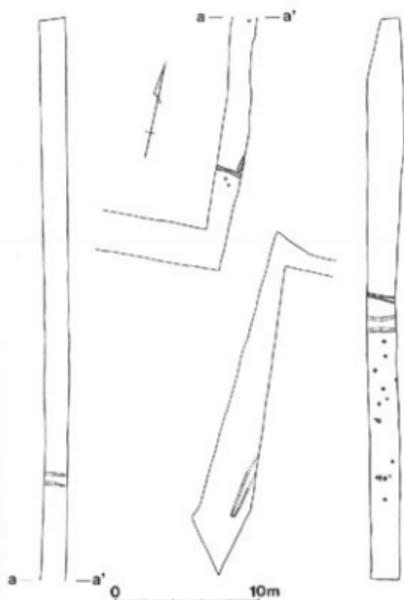


fig. 5 第2トレンチ平面図

第3トレンチ 第2トレンチとほぼ直交する幅約1m、長さ約50mの調査区である。ここでは一部で遺物包含層がみとめられたが、トレンチの設定された部分が尾根筋にあたり、後世の開墾によって原地形が改変を受け、遺構は確認されなかった。

第4トレンチ 第3トレンチと同一方向に里道を挟んで延びる幅約2.5m、長さ約80mの調査区である。トレンチ内からはピット、土坑、溝が中央やや西寄りで集中して確認された。

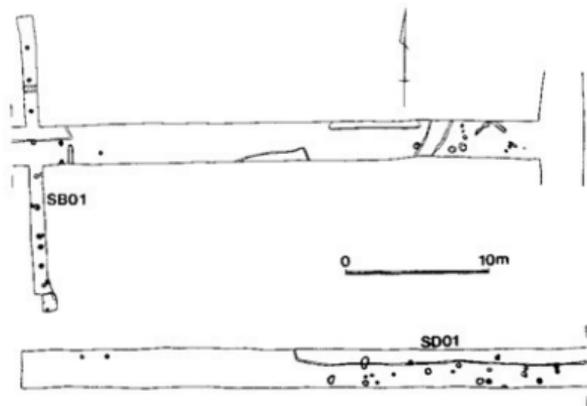


fig. 6

第4トレンチ平面図

主な遺構 東西方向4間、南北方向7間の掘立柱建物址で、今回の調査でもっとも大規模な建物である。柱間距離は、約1.4m～3.2mと不揃いである。また、このトレンチは遺構面の遺存度が悪く、柱穴の掘形の深さは約0.2～0.3m程度である。

SB01

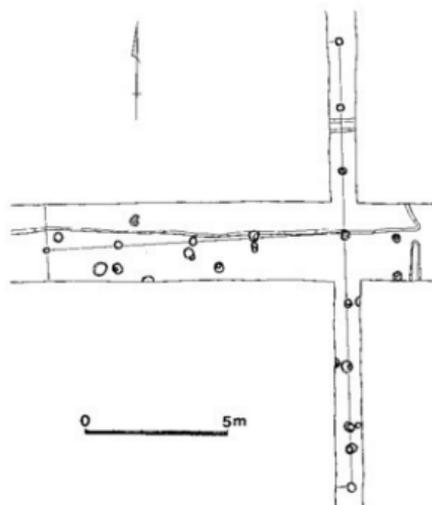


fig. 7

第4トレンチSB01平面図

SD01 検出幅約1.2m、検出長約24m、深さ0.1mの浅い溝である。溝内は灰色細砂層が堆積している。底面および堆積土より須恵器、土師器が出土した。

第5トレンチ 後述の第6トレンチの北端で鉤形に東へのびる幅約3m、長さ約53mのトレンチで、西半分では遺構の密度は疎であり、小さなピットが確認されただけである。東半では、近世以降の暗渠によって大きく攪乱をうけていたが、溝、ピットが多く検出された。

SD02 検出幅約2.2~2.6m、検出長約2.4m、深さ約0.2~0.3mの溝である。溝は流れを何度か変えたらしく、島状に高くなった部分が残されている。溝内には黄灰~灰褐色極細砂(細砂)層が堆積している。北西端で須恵器、瓦が底面からやや遊離した状態で出土した。



fig. 8 第5トレンチ全景(西から)

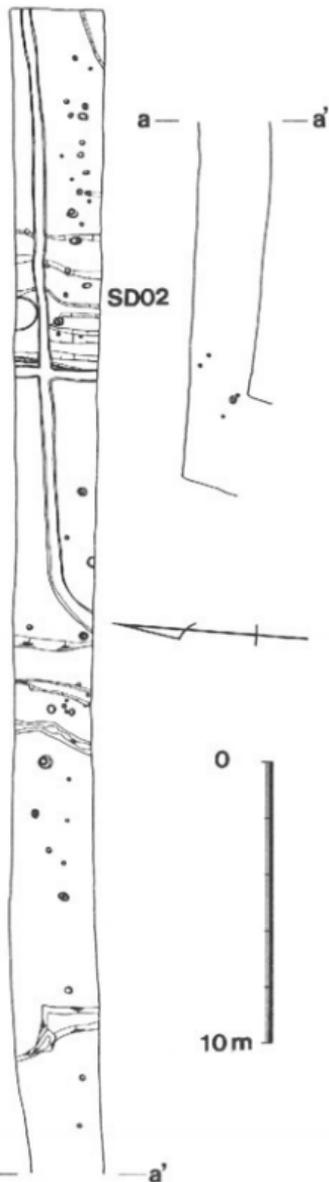


fig. 9 第5トレンチ平面図

第6トレンチ 第5トレンチの西端で南北に折れる幅約3m、長さ約100mの調査坑である。トレンチ内からは、掘立柱建物址1棟、窯状遺構1基、土坑、ピット、溝状遺構多数を検出した。

SB01 トレンチ中央やや北よりに位置する梁行2間、桁行4間、南北棟総柱の掘立柱建物址で、柱間距離は、梁行が2.3~2.6m、桁行が2.2~2.5mである。柱穴埋土内からは、須恵器の塊等が出土した。

SK03 第6トレンチが第4トレンチと交差するやや南側で、土坑SK03を検出した。これは、長径約0.6m、短径約0.4m、深さ約0.1mの楕円形の土坑で、溝SD01と東端が重複している。中からは須恵器の瓦、坏、鉢等の破片が折り重なって出土した。しかし、これら破片相互の接合はほとんど不可能で、別の場所で破片となった土器を一時に投棄したものと考えられる。

SD02 溝SD01の南側にあり、トレンチを斜めに横断する幅0.8~0.5m、検出長約5m、深さ0.05~0.1m、北西から南東にかけて流れる浅い溝である。南東端で、須恵器、土師器坏、瓦等が溝の底面に接して出土した。

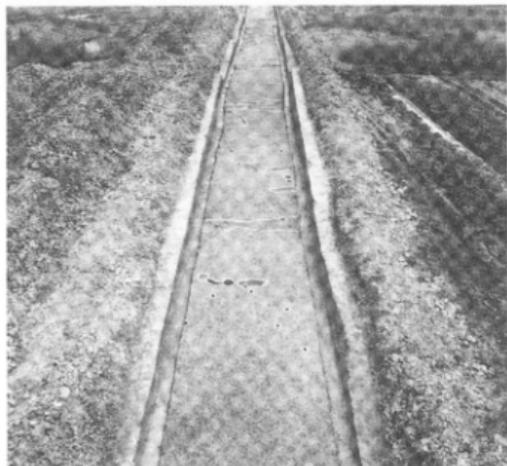


fig.10 第6トレンチ全景(南から)

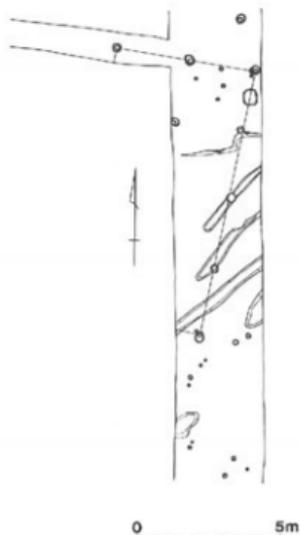
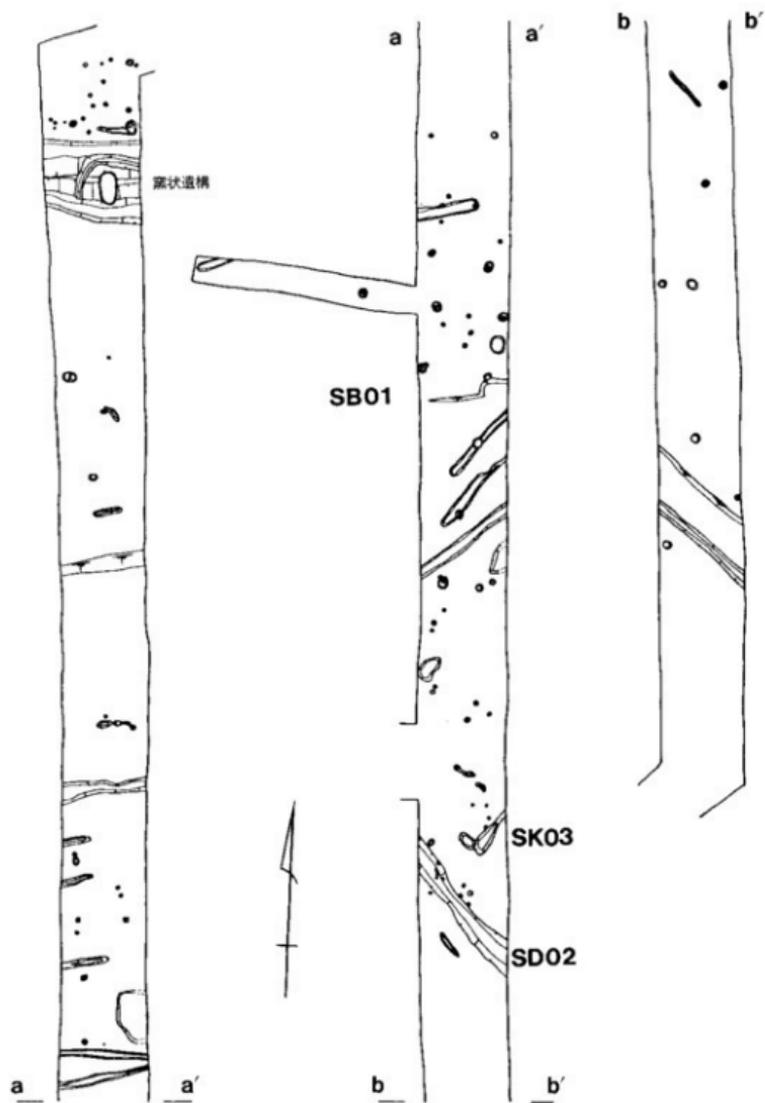


fig.11 第6トレンチSB01平面図



0 10m

fig.12 第6トレンチ平面図

窯状遺構

トレンチ北端部で、窯状の遺構が1基確認された。窯体は北から南へ緩やかに下る斜面の等高線に直交して築かれている。検出長約1.1m、最大幅約60cmで、南側が溝SD15によって削られ、消失している。斜面上方には逆L字状の溝を巡らしている。これは、斜面上方から流れてくる雨水等が直接窯体に当たらないようにする施設であろうと推定される。

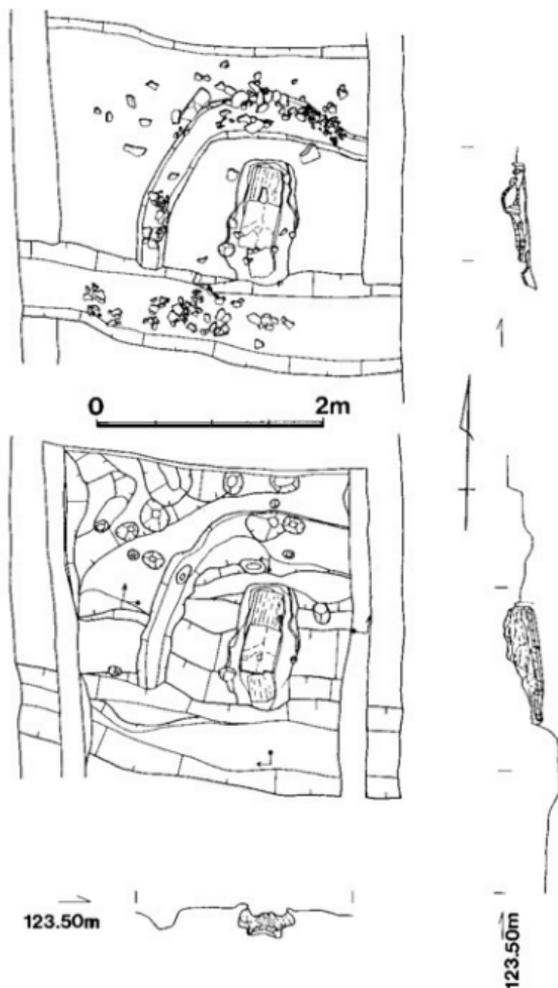


fig. 13

第6トレンチ

窯状遺構

土器出土状況図・

平面図・断面図

また窯体の構造は黄灰色極細砂層の地山を掘り窪め、掘形側面に粘土を貼りつけて一段盛り上げ、その部分から側壁を立ち上がらせている。溝SD15によって削平を受けた部分の断面を観察したが、床面に粘土を貼った痕跡は認められなかった。底面には0.3×0.4mの平瓦を凸面を表にして並べている。

奥壁部分の残存高は窯体底面から約0.15m、最大残存高は約0.25mである。窯体内部は赤色あるいは赤褐色に焼け、奥壁部分がもっとも強く被熱していた。また堆積土には窯体の崩落した粘土と共に炭が多く包含していた。床面の傾斜角度は約8度である。

この窯は南側が溝SD15によって削られているが、傾斜角度からみて、それほど南側に延びない小規模な窯であろう。付近からは灰原は確認されず、床面から土器はほとんど出土しなかった。しかし斜面上方の溝の堆積土からは、焼けた粘土、瓦とともに完形に近い土師器杯、皿等を多く確認した。これらの遺物がこの窯によって焼かれた可能性は強く、この窯が土師器の杯、皿等の小型製品を焼成する窯と考えられるが詳細は明確でない。

なお、窯の周辺および斜面上方の逆L字状の溝内からは、土師質の小壺や鉄製の紡錘車出土した。

この窯址については、現地保存することが不可能なため、調査完了後遺構の切り取り作業を行い、現地より移動した。



fig.14 第6トレンチ窯状遺構検出状況（南から）

第7トレンチ 第6トレンチ南端に接続する全長24m、幅約2mのくの字に曲がる調査坑である。この付近は開墾時に大きく削平をうけており、第6トレンチとの比高差は約1mである。このため、耕土、床土の直下で地山である明黄灰色シルト層が現れる。遺構は全く検出されず、近、現代の陶磁器、瓦等の入った攪乱坑が発見されたのみである。

第8トレンチ 第6トレンチ南端に接続し、東にのびる全長38m、幅約2mの調査区である。この付近は開墾時に削平をうけており、第6トレンチとの比高差は約0.2m程である。このため、耕土、床土の直下には部分的にしか包含層は存在せず、大半の部分で地山である明黄灰色シルト層が現れる。遺構は溝を2条検出した。トレンチの中央付近に位置し、東西に並行して走る幅約0.5m、深さ0.05~0.1mほどのものである。遺物は土師器と須恵器が出土したが、いずれも細片のため時期決定をするには至っていない。

第9トレンチ 調査区北西端に位置し、第6トレンチの北西に位置する全長24m、幅約1.5mのくの字に曲がる調査区である。第10トレンチと交わる地点から南側は一部で遺物包含層がみつめられたが、トレンチの設定された部分が尾根筋にあたり、後世の開墾によって削られ、遺構は確認されなかった。東西部分のトレンチでは遺物包含層およびピット2基が確認されたのみであった。ピットの中には柱痕を残すものもあったが、掘立柱建物址としての柱穴のまともりは確認できなかった。

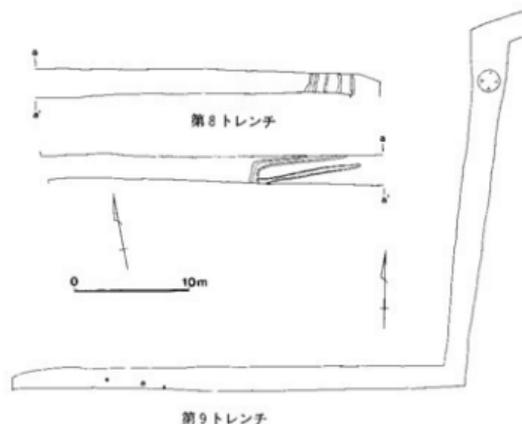


fig. 15 第8・9トレンチ平面図

第10トレンチ

第9トレンチ北端に接続し、東に延びる全長36m、幅約2mの調査区である。この付近は開墾時に大きく削平をうけており、トレンチ東端の道路付近の地山面より0.8mほど下で地山面を検出している。このため、盛土の直下で地山である明黄灰色シルト層が現れる。遺構は全く検出されず、近、現代の陶磁器、瓦等の入った攪乱坑が発見されたのみである。



fig. 16
調査区遠景
(北から)

3. まとめ

窯状遺構

この度の調査によって、中ノ池北側には、平安時代末期～鎌倉時代にけでの集落址および窯状遺構が確認された。今回第6トレンチで発見された窯状遺構については、従来神出古窯址群内で確認された中では小型の部類に入り、これと比較的規模、形状が似ているのは、昭和56年に調査された宮ノ裏支群4号窯である。これは残存長0.8m、最大幅0.5mで「ダルマ窯」の構造を有し、燃焼部が深く掘りこまれている。今回確認された遺構は、燃焼部が削られているためはっきりしないが、宮ノ裏支群4号窯と規模が似ている。しかし、この4号窯では、焚口部に燃料を燃やすための穴が掘りこまれていたのに対し、今回発見された遺構はその様な施設が確認されなかった。また、この遺構の大きさからみて、大型品を大量に焼成したとは考えられず土師器の坏、皿等の小型製品を焼成する窯とするのが、現在の段階ではもっとも妥当と考えられる。なお、この窯状遺構については不明な点が多く、本報告の際にさらに考察したい。

集落址

集落址については掘立柱建物址が5棟確認されたが、トレンチ調査のため、いずれの建物も平面的規模を明らかにすることができなかった。また調査範囲内では、建物の性格を示唆する遺構、遺物は確認できなかった。

このため、これらの建物址と窠状遺構がどのような関係にあるかは明らかにならなかった。しかし第4トレンチで、3間×7間の総柱建物址が確認されており、この建物は、他の建物と比較してとびぬけて規模が大きいところから、一般の住居とするよりも他の目的を持った建物(例えば製作工房址、製品を乾燥させる建物等)と考えたほうがよいのではないと思われる。それに加えて、掘立柱建物址付近の溝、土坑等から生焼けの土器や大寺院で用いるような瓦が多く出土し、これらの建物遺構が窯業生産と密接な繋がりがあったことは否めない事実である。

粘土採掘址

最後に粘土採掘址については、今回は全く確認されなかった。昭和63年～平成元年にかけて行った神戸市教育委員会、妙見山麓遺跡調査会の調査により、今回の調査地の東側では多くの粘土採掘坑が確認されている。何故、今回の調査区で確認されなかったのかは不明であるが、粘土採掘址と集落址との位置関係、採取される粘土の良谷等の問題があるのであろう。

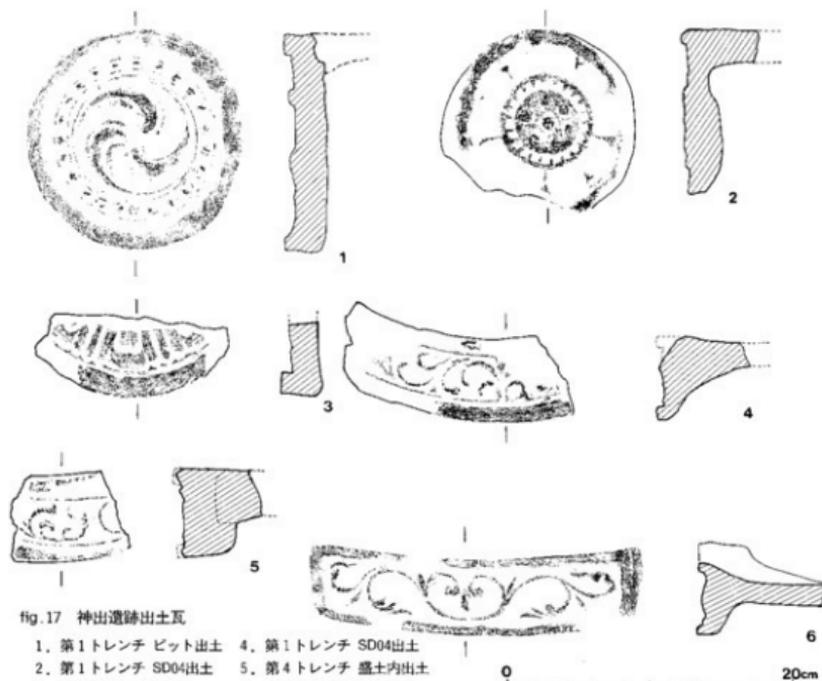


fig. 17 神山遺跡出土瓦

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 第1トレンチ ビット出土 | 4. 第1トレンチ SD04出土 |
| 2. 第1トレンチ SD04出土 | 5. 第4トレンチ 盛土内出土 |
| 3. 第6トレンチ 溝出土 | 6. 第1トレンチ SD04出土 |

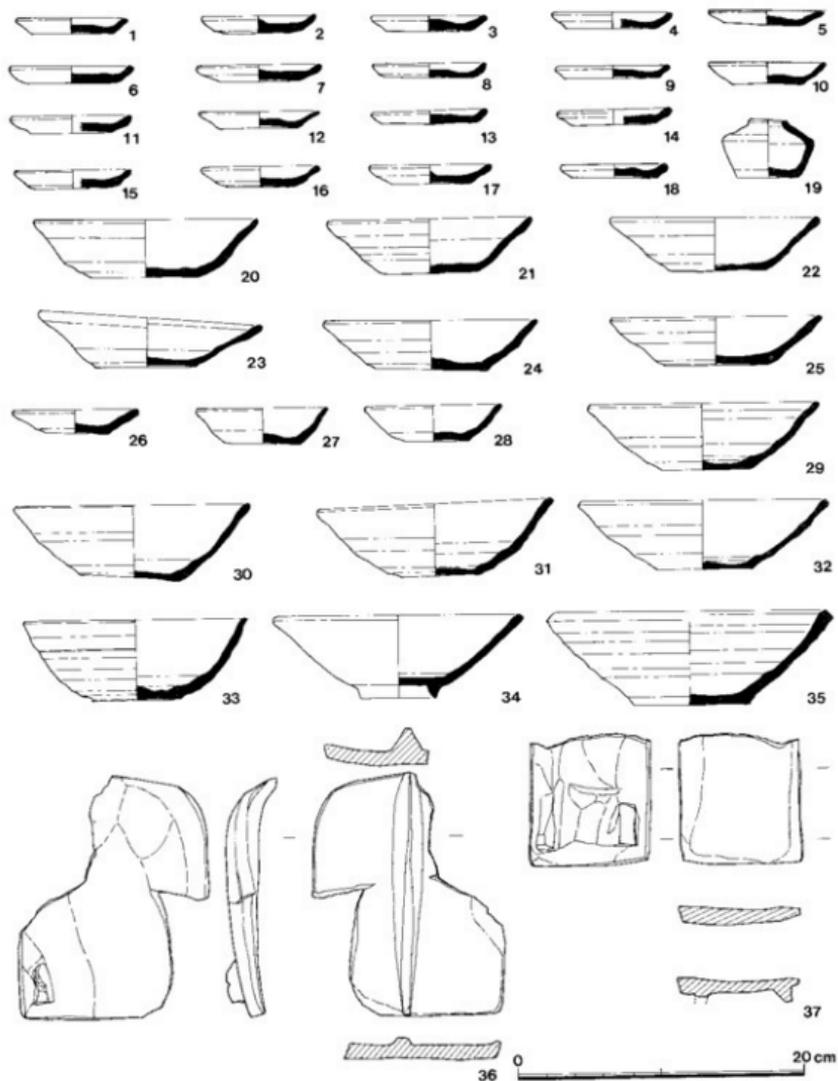


fig. 18 神出遺跡出土土器・硯

1~24：第6トレンチ窟状遺構付近出土 25：第6トレンチ ビット出土 26~37：第1トレンチ ビット出土
 1~26：土師器 27~37：須恵器

2. 調査の概要 今年度工事施工区域内に第1～3トレンチの合計3ヵ所の調査区を設置して調査を実施した。

第1トレンチ 全長93m、幅約1.2mの調査区である。調査範囲内からは溝状遺構、土坑、ピット等が確認された。南部分約3分の1については工事で掘削される深度以下に遺物包含層が存在するため、試掘坑による一部の調査を行い、その他の部分は現況保存に止めた。

基本層序 今回の調査地はすでに圃場整備が行われており、旧地形が大きく改変されている。工事以前の地形図を見ると、ほぼ南北にはしる細長い谷の東側斜面であったことが判る。土層を観察してみると、北側部分は削平を受け、耕土、盛土（淡褐色～暗灰色シルト混じり細砂）の直下に遺構面の土層（灰褐色細砂～極細砂）が検出される。南半分の層位は、盛土層下に旧耕作土（淡灰色細砂）、遺構検出面の黄灰色細砂混じりシルト（土器を含む）、地山面の淡灰色シルト混じり細砂である。



fig.20 第1トレンチ全景（南から）

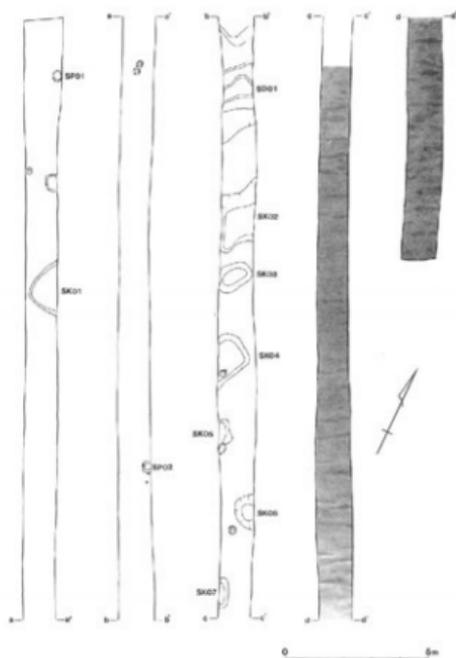


fig.21 第1トレンチ平面図 網線部分：現況保存

遺構

SD01

調査区のほぼ中央に位置する溝状遺構で、最大幅4.2m、深さ約0.5mを測る。底面と堆積土の下層から奈良時代の須恵器が大量に発見された。これらの須恵器はほぼ直線状に出土し、一括で投棄されたと考えられる。また埋土の中、上層では土器は全く出土しなかった。溝にはシルト系の土が堆積し、緩やかな埋没状況を示している。遺物は須恵器の坏、蓋が過半を占め、他は壺、横瓶と甕の破片が確認されたのみである。土師器は細片が極く少量出土した。須恵器は生焼けのもの、焼け歪んでいるものや、亀裂が入って使用に耐えないのものがその大半を占め、完全な形のはほとんどなかった。

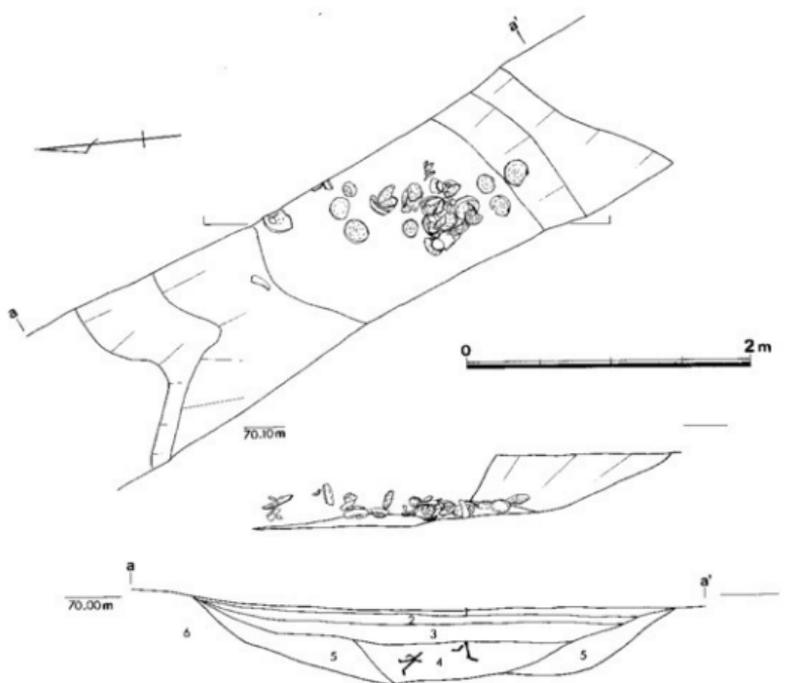


fig.22 第1トレンチ遺物出土状況図・断面図

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 1. 赤褐色粘砂 | 4. 反色シルト(やや黄褐色を帯びる) |
| 2. 黒灰色シルト(底の破片も若干含む) | 5. 淡黄褐色シルト(やや反色帯を帯び、裏面が白) |
| 3. 暗灰色シルト(3層、4層間に其片を多く含む) | 6. 淡褐色粘砂(主に黄砂一級細砂(粘土)) |

出土した須恵器の坏蓋は、丸みを帯びた天井部に偏平なつまみを持ち、平城京において分類しているA形態の端部である。坏身は口径17cm前後の高台付のもの、口径13cm前後の無高台のもの2種類に分かれる。また、壺は丸みを帯びた胴部に平らな底部を持ち、内外面はヨコナデを施し、外面には叩き目の痕跡が残る。坏、壺いずれも底部は回転ヘラ切りで未調整である。時期は奈良時代後半と考えられる。

fig. 23
第1トレンチ
S D01遺物出土
状況



fig. 24
同上細部 (西から)





fig.25 第1トレンチSD01出土土器

落ち込み

トレンチの北端部では、地山面が約0.2~0.3mほど落ち込み、灰色~青灰色シルトが堆積していた。堆積土中から、完形に近い奈良時代の須恵器坏が数個体、長頸壺が一個体出土した。なお、SP01はこの土層の上面を切り込んで掘削されていた。

S K 01 調査区の北半に位置し最大幅2m、深さ約0.05mの浅い土坑である。物は出土しなかった。

S K 02 当初、直径約0.7mの青灰色~暗灰色シルトのプランを確認したため、その埋土を除去すると、さらに大きな遺構であることが判明した。最終的には最大長2m、深さ約1mの不整形の土坑となった。

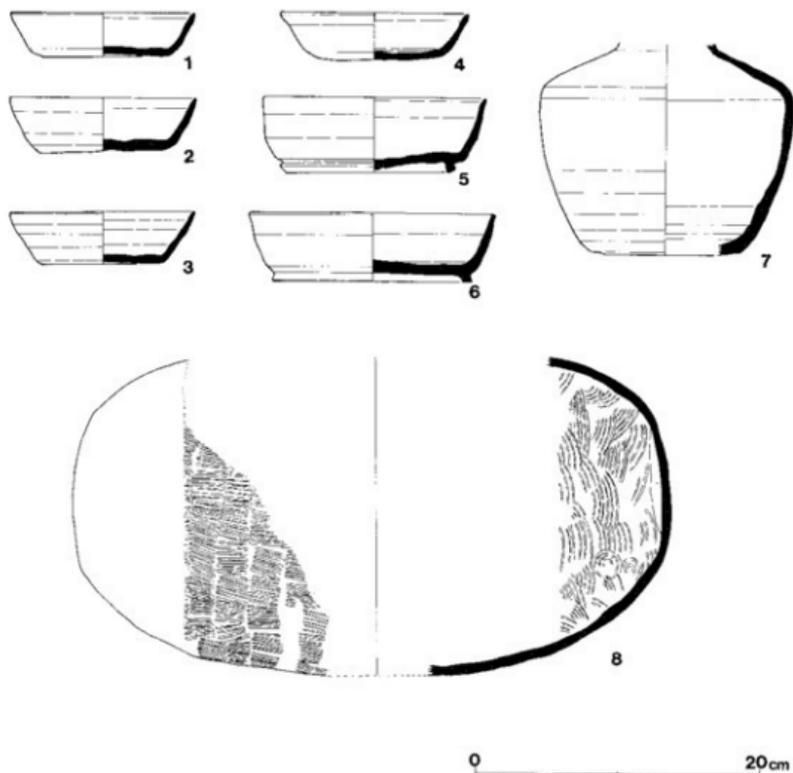


fig. 26 第1トレンチ出土土器

1, 2: SP01出土 3: SP02出土 4~7: 落ち込み出土 8: SK04出土

- S K 03 長径約1.3m、短径0.8m、深さ約0.45mの楕円形の土坑である。遺物は出土していない。
- S K 04 S K 02同様に一辺約1m程度の隅丸方形の青灰色～暗灰色シルトのプランを確認し掘削したが、精査の結果、一辺約1.7m、深さ約0.7mの方形の土坑となった。土坑の底面からは須恵器横瓶の胴部～底部が出土している。S K 02、04については、当初検出したものは、遺構の最終埋没土であり、最初の埋没土は周辺の遺構検出面の土層と近似した黄灰色シルトであった。
- S K 05 最大長1.2m、深さ約0.4mの土坑である。
- S K 06 最大長1.2m、深さ約0.1mの土坑である。
- S K 07 最大長1m、深さ約0.1mの土坑である。上記の3つの遺構からは遺物は出土しなかった。
- S P 01 調査区の北端に位置し、長径約0.45m、短径3.5m、深さ約0.1mの楕円形のピットである。北端に奈良時代の須恵器坏が口縁部を水平にし2枚重ねに据えた状態で出土した。埋土および土器内の土を水洗したが、遺物は確認できなかった。地鎮遺構の可能性はあるが確証はない。

第2トレンチ 全長49m、幅約1.3mの調査区で、中央で上下2段になっている。トレンチの下段は、圃場整備による工事で大きく削平を受けており、遺物包含層、遺構ともに確認できなかった。上段では土坑、ピット、自然流路等を確認した。



fig. 27 第1トレンチS P 01土器出土状況

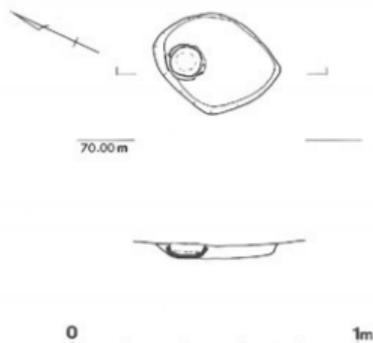


fig. 28 第1トレンチS P 01土器出土状況図

基本層序

トレンチの南半部分は削平を受けて、耕作土下に淡褐色～褐色混礫細砂（盛土層）、褐色～黒褐色混礫細砂（地山）が検出される。北半分では、灰褐色混礫細砂、茶灰褐色極細砂～混礫細砂（遺構検出面）となる。

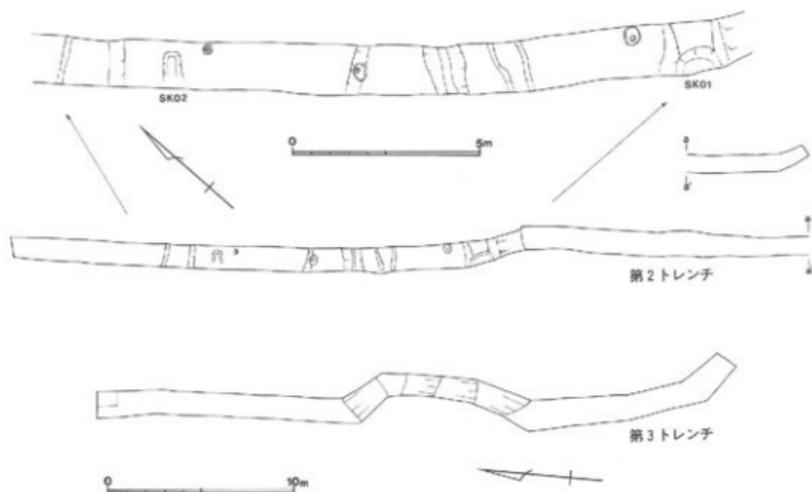


fig.29 第2・第3トレンチ平面図



fig.30
第2トレンチ全景
(北西から)

- 遺構** トレンチのほぼ中央に位置し、直径約1.2m、深さ約0.2mの円形の土坑である。約半分は調査区外に出ている。埋土からは、奈良時代の須恵器、土師器が出土した。
- SK01**
- SK02** 残存長0.6m、幅約0.5m、深さ約0.14mの隅丸方形の土坑で、遺物は出土しなかった。
- 自然流路** トレンチ北半は、土石流により遺構面が削られ、褐色系の混雑砂が堆積していた。この流路中からは土器の細片が出土した。なおピット2基が堆積土を除去した段階で確認された。
- 第3トレンチ** 全長約35m、幅約1.2mの調査区で小支谷の西斜面に位置する。
- 基本層序** トレンチの南半部分は耕作土、床土直下に黄灰茶色シルト層（地山）が検出される。中央部で深く下がり、褐色～灰茶色系の礫を含んだ細砂層が厚く堆積し、底には暗灰色～黒灰色シルトが堆積している。耕作土から底面までの深さは約1.7mである。また、北に行くにつれて徐々に上がっていき、北端部では、地山である緑灰色～茶褐色混雑粗砂が床土直下で確認される。
- 自然流路** トレンチ中央部で確認された深い落ち込みは、段丘斜面から谷に流れ込む流路の痕跡と考えられる。堆積土の状況からみて、当初は緩やかな流れであったものが、数度の洪水で砂が堆積し埋没していったようである。流路内からは、平安時代～鎌倉時代の土器、瓦、焼けたスサ入りの粘土塊が出土した。



fig.31
第3トレンチ全景
(北から)

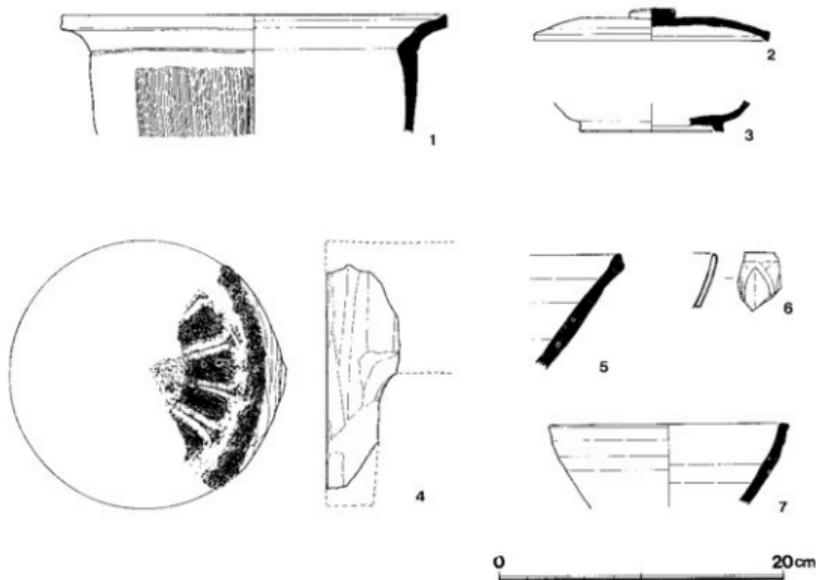


fig.32 第2・第3トレンチ出土遺物 1~3:第2トレンチ 4~7:第3トレンチ

3. まとめ

今回の調査では、各調査区で遺構、遺物が発見されている。第1トレンチのSD01から出土した大量の須恵器は前述の通り、生焼けのもの、焼け歪んでいるものや、亀裂が入って使用に耐えないのものがその大半を占めている。これらは窯出しした製品の中から不良品を選別し、一括して投棄したものであろう。また、第1、第3トレンチで確認された瓦、焼けたスサ入りの粘土塊は近辺に窯が存在していたことの証左である。

周辺では、藤原橋付近（押部谷町和田）に古墳時代の須恵器窯の存在が知られている他、平安時代末期～鎌倉時代にかけての窯跡は、高位段丘上の神出町一帯と丘陵から沖積地に変わる斜面に西神ニュータウン内遺跡No.90地点遺跡の古窯址（押部谷町養田）、繁田古窯址（平野町繁田）の存在が確認されている。しかし奈良時代の須恵器窯は付近では発見されておらず、今回の調査結果は、当該時期の窯址の位置を示唆する貴重な資料といえよう。

3. 采遺跡

1. はじめに 神戸市西区から明石市にかけて流れる明石川流域には、いくつかの谷筋に沿って多くの遺跡がある。特に明石川中・下流周辺の平野部は、大規模開発事業に伴う発掘調査で遺跡が存在することが判明してきた。しかし、明石川上流部の押部谷町栄・木幡地区付近については遺跡の存在が不明確な場所であった。今回の調査は、当地区の土地改良事業に伴うものであり、今年度以降工事が予定されている約67haの試掘調査を実施し、遺跡が確認された地区で切土、排水路、パイプラインの掘削工事等によって遺構の保存が計られない部分の発掘調査を実施した。

明石川上流部は、河岸段丘の形成が著しく、特に押部谷周辺は明石川に沿って複数の段丘面が認められる。このため右岸では、北から南へ著しく傾斜し、東西については東から西にかけて緩やかに下がっている。

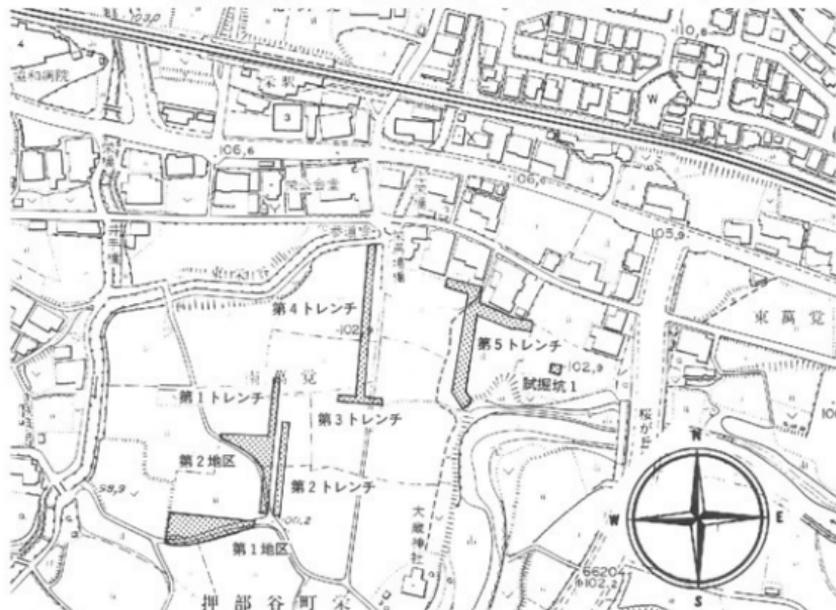


fig. 33 調査地位置図 S = 1 : 3000

2. 調査の概要

試掘調査

試掘調査の結果、遺跡が高位の段丘上に広がっていることが判明した。低位の段丘および河川氾濫原では、遺物、遺構等は確認されなかった。段丘上で出土した遺物は、古墳時代～鎌倉・室町時代のものである。

特に試掘坑1では土坑が検出され、埋土内から古墳時代後期の須恵器坏や土師器甕、製塩土器が出土した。

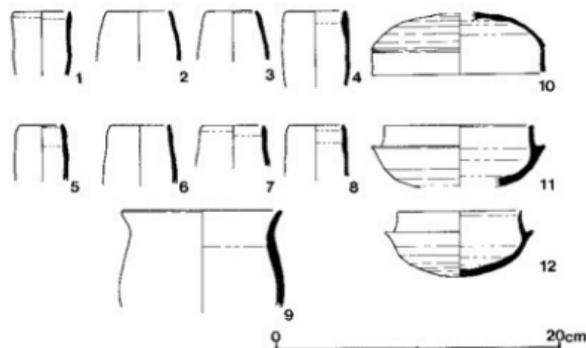


fig. 34

試掘坑1出土土器

1～8：製塩土器

9：土師器

10～12：須恵器

発掘調査

試掘調査の結果に基づき、切土、排水路、パイプライン部分の調査を実施した。調査区は2カ所の調査地区と5条の調査区に分かれている。

第1地区

調査範囲の南端に位置する約300㎡の調査区である。調査の結果、3時代の遺構面が確認された。

基本層序

耕土、床土下に暗茶褐色細砂～粗砂層、黄褐色細砂～中砂層、淡灰褐色シルト質極細砂層（中世の遺物包含層）が堆積する。また西半部分では、暗灰褐色細砂～極細砂層（第1遺構面、土器を包含する）、茶灰褐色細砂層（第2遺構面、土器を包含する）、淡茶褐色極細砂層（古墳時代の自然流路堆積土）、暗褐色砂礫層（地山）となる。

第1遺構面

土坑2基、溝1条、性格不明遺構2基が確認された。

SK01

最大長約1m、幅約0.6m、深さ約0.15mの不整形の土坑である。埋土内からは土師器、青磁碗片が出土した。

SK02

長辺約5m、短辺約1.1m、深さ約0.2mの隅円方形の土坑である。埋土から土師器皿、青磁碗片が出土した。SK01、02ともに時期は鎌倉時代末期～室町時代初頭である。

SD01

最大長約2.8m、幅約0.4m、深さ約0.07mの浅い溝状遺構である。堆積土からは遺物は出土しなかった。

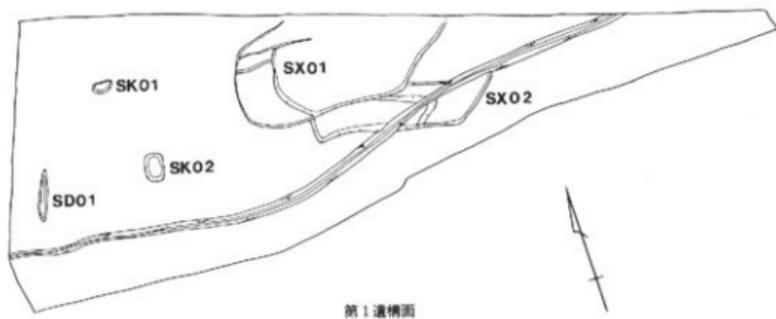
SX01

最大長約12m、幅約5m、深さ約0.15mの不整形の落ち込みである。

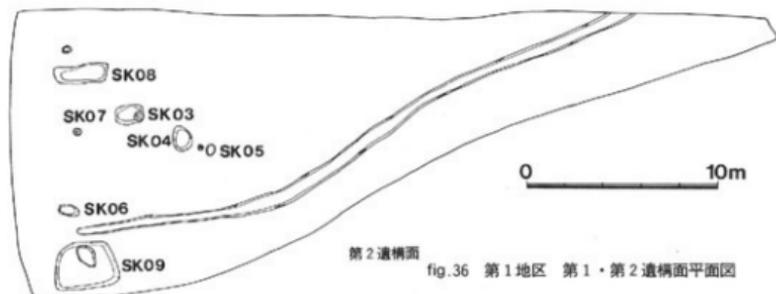


fig. 35

第1地区 第1遺構面
(北東から)



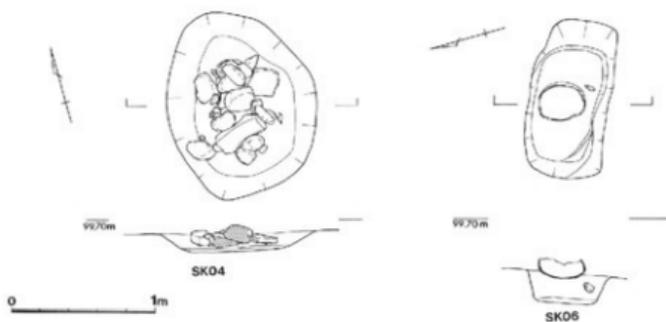
第1遺構面



第2遺構面

fig.36 第1地区 第1・第2遺構面平面図

- S X 02 最大長約10m、幅約2.5m、深さ約0.2mの不整形の落ち込みである。S X01に北側を削られている。いずれの遺構からも土器の細片が出土したのみで掘削された目的は不明である。
- 第2遺構面 土坑7基、溝2条が確認された。
- S K 03 直径約0.5m、深さ約0.2mの円形の遺構である。
- S K 04 最大長約1.3m、深さ約0.15mの不整形の土坑で、人頭大～拳大の河原石と土器と一緒に投棄されていた。土器の時期は鎌倉時代中頃～後半に属する。
- S K 05 長径約0.6m、短径約0.4m、深さ約0.1mの楕円形の遺構である。
- S K 06 長辺約1.4m、短辺約0.7m、深さ約0.25mの隅円方形の土坑である。埋土上層に土師器鍋が頸部から上を欠失した状態で出土した。また須恵器小皿が埋土内から出土した。時期は鎌倉時代である。なお、鍋の中の土を水洗したが遺物は確認できなかった。



第1地区 第2遺構面 S K 04・06土器・河原石出土状況図

fig. 38
第1地区
第2遺構面 S K 04
土器・河原石出土状況



- S K 07 長径約 3 m、短径約 2 m、深さ約 0.9 m の隅円方形の土坑である。S K 03 に埋土の上部を削られる。上層には鎌倉時代中頃～後半の須恵器、土師器、青磁等が人頭大～拳大の河原石とともに投棄されていた。それらを除去すると、底面から壁面の一部にかけて扁平な河原石を貼りつけるように、隙間なく置いているのが確認された。これらの河原石は表面が赤く焼けていた。
- S K 08 最大長約 3 m、幅約 0.3 m、深さ約 1 m の不整形の土坑である。
- S K 09 最大長約 3.4 m、幅約 2.2 m、深さ約 0.3 m の長方形に近い形の土坑である。いずれも少量の土器が出土した。
- S D 02 S D 02 は最大長約 1.6 m、幅約 0.3 m、深さ約 0.05 m、S D 03 は最大長約 0.6 m、幅約 0.2 m、深さ約 0.1 m の浅い溝状遺構である。



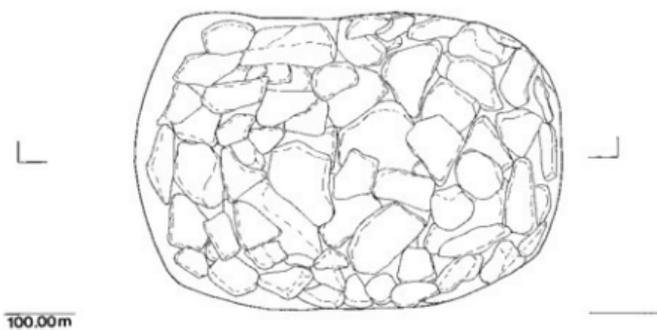
fig. 39
第 1 地区
第 2 遺構面
S K 07 土器・
河原石出土状況
(南から)



fig. 40
第 1 地区
第 2 遺構面
S K 07 底面の
河原石検出状況
(北から)



SK07土器・河原石出土状況図



SK07底面の河原石出土状況図



fig.41 第1地区SK07遺物・河原石出土状況図

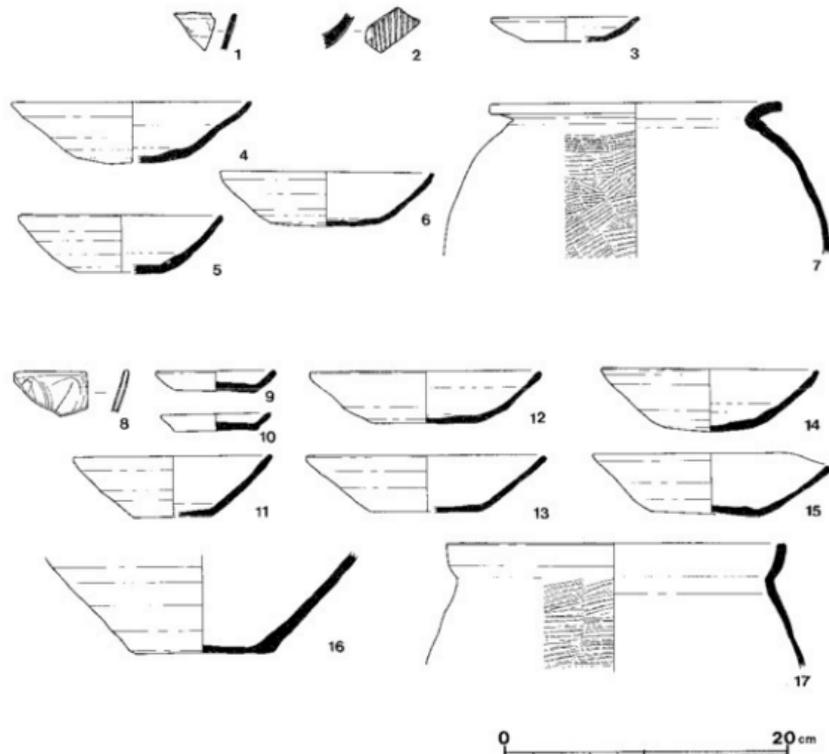


fig.42 第1地区 土坑出土土器 1:SK01 2・3:SK02 4~7:SK04 8~17:SK07

古墳時代の
自然流路

北端部の側溝を掘削中に古墳時代の土師器が出土した。このため、第2遺構面の調査完了後断ち割り調査を行った結果、検出最大幅約13m、深さ約0.2~0.6mの自然流路が確認された。流路は北東と東から流れてきた2条の流れが、調査区内で合流し南西方向に流れている。堆積土は、灰色~褐色の極細砂層であり極く緩やかな堆積状況を現している。堆積土内からは、完形品あるいはそれに近い状態の古墳時代後期の須恵器、土師器が数ヵ所、いずれも両岸に近いところで確認された。特に北岸では須恵器坏が7~8個体比較的集中して出土した。土器内および土器が集中した部分の土砂を篩によって選別したが、遺物は確認できなかった。

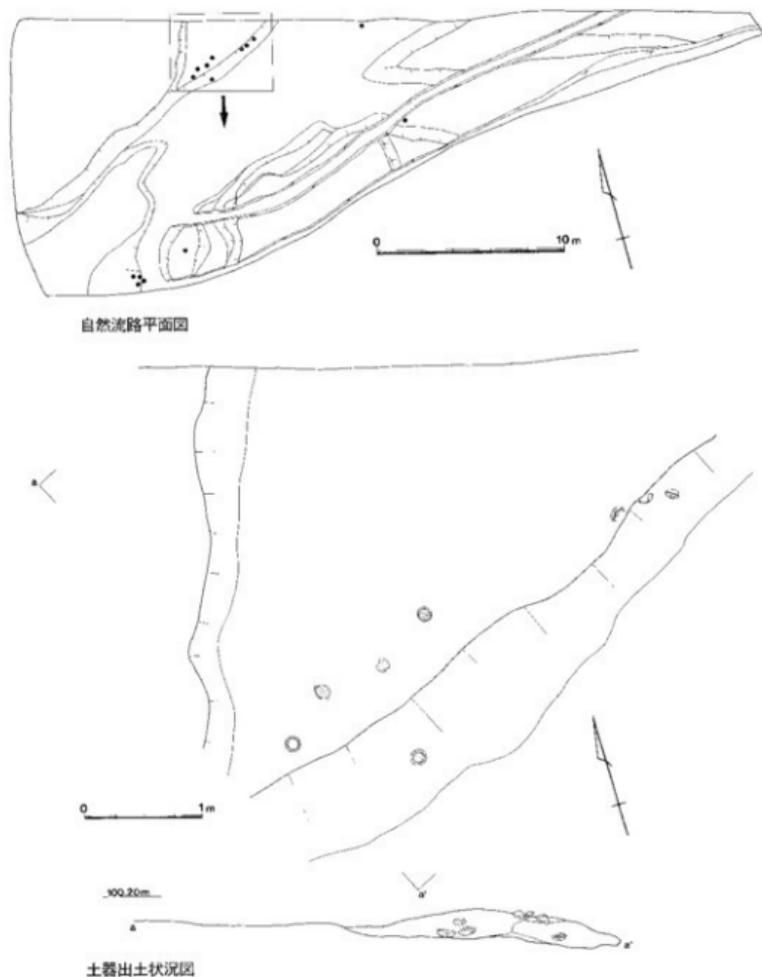


fig. 43 第1地区 古墳時代の自然流路平面図・土器出土状況図 ドットは土器出土位置

第2地区 第1地区の北にあり、第1トレンチに接した約80㎡の調査区である。

基本層序 層序は、耕作土、床土下に暗茶褐色細砂～中砂層、灰褐色細砂～中砂層、淡灰褐色細砂層(土器を少量包含する。)、暗褐色細砂層となる。床土以下の層は、洪水等による堆積層と考えられる。遺構は確認されなかった。



fig. 44
第1地区
自然流路内
土器出土状況

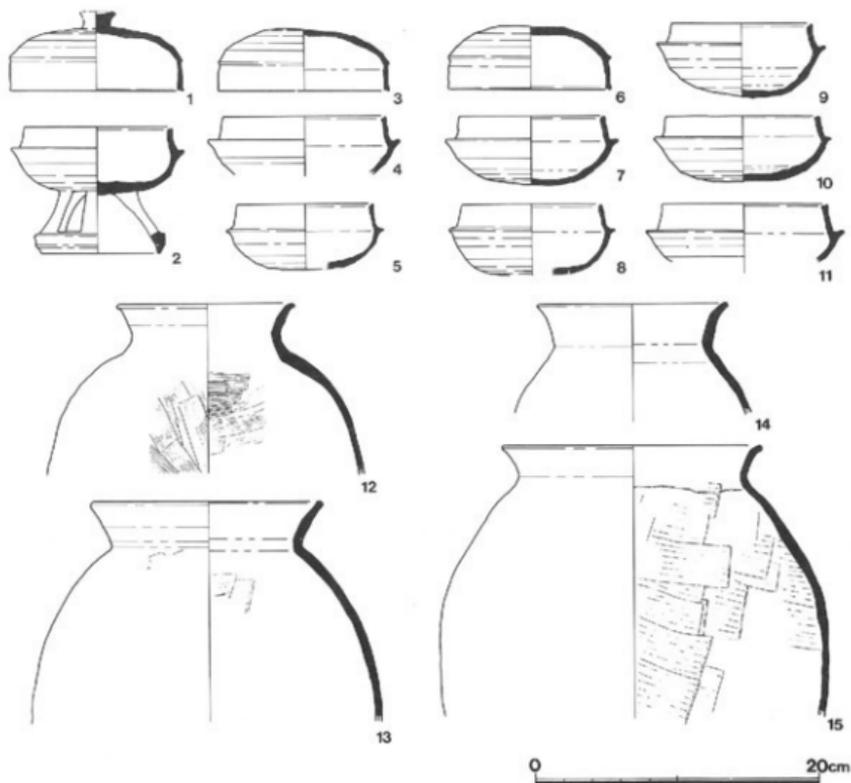


fig. 45 第1地区自然流路内出土土器

- 第1トレンチ 第1トレンチは、全長約80m、幅約3m、第2トレンチは、全長約50m、幅約1mの調査区で、5mの間隔をあけ平行に並んでいる。
- 第2トレンチ 耕作土、床土下に灰色～褐色砂礫・細砂層が互層になって堆積しており各層には遺物が少量ずつ含まれている。数カ所で自然堆積による落ち込みを確認したほかは遺構は確認されなかった。
- 基本層序
- 第3、4トレンチ 第3トレンチは全長15m、幅約1m、第4トレンチは第3トレンチに直交し、全長約80m、幅約1mの調査区である。
- 基本層序 第3トレンチについては耕作土、床土下に、茶褐色極細砂層、灰褐色極細砂層（鎌倉時代の遺物を若干含む）、淡褐色極細砂層、淡褐色砂礫層となる。また第4トレンチについては、北半部には栄谷川の氾濫による砂礫層が堆積し、遺構が数基確認された南半部では、耕作土、床土下に、茶褐色細砂層、褐色混礫細砂層（鎌倉時代の遺物を若干含む）、淡褐色混礫細砂層（遺構面）の層序となる。
- 遺構 第3トレンチでは遺構は確認されなかったが、第4トレンチでは、溝状遺構1条、土坑2基、浅い落ち込み1基、ピット1基が確認された。
- SD01 最大幅1.4m、深さ約0.15mの溝状遺構で、堆積土内には、須恵器、土師器、拳大の河原石、焼土が混在して出土した。時期は鎌倉時代中頃～後半である。
- SK01 最大幅1.3m、深さ約0.2m、断面錐鉢状の不整形な土坑で、埋土内に須恵器、土師器、青磁、拳大～親指大の河原石が混在して出土した。時期は鎌倉時代中頃～後半である。
- SK02 最大幅0.7m、深さ約0.1mの楕円形の土坑で、埋土内から須恵器、土師器の小破片、拳大の河原石が出土した。
- SX01 SK02の南側に位置する深さ約0.1mの浅い落ち込みで、埋土から須恵器、土師器の小破片が出土した。



fig. 46
第4トレンチ SD01
土器・河原石・
焼土出土状況(西から)

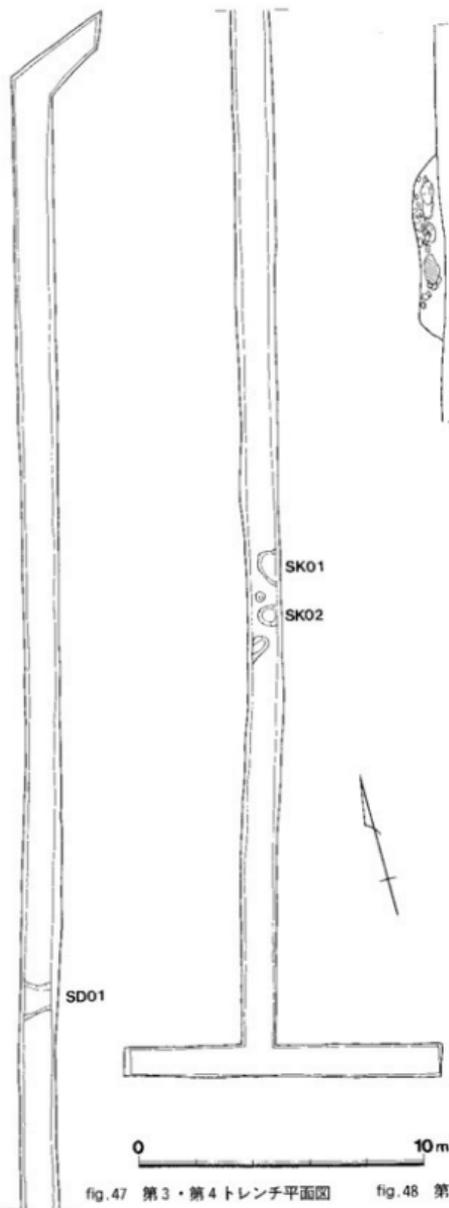


fig.47 第3・第4トレンチ平面図

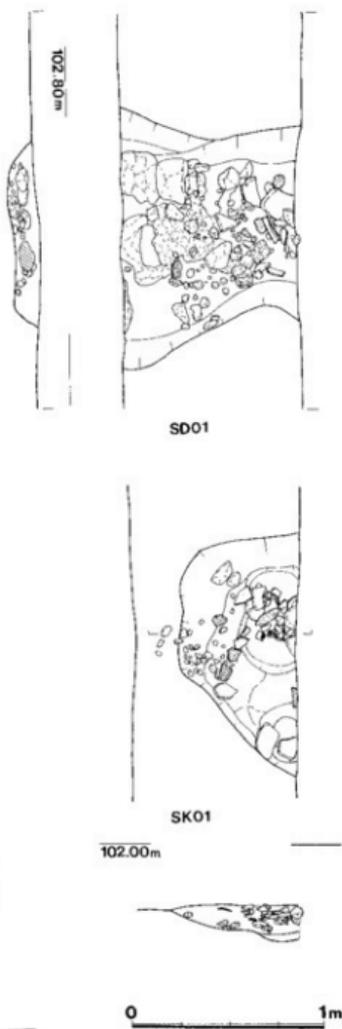


fig.48 第4トレンチSD01・SK01遺物出土状況図

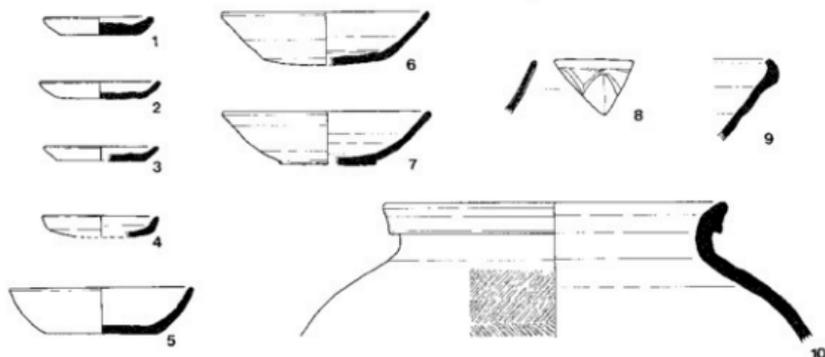


fig.49 第4トレンチ出土遺物 1~9:SK01 10:SD01

0 20cm

第5トレンチ 調査地区の東端に位置する約400㎡の調査区で、A~C区に分かれる全長約23m、幅約4mの調査区である。

基本層序 耕作土、床土下に暗褐色細砂~極細砂層、暗褐色砂礫層（遺構検出面）暗茶褐色粗砂層（地山）が堆積している。

遺構 調査区東端で、土坑SK01が確認された。これは最大幅1.8m、深さ約0.15mの方形に近い遺構で、埋土内からは河原石、土師器の変形土器等が出土した。時期は古墳時代前期初頭である。

B区 全長約33m、幅約3mの調査区である。東半部に遺構が集中して確認された。

基本層序 西半部は耕作土、床土下に、暗褐色~灰褐色砂礫、黄茶褐色細砂~極細砂層、西半部では耕作土、床土下に、黄茶褐色細砂~極細砂層（遺構検出面）、黄茶褐色細砂~極細砂層（地山）が堆積する。

遺構 東半部で、土坑4基、溝1条、ピット多数が検出された。

SK02 長辺約4.5m、短辺約1.7m、深さが約0.4mの隅円方形の土坑で、須恵器、土師器、陶器、青磁、滑石製石鍋片、用途不明土製品等とともに人頭大~拳大の河原石が大量に出土した。

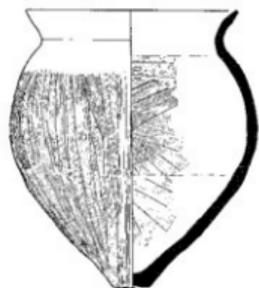


fig.50 第5トレンチSK01 出土土器

0 10cm

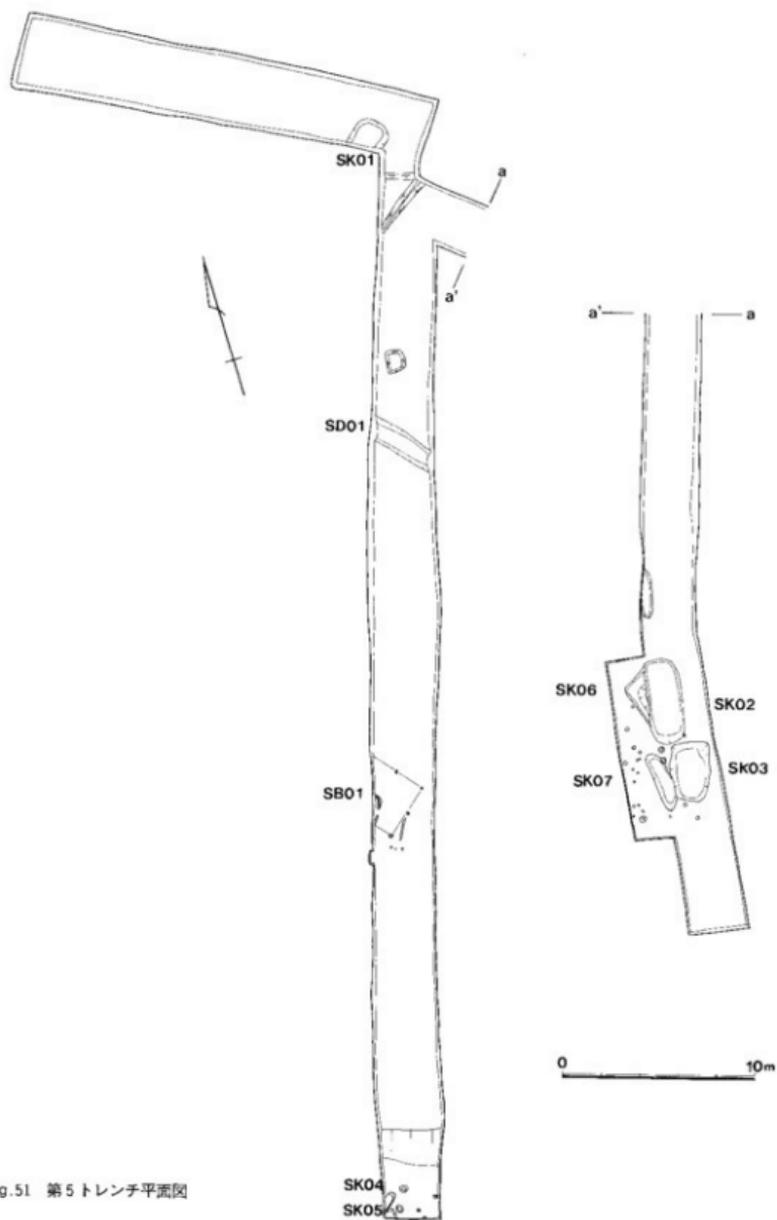


fig.51 第5トレンチ平面図

河原石の中には大人が二人で抱えてようやく運搬するのが可能な石もあった。また、河原石の多くは焼けて赤変していた。堆積状況からみて、遺物と河原石は同時に投棄されたものである。時期は鎌倉時代末期～室町時代初頭と考えられる。

SK03 長辺約3.2m、短辺約2m、深さ約0.5mの形の整わない隅円方形を呈する土坑で、埋土の中層から上層にかけて扁平な河原石がまとまって出土した。また、SK02よりも焼けている石の量は少なかった。埋土内からは須恵器、土師器、青磁等が出土した。SK02出土の青磁碗と接合する破片が埋土より出土したので、時期はSK02とほぼ同時期と考えられる。

SK06 SK02に大半を削られる最大残存長2.7m、深さ約0.3mの遺構で、埋土から人頭大の河原石が出土した。時期は不明である。

SK07 SK03に一部を削られる遺構で最大長3.2m、幅約0.8m、深さ約0.2mを測る。埋土から須恵器、土師器の小片が出土した。



fig. 52
第5トレンチ SK02
河原石・土器出土状況
(西から)



fig. 53
第5トレンチ SK03
河原石・土器出土状況
(東から)

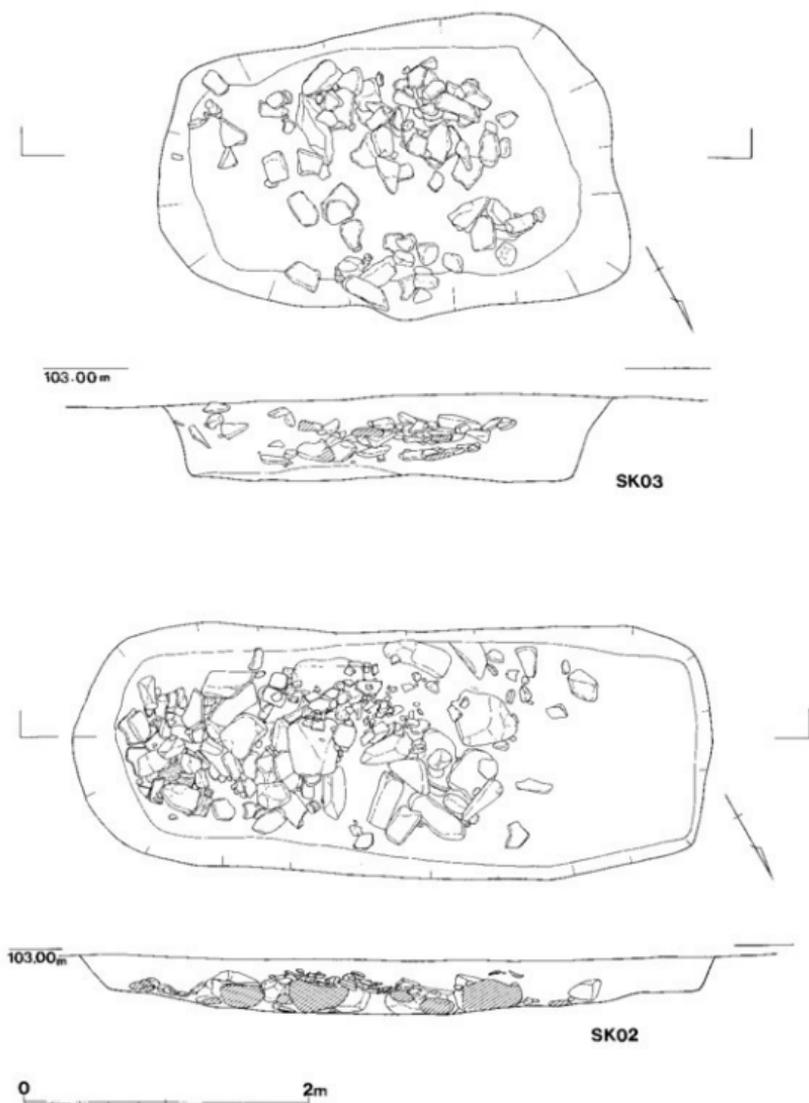


fig.54 第5トレンチSK02・03 土器・河原石出土状況図

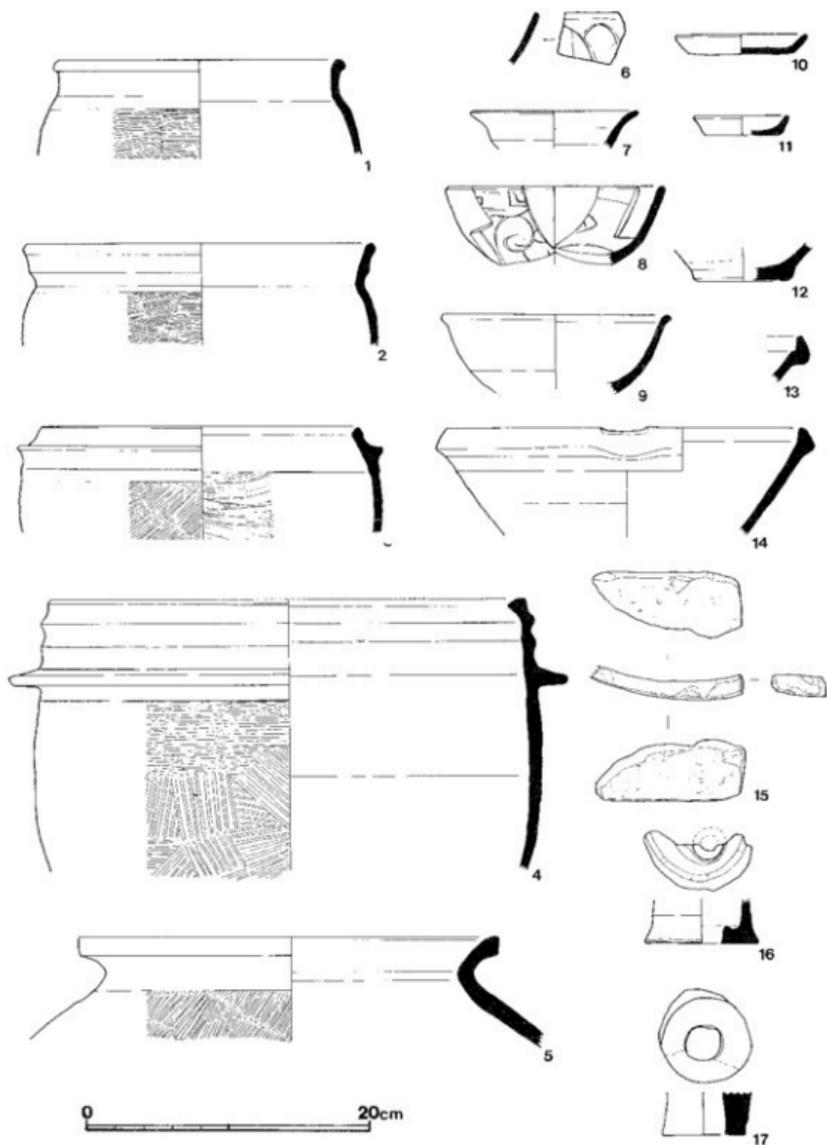


fig. 55 第5トレンチ・S K 02・03出土遺物 6~8・10・11:SK03 1~9・12~17:SK02

- C区** 全長約55m、幅約3.5mの調査区で、北から南に傾斜している。
- 基本層序** 北半部は、耕作土、床土下に、淡灰褐色～暗褐色細砂層、暗褐色砂礫層（遺物包含層）、茶褐色細砂層（遺構面）となる。南半部では、耕作土、床土下に、淡灰褐色細砂層、灰褐色細～中砂層となる。また南端部では約1m下がり、暗灰褐色砂礫層（平安時代の遺物包含層）、淡黒褐色細砂～極細砂層（古墳時代の遺物を若干包含する）、暗褐色砂礫（地山）が堆積している。
- 遺構** 掘立柱建物址1棟、溝、土坑が検出された。
- SB01** 調査区のほぼ中程にある2間×2間以上の建物址で、西側部分は調査範囲の外に出ている。柱間寸法は、1.5～1.6mである。柱穴の掘形の大きさは0.2m前後と小さい。
- SD01** 検出長約3.3m、幅約1.2m、深さ約1mの断面形U字型の溝状遺構で南側は垂直に落ち、北側はやや勾配をもって立ち上がる。堆積土は褐色系の砂礫～細砂が互層になっている。堆積土内からは古墳時代前期初頭の土師器片が出土した。
- SK04** SK04は直径約0.6m、深さ約0.1mの円形土坑である。埋土からは土師器の小片、小円礫が出土した。
- SK05** SK05は最大残存長約0.8m、深さ約0.05mの浅い遺構である。これらは古墳時代の遺構と考えられる。

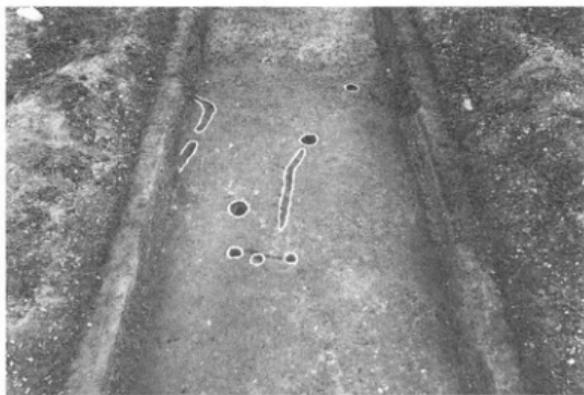


fig. 56
第5トレンチ
SB01全景（南から）

- 3. まとめ** 今回の調査によって、高位の段丘上には、古墳時代～鎌倉・室町時代までの遺跡が広がっていることが判明した。古墳時代については、自然流路、溝状遺構、土坑、ピット等が確認できた。当該時代の住居址は確認できなかったが、当地周辺に集落が存在したと考えられる。なお試掘調査時に試

掘坑1で出土した製塩土器は、現在の段階で明石川の最上流部で見発見されたものである。

平安時代～鎌倉・室町時代の遺構は、掘立柱建物址1棟、土坑、ピット溝状遺構等が検出された。この中で注目されるのは、第1地区のSK04・07、第5トレンチのSK02・03のような土器と共に河原石が大量に出土した土坑である。これらの遺構に共通することは、土器と河原石を一時に投棄していること。どの遺構にも焼石が入っていること。しかも石の量が非常に多いことである。しかし第1地区のSK07については、偏平な河原石を敷き詰め、それらがその遺構内で焼けているのに対し、第5トレンチのSK02・03は他の場所で焼いた石を土坑内に投棄している点や、焼けた面が不揃いである点、第5トレンチのSK02、第1地区のSK07では、土坑の底面に石が集中するのに対し、SK03は河原石が埋土の中層～上層に堆積している点は異なる。また、第1地区のSK04、07の時期は鎌倉時代中頃～後半、第5トレンチのSK02・03は鎌倉時代末期～室町時代の初頭と考えられ、時期幅が大きい。以上のような相違点があげられる。

また、第5トレンチのSK03、第1地区のSK04は石と遺物を廃棄した土坑と考えられるのに対し、第1地区のSK07は一部の石と土器については廃棄されたものと認められるが、大半の石は偏平な河原石であり、火で焼かれた状態で出土していることから、火葬址の可能性もあるが、骨片等は確認できなかった。現在のところ、用途不明の焼成土坑と仮称し、今後さらに考察を行いたい。



fig. 57
第5トレンチ
SK02検出作業
状況

4. 養田遺跡

1. はじめに 養田遺跡は昭和45年度に行われた圃場整備事業の工事中に見発されたもので、弥生時代から平安時代にかけての複合遺跡であることが確認されている。

これまでの調査では、弥生時代後期の竪穴住居・土坑・ピット、古墳時代の竪穴住居・ピットや、平安時代から鎌倉時代にかけての遺構などが確認されている。

2. 調査の概要 昭和63年12月5日から昭和63年12月17日にかけて実施された試掘調査の結果にもとづき、埋蔵文化財の存在する範囲についてトレンチ調査を行った。

調査対象は、パイプライン部分の幅約1m、長さ約80mであり、調査区は便宜上、現在の各圃場毎に地区番号を付し、東からⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ区とした。

なお、第1遺構面より下層は、数カ所試掘坑を設定して確認したが、埋蔵文化財は確認できなかった。



fig. 58 調査地位位置図 S = 1 : 5000

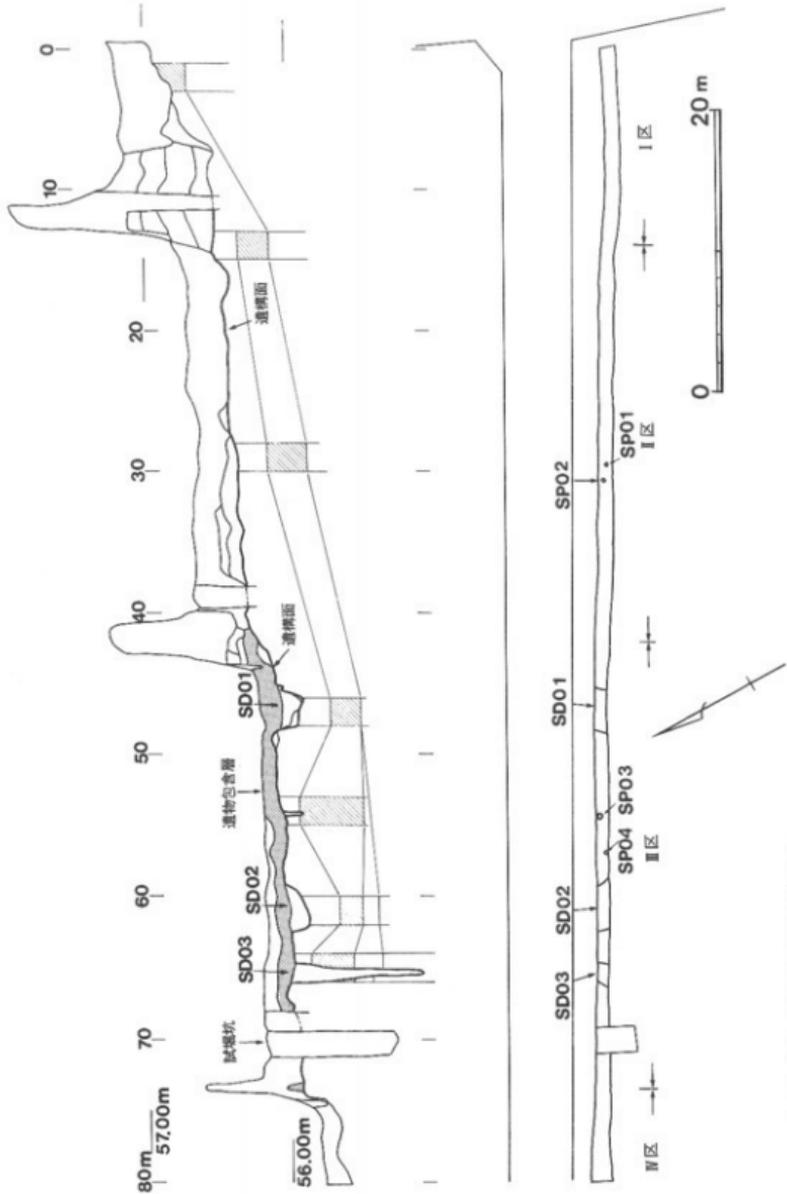


fig. 59 跡遺区平面図および断面模式図

〔Ⅰ区〕 東半は攪乱が著しく、礫を含む暗灰褐色系の粘質土を主体とする埋土である。西半は暗青灰色シルト質土を主として堆積していた。

遺物は、旧耕土と思われる褐灰色粘質土より、須恵器・土師器の小片が出土した。遺構は確認できなかった。

〔Ⅱ区〕 基本層序は、上層より暗青灰色土、混濁灰褐色土(現耕土、盛土)、濁黄灰色土、濁灰黄色土(旧耕土)、淡黄灰色土である。

Ⅲ区からの続きで、4層目の淡黄灰色土上面が遺構面となる。遺構は、ピットを2ヵ所確認した。

〔Ⅲ区〕 厚さ10~15cmの遺物包含層が存在する。遺構は、SD01~03およびSP03、04を検出した。

SD01 幅3.17~3.20m、深さ14~15cmの溝で、Ⅲ区東半で検出した。底は平らに近く浅い。堆積土は、暗灰茶色粘性砂質土の1層である。出土遺物は、須恵器・土師器・埴輪の小片がある。

SD02 幅3.25~3.68m、深さ11~15cmの溝で、Ⅲ区中央やや西よりで検出した。堆積土は1層である。出土遺物には埴輪・須恵器・土師器がある。

SD03 幅1.35~1.66m、深さ93cmの断面形がV字形の溝で、Ⅲ区西半で検出した。遺物は上層から土師器が出土している。

埋土は第1層黒褐色土(炭混じり)、第2層暗灰色土、第3層淡灰色土、第4層暗灰色土(黄灰色土ブロック状にやや多く含む)、第5層黒灰色シルトである。

SD01、02は出土遺物より、平安時代末から鎌倉時代前半にかけての溝と考えられる。SD03はV字の深い溝であり、遺物も土師器のみで須恵器を含まないため、他の溝とは時期や性格が異なるものと思われる。

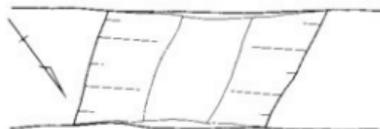
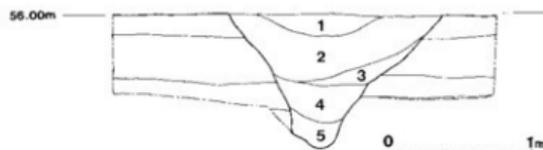


fig.60

Ⅲ区 SD03
平面・断面図

1. 黒褐色土
(炭混じり)
2. 暗灰色土
3. 淡灰色土
4. 暗灰色土
5. 黒灰色シルト



- SP03 直径32cm、深さ23cmで、遺物は出土しなかった。
 SP04 直径28cm、深さ20cmで、遺物は出土しなかった。
 (Ⅳ区) 明瞭な遺構面や遺物包含層は存在しない。遺物は、土師器・須恵器が少量出土した。

3. まとめ 調査区が幅1mと狭く、しかも暗渠が縦断していたため、遺構の残りが悪く、遺跡の性格を明確にすることはできなかった。

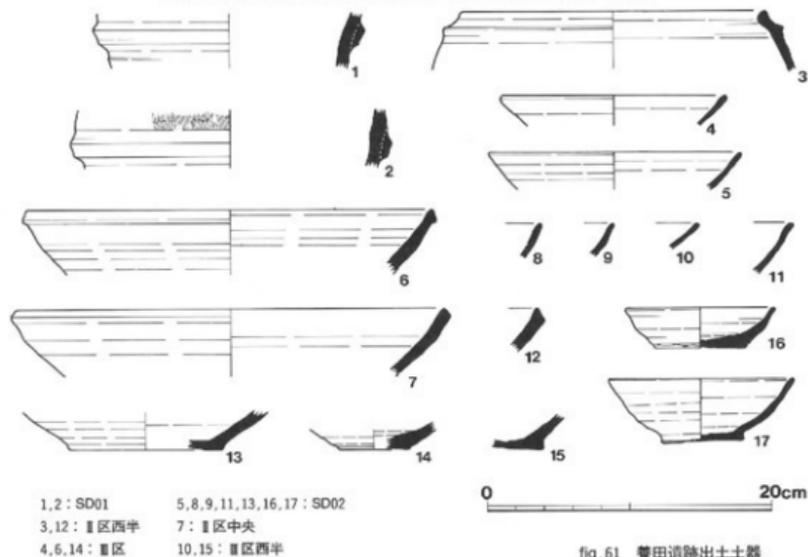


fig. 61 箕田遺跡出土土器



fig. 62
調査地全景
(北西から)

5. ^{なべたにいけ}鍋谷池遺跡

1. はじめに

鍋谷池遺跡は、西神墓園造成に伴い昭和61年度から調査を実施している。今回は昨年度調査区の南側一帯が対象地である。(当遺跡は、昭和52年度の分布調査により古墳ないし経塚の可能性のある隆起が認められるようになった。) 昭和61年度の試掘調査で鍋谷池と待池にはさまれた丘陵部で弥生時代の土坑、古墳、平安時代の土坑などが確認された。

昭和62年度より北から造成区内の本調査を開始した。昭和62年度の調査では、弥生時代の土坑や地山整形遺構を検出した。昭和63年度の調査では、弥生時代中期の円形の竪穴住居址1棟と甕棺1基、焼土坑などを検出した。今回は、昨年度調査区の南側の比較的広い平坦面と古墳の存在が確認されている平坦面、およびその間の尾根部分の総計約3500㎡について発掘調査を行った。

遺跡は、明石川右岸、雄岡山南方の段丘から南にのびる尾根上に立地する。調査地付近の標高は100m前後で、尾根上からは明石平野から瀬戸内海、淡路島を望むことができる。



fig. 63 調査地位圖 S = 1 : 5000

2. 調査の概要 調査は、昨年度調査区のすぐ南方の約2100㎡(A地区)と、そこから延びる尾根上および尾根から谷にむかっの斜面上および古墳と土坑群の存在範囲確認のためのトレンチ調査を行った(fig.63)。

基本的な層序は、表土(腐植土)、流土、地山となっており、尾根部およびその付近の一部では表土、地山となっている。

調査は、人力による伐開後、すべて人力による掘削で行った。

A地区

昨年度(昭和63年度)住居址が検出された平坦面から尾根を通して真南に再び開ける平坦面を中心に調査区を設定した。その結果、焼土坑、土坑、ピットなどが検出された。遺構のうちいくつかのものについては弥生土器片が出土しているが詳細な時期は確定しがたい。遺物は流土中より弥生土器(第I様式末、第IV様式)、須恵器、土師器の破片が出土しているほか、サヌカイト製石鏃4点、サヌカイトチップ若干が出土している(fig.68)。焼土坑、土坑、ピットなど遺構の性格は不明である。

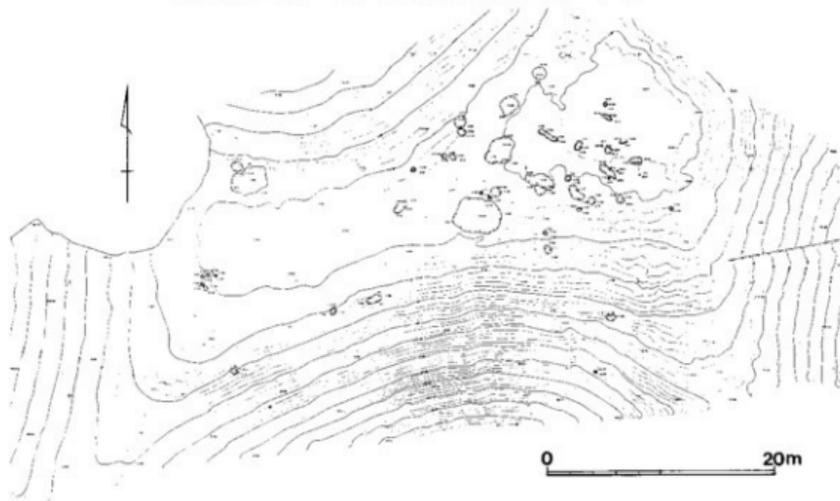


fig.64 A地区平面図

B地区

B地区は、トレンチ調査中VIIトレンチにおいて住居址ではないかと予想される遺構の一部を確認したため、VIトレンチとIVトレンチ、そしてVIIトレンチをふくむその南10mと、谷の傾斜変換ラインで囲まれた約730㎡を拡張して設定した。

その結果、検出された遺構は住居址ではなく地山整形遺構であることが判明した(fig.67)。地山整形遺構は、半円形に地山を掘り込んでおり、長

軸約7.5m、短軸約3.2mを測る。西隅付近の2ヵ所で炭の遺存が確認された (fig.66 アミ目部分)。遺構内からは遺物は出土しなかった。

B地区ではこの他に遺構は検出されず、遺物も全く出土しなかった。



fig.65 地山整形遺構検出状況 (東から)

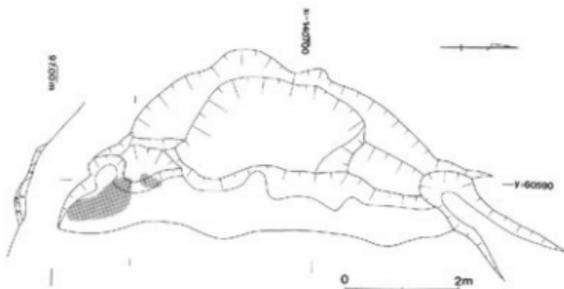


fig.66 地山整形遺構平面・断面図

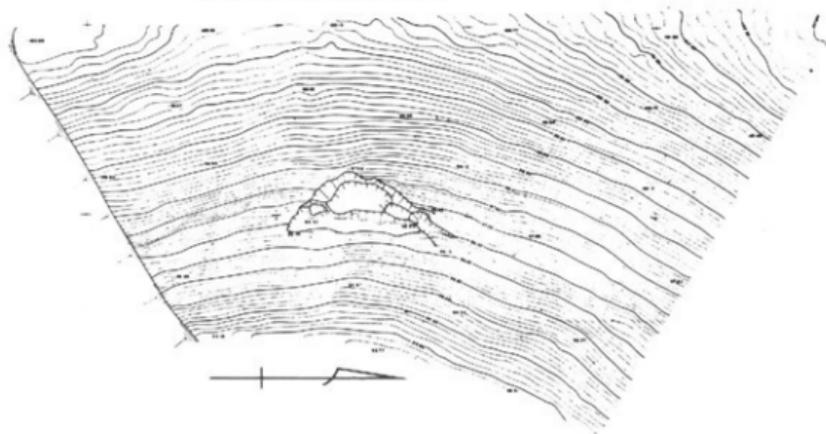


fig.67 B地区平面図

トレンチ調査

トレンチ調査では、昭和62年度試掘調査地点とA地区との間の尾根上とそれにはさまれた谷に向かって合計9本（I～IX）と、昭和62年度試掘調査の際確認された古墳および土坑群周辺の平坦面と西斜面に7本（X～XVI）のあわせて16本を設定し行った。トレンチは幅2m、総延長約360mにおよぶ。その結果、I～IXの9本の内、VIIトレンチで遺構を確認し拡張を行った（fig. 63参照）ほかは遺構、遺物は全く検出されなかった。

X～XVIのトレンチは、古墳と土坑群の存在範囲を確認する目的で行われた。その結果、XVトレンチの南隅で2号墳の墳丘と思われる僅かな高まりを検出した。遺物は、XIIトレンチ裾部で弥生土器の底部片1点が出土した。他に遺物は出土していない。

3. まとめ

今回の調査では、焼土坑、土坑、ピット、地山整形遺構などが検出されたが時期や性格の不明なものが多い。昨年度検出の住居址につき、A地区でも住居址の検出が予想されたが全調査区を含めて住居址は検出されなかった。なお、今回出土した遺物のなかで時期の判明するもののうち弥生時代前期に属するものが比較的多く、すでにこの時期から生活が営まれていたことが考えられるようになった。

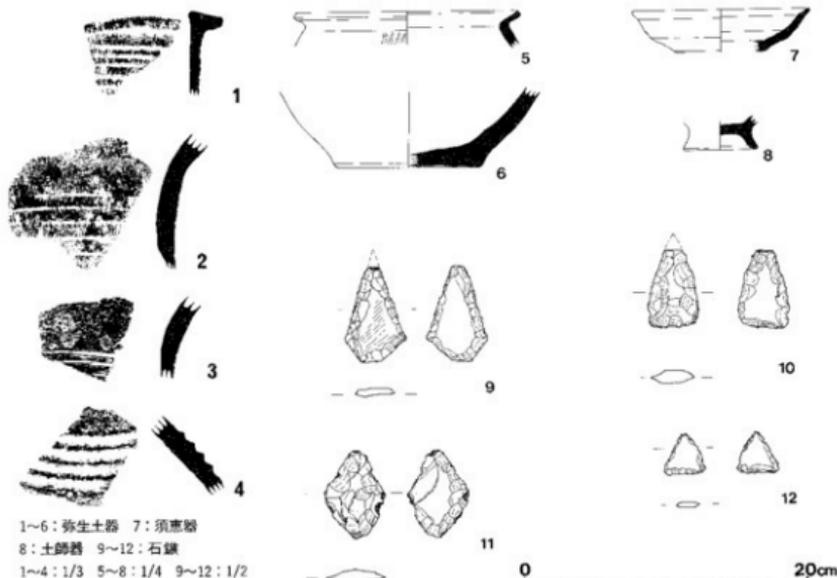


fig. 68 鍋谷池遺跡出土遺物

6. 大畑遺跡

1. はじめに 当該地は大畑遺跡の範囲に含まれ、昭和63年度には今回の調査区に隣接した地点で圃場整備事業に伴う発掘調査を実施し、狭い範囲の調査にもかかわらず、中世のピット・土坑・溝などの存在とともに、その下層より弥生時代末期～古墳時代初頭の土器が多数出土している。

今回の調査は、西神22号線自歩道設置事業に伴うもので、工事により埋蔵文化財が影響を受ける部分について調査を実施した。

2. 調査の概要 大畑遺跡は、東から西へ流れ、明石川に合流する薬師谷川の扇状地上に立地しており、今回の調査地は薬師谷川の南に位置している。

調査は、歩道が設置される部分についてそれぞれトレンチを設定し、南から1トレンチ・2トレンチ・3トレンチとし、盛土と旧耕土を重機で掘削しそれより下層は人力で掘削を行った。



fig. 69 調査地位置図 S = 1 : 5000

- 中世 1 トレンチは幅約1.5m、長さ約55mを測る。トレンチ南端では、地表下約60cmで中世の遺構面を検出したが、中央部より北は削平を受け遺構面は残っていなかった。検出遺構は、ピット13基・土坑1基・溝4条である。
- 1 トレンチ 直径20～40cm、深さ20～50cmを測り、柱穴と思われるものも存在するが調査範囲が限られていたため建物としての単位を確認することはできなかった。なお、1基の柱穴の底付近から土師器の小皿が3枚まとまって出土している。
- SK07 幅180cm、長さ180cm以上、深さ60cmの不整形の土坑である。
- SD01～04 いずれも幅40～50cm、長さ150cm以上、深さ10～20cmを測る。流れの方向は東から西である。
- 2 トレンチ 2 トレンチは幅約2.7m、長さ約42mを測る。削平を受け包含層は存在せず盛土を除去すると地表下50cmで遺構面を検出した。検出遺構は、ピット43基・土坑6基である。
- ピット 直径20～40cm、深さ15～30cmを測り、柱穴も存在するがここでも建物を確認するに至らなかった。



fig.70 1 トレンチ中世遺構面 (南から)



fig.71 2 トレンチ中世遺構面 (北から)

- SK01 直径80cm、深さ30cmの不整円形の土坑である。
- SK02 長径110cm、短径60cm、深さ25cmの楕円形土坑である。
- SK03 直径60cm、深さ40cmの円形の土坑である。
- SK04 一辺60cm、深さ10cmの隅丸方形の土坑である。
- SK05 直径60cm、深さ80cmの円形の土坑である。

- SK06 長径80cm、短径50cm、深さ30cmの楕円形の土坑である。

なお、いずれの遺構も埋土は暗褐色粘質土であり、埋土中には土師器・須恵器が含まれているが、細片である。

- 3トレンチ 3トレンチは幅約2.5m、長さ約50mを測る。中央部より南側は中世の遺構面は削平されていたが、北側については中世の土器を含む層が厚く堆積しており、それを除去したところ薬師谷川に向かって落ち込んでいく地形を検出したが、遺構は確認できなかった。



fig.72 3トレンチ中世遺構面(南から)

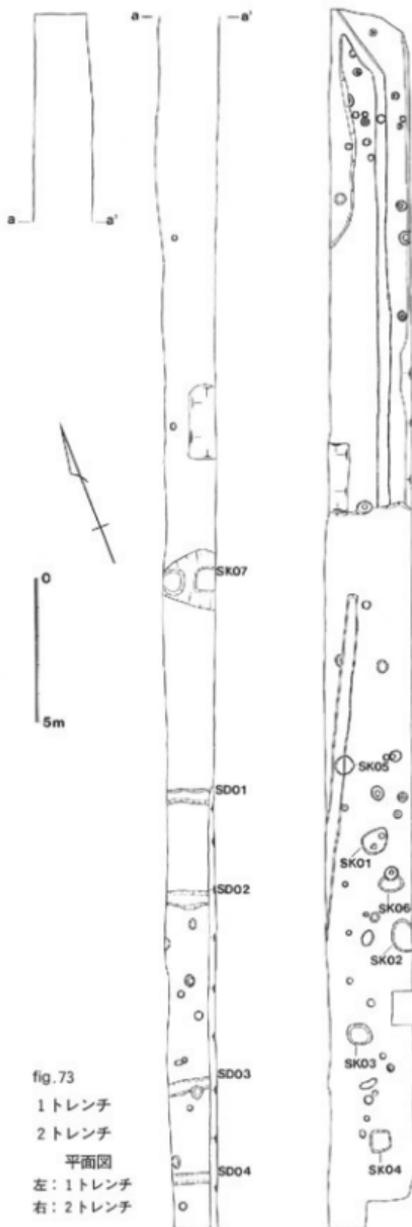


fig.73

1トレンチ

2トレンチ

平面図

左: 1トレンチ

右: 2トレンチ

弥生時代後期
～庄内期

中世の遺構面を形成する灰褐色シルト層とこの層を切り込んでいる砂礫層および下層の褐色砂層中には、多量の土器が含まれていた。これらの層は葉師谷川の洪水によって堆積したもので、厚いところで約180cm、薄いところでも約100cmの厚さがあった。中に含まれていた土器は弥生後期～庄内期のもので堆積層の形成が短期間になされたものと考えられる。

洪水堆積層を除去すると砂礫層があり、所々が起伏しており、さらにその下層には黄褐色の基盤層が存在していた。

なお、どのトレンチにも遺構は存在しなかった。

土器は現在整理中であるが、2トレンチだけでおよそ120個体を数え、調査区全部では最終的に200個体に達するものと推定される。遺存状態も良く、完形品はおよそ70個体を数える。器形は甕が多いが、高坏・長頸壺・短頸壺・台付無頸壺・鉢・器台等も出土している。

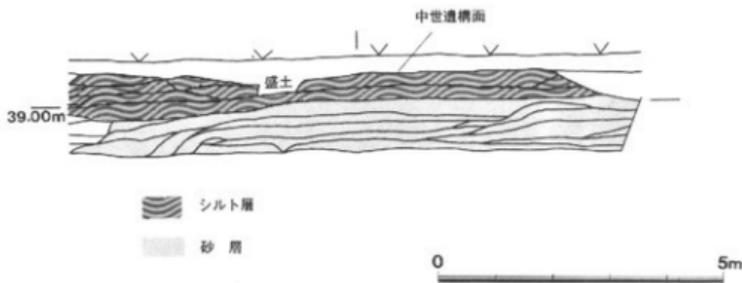


fig.74 2トレンチH・I区断面図



fig.75 2トレンチH・I区土器出土状況図

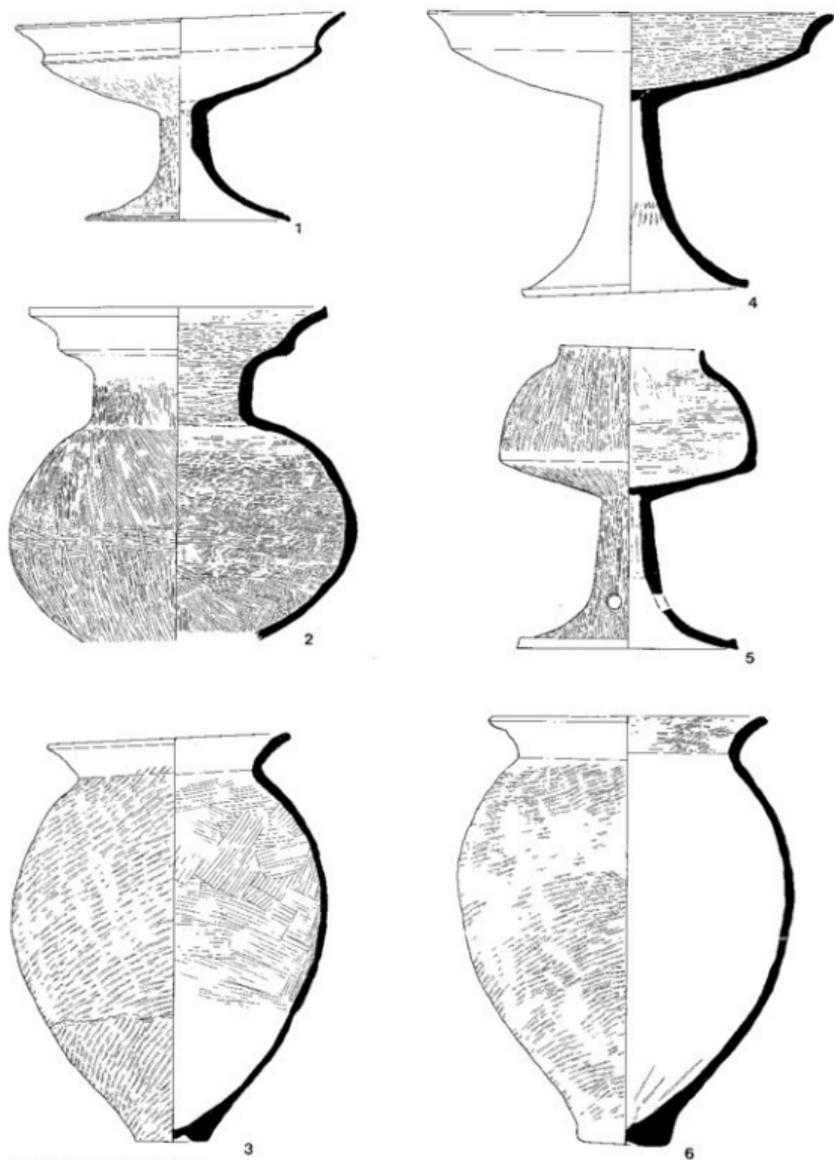


fig. 76 大畑遺跡出土土器

1~3: 上層(シルト層)出土 4~6: 下層(砂層)出土

0 20cm

fig. 77
2 トレンチ B・C 区
土器出土状況
(北から)



fig. 78
2 トレンチ E 区
土器出土状況
(東から)



なお、今回の上層シルト層と下層の砂層に含まれていた土器に時期差があるかどうかは、現在検討中である。

3. まとめ

今回の調査では、断面観察により薬師谷川による扇状地と自然堤防の形成過程を明らかにすることができた。それは、流れを変えながら基盤層上面を川が流れ、起伏のある砂礫が堆積し、その上を洪水堆積層が覆い、自然堤防が形成されるというものである。

また、弥生後期～庄内期の土器が完形で多量に出土し、資料が少なかった明石川流域のこの時期の土器の様相に、新資料を提供することになった。

調査区内では遺構は検出されなかったが、これだけ多量の土器が出土することから、付近に弥生後期～庄内期の大型集落の存在が予想される。中世については遺構は存在するもののその性格は不明である。

7. 玉津田中遺跡 (平野地区)

1. はじめに 平野地区土地改良事業は、昭和63年度までに西神戸バイパスの計画とあ
いまって計画が具体化した。これに伴い埋蔵文化財の有無を確認するため
に、昭和63年度および平成元年度に、分布調査及び当初計画部分の試掘調
査を行った。試掘調査の結果、調査範囲のほぼ全域に遺跡の存在するこ
とが確認された。

これをうけて平成元年10月から、排水路部分など保存の不可能な箇所につ
いて調査を実施した。また事業の計画変更などに伴う試掘調査も調査中
にあわせて行った。(平野地区第1次調査)

また、平成2年1月17日～3月16日に4～7トレンチまでの調査を行っ
た。(平野地区第2次調査)

玉津田中遺跡は、明石川の中流域左岸にあり、明石川が形成した河岸段
丘及び沖積地に位置する。標高は河岸段丘上で約26m、段丘下沖積地で約
24mとなる。なお、東側の段丘上には福中城址(中世)がある。



fig. 79 調査地位置図 S=1:5000

2. 調査の概要 調査は、排水路予定地3本、総延長約400mにおよぶ。南北を1トレンチ、東西を北より3トレンチ、2トレンチとした。

検出された遺物は、弥生時代前期・中期・後期、古墳時代前期・中期・後期、平安時代前半期・後半期、鎌倉時代頃の各時期のものがある。その種類は、土器・石器・木器などである。検出された遺構は、住居址・溝・土坑・柱穴などである。以上のように検出された遺構・遺物は多種多岐におよぶ。

基本層序は、耕土・床土下に中世から近世・近代の遺物をわずかにふくむ黄色泥砂層・褐色もしくは灰褐色の中世遺物包含層・褐色の古墳時代遺物包含層・灰色もしくは青灰色の弥生時代の層となり、ところによっては、礫や砂を含む洪水砂層が存在する。また段丘上では、床土・中世遺物包含層・古墳時代遺物包含層・地山となる。

トレンチを設定した地形は、河岸段丘と沖積地とに分かれる。1トレンチは北3分の1が、3トレンチは東3分の2が河岸段丘上に位置し、そのほかは、沖積地に位置する。

1トレンチ

1トレンチは、南から20mピッチで1～10区に区分して調査をおこなった。1～7区までが沖積地、8～10区が河岸段丘にあたる。1～6区までは、均一中世遺物包含層が存在する。これからは、少量の弥生土器・古墳時代土師器・須恵器のほかに中世の土師器・須恵器が出土した。中世の遺物では土師器鍋・三足鍋・甕・皿、須恵器鉢・甕・碗・皿がある。しかしながら磁器類は、数片にとどまる。中世遺物包含層を除去すると中世遺

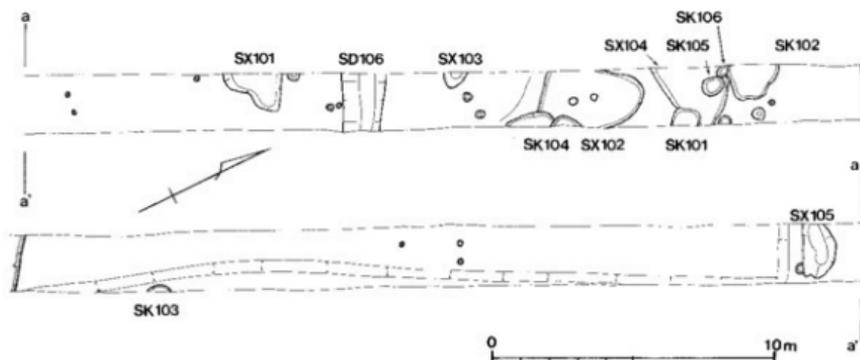


fig. 80 1トレンチ遺構配置図

構面となる。1～2区にかけて、溝2条 (SD101～103・104)と6区で溝1条 (SD105)と落ち込み状遺構 (SX106)が検出された。それぞれの遺構からは、少量の土師器片が出土したにとどまる。SD101～103は、流れを三度ほど変えた溝であることが判明した。

中世の遺構

中世遺構面を形成する土層は、黄色から灰色の砂泥層であるが、この層から遺物は出土しなかった。しかしながら1区で検出された中世の溝 (SD101)と重なる位置に、古墳時代の

古墳時代の

遺構

流路状遺構 (SD101)が検出された。幅約3.6m・深さ0.9mの流路で、北西から南東方向に流れる。この流路は、2トレンチの東端でも検出され、1トレンチに連続するものと思われる。

流路状遺構

SD101

遺構内より弥生土器・古墳時代土師器壺・高坏・製塩土器・ミニチュア土器、須恵器坏・甕、ホゾを刳った木材・刀形木製品と思われる木器・木片・堅果類の皮などが出土した。1・2トレンチの両方の出土遺物より6世紀後半頃には埋没した溝と考えられる。このほかには、古墳時代の遺構は検出されなかった。

弥生時代の

遺構

さらにこの下層に青灰色砂泥層がある。5・6区の比較的高い部分からは、直径0.8m、深さ0.3mの円形の土坑が3基 (SK107～109)検出された。土坑内から少量の弥生土器片が出土した。この面では、他に遺構は検出されなかった。この時点で排水路予定掘削深度より深くなるため、1～7区に計4ヵ所の試掘坑を設けてさらに下層の状況をつかむために調査を行った。その結果、2区の試掘坑から弥生時代前期の遺物が出土した。こ



fig. 81 1トレンチ北側 (北から)



fig. 82 1トレンチ全景 (南から)

れは、現水田下約1.8~2.0mで確認されている。

7区は段丘および段丘裾部にあたる。中世遺物包含層は段丘に向かって、徐々に薄くなる。この下層から弥生土器とともに古墳時代前期頃の土師器壺・甕・高環などが多量に出土した。段丘上の住居址から廃棄された遺物ではないかと考えられる。この下層は、1~6区の層序と同様であるが、遺構・遺物は検出されなかった。

古墳時代の

住居址

8区は、3トレンチと交差する地点である。この交差点で、計6棟の住居址が検出された。住居址の規模などを確認するために、排水路の予定幅を部分的に拡張して調査をおこなった。

S B 301

S B 301は、中央穴が存在する。残存する周壁の高さは0.2m前後で周壁溝は確認できなかった。中央穴より東側は、削平されており北・南については調査区外で形状規模等については不明である。出土遺物には土師器甕・高環がある。須恵器は出土していない。時期としては5世紀中頃と思われる。

S B 302

S B 302は、直径約8.0m（復元径）の円形の竪穴住居址である。幅1m程のベッド状の施設をもつ。中央穴をもち、規模は長径1.6m、短径0.9m、深さ0.5mである。中央穴から少量の炭と高環片などが出土した。住居址の周囲には、周壁溝がめぐっているものと思われる。東側と南側は削平されており、検出できた範囲が狭いため類推の域をでないが、周壁溝が二重に巡っていることも考えられる。また、床面から炭化材が検出され、焼失住居の可能性が考えられる。出土遺物から弥生時代後期頃と考えられる。

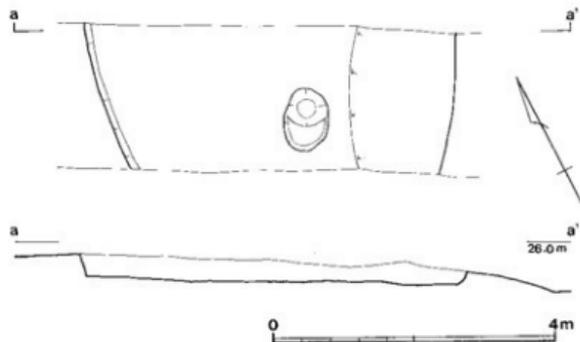


fig. 83 S B 301平面・断面図

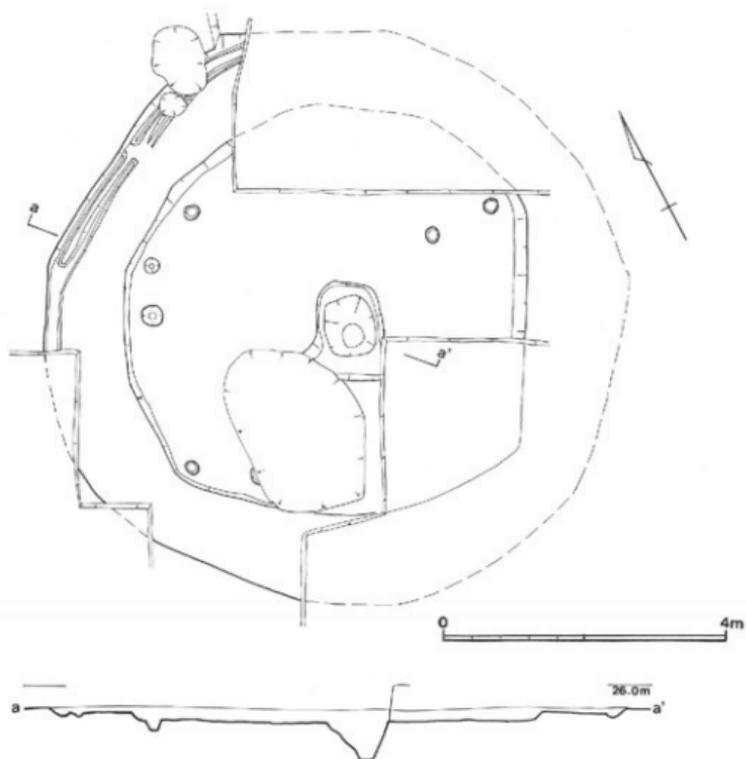


fig. 84 S B 302平面・断面図



fig. 85 S B 302炭化材出土状況 (東から)



fig. 86 S B 302完掘状況 (東から)

S B 303

S B 303は、1辺5.0m前後（復元長）の方形の竪穴住居址である。柱間は2.8m前後で4本柱になると思われる。残存する周壁の高さは0.25m前後で幅0.3m程の周壁溝をめぐらす。中央付近に床面が固く焼けている部分がある。出土遺物は土師器があり、須恵器は出土していない。時期としては5世紀中頃と考えられる。

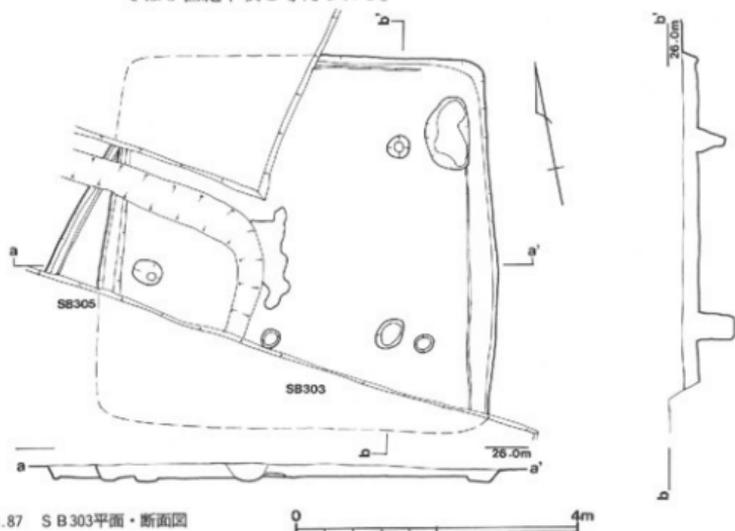


fig. 87 S B 303平面・断面図



fig. 88

S B 303全景（西から）

- S B304** S B304は東西5.0m、南北6.0mの方形の竪穴住居址である。柱間は3.0m前後で4本柱であると思われる。残存する周壁の高さは0.2m前後で一部に周壁溝が存在する。出土遺物には土師器壺・甕・高坏・埴、須恵器坏・製塩土器等がある。時期としては5世紀後半頃と思われる。住居址南西部にはS K01が検出された。長径1.6m、短径0.9m、深さ0.2mの楕円形の土坑である。土師器甕・高坏片が出土した。住居址東辺にはS K02が検出された。長径1.0m、短径0.7m、深さ0.15mの楕円形の土坑で、土坑の底よりやや浮いて、甕が倒れた状態で検出された。ほかに土師器片が少量出土した。甕内に残された土からは、白玉1個が検出された。埋甕土坑の可能性が考えられる。
- S B305** S B305は、S B303に切られる竪穴住居址である。周壁溝の存在と南北の両断面の観察から住居址とした。

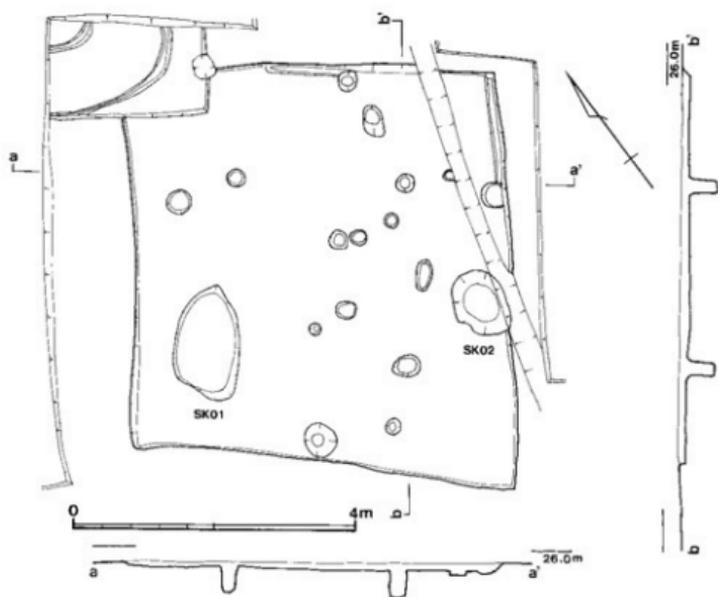


fig.89 S B304平面・断面図



fig. 90 S B304床面土器出土状況



fig. 91 S B304全景 (北から)

S D302 S D302は、住居址(S B305)の周壁溝の西側に検出された溝である。遺構内の出土遺物から古墳時代のもと考えられるが、住居址との関係は明確にはならなかった。

S B306 S B306は、S B304を切る竪穴住居址と考えられる。S B306をさらに中世の遺物を含むS X301が切っている。S B306の規模等については不明である。

S X303 S X303は、S B302を切る中世の落ち込み状遺構である。南北2.4m、東西1.8m、深さ0.2mの規模である。遺構内より中世の土師器・須恵器が出土した。

8区北から10区の基本層序は、床土・中世遺物包含層・古墳時代遺物包含層・地山となる。ただし古墳時代遺物包含層は、場所によってはまったく存在しないところもある。中世遺物包含層について他の場所と異なることは、12・13世紀頃の遺物とともに、9・10世紀頃の遺物が多く混入している点である。磁器類の出土量は僅かであった。

遺構は10区に集中し9区の遺構は希薄で、中世のピットと土坑S K103が検出されたにとどまる。

10区では中世の遺構としてはピットを5基検出したが、建物などにまとまるものはなかった。

S K101 S K101は、1トレンチの北端に位置する直径1m、深さ0.4mの土坑である。出土遺物としては白磁や須恵器などがある。

10区では古墳時代の遺構としてはピットを4基検出したが、建物などにまとまるものはなかった。

S D106 S D106は10区のほぼ中央にあり、東西に走る幅1.5m、深さ0.6mの溝である。出土遺物としては須恵器・土師器などがある。時期としては6世

紀後半から7世紀にかけての間に廃絶したものと思われる。

SK103 SK103はSB304の北に位置する。南北幅0.6m、深さ0.1mの土坑である。遺構の形状は調査区外に遺構が延びているために不明である。遺構内からは少量の土師器が出土している。

SK104 SK104はSK101の南に位置する。南北幅0.8m、深さ0.2mの土坑である。遺構の形状は調査区外に遺構が延びているために不明である。遺構内

SX103 からは少量の土師器が出土している。SK104の南にゆるやかなへこみがあり、黒色シルト層の堆積の見られる部分（SX103）がある。この部分から大量の土師器が出土している。

SX105 SX105は1トレンチの9区と10区の間中に検出された。幅1.2m、深さ0.4mほどの不整形の落ち込み状遺構である。遺構の形状は調査区外に遺構の大半が延びているために不明である。遺構内からは少量の土師器が出土している。

SX101 SX101はSD106の南に位置する南北幅2.0m、深さ0.1mほどの遺構である。その形状は調査区外に遺構が延びているために不明である。遺構内からは弥生土器が出土している。

SX102 SX102はSK101の南に位置する幅2.0m以上、深さ0.7mほどの遺構である。その形状は調査区外に遺構が延びているために不明である。遺構内からは弥生土器が出土している。

SX104 SX104はSK101の西に位置し、SK101に切られている。幅2.6m以上、深さ0.7mほどの遺構である。その形状は、調査区外に遺構が延びているために不明である。遺構内からは弥生土器が出土している。



fig.92 SD101全景（東から）

- S K 102 S K 102はS X 104の北に隣接して位置する幅1.6m以上、深さ0.7mほどの土坑である。その形状は調査区外に遺構が延びているために不明である。遺構内からは弥生土器が出土している。
- S K 105 S K 105はS K 102の南に隣接して位置する幅0.65m、深さ0.2mほどの楕円形の土坑である。土坑内から弥生時代の完形の甕が横倒しの状態で出土している。墓もしくは祭祀的な遺構の可能性が考えられるが、確証となるものはない。
- S K 106 S K 106はS K 102の南に隣接して位置する幅0.35m、深さ0.2mほどの楕円形の土坑である。遺構内からは弥生土器が出土している。
上記の弥生土器は、すべて後期に属するものである。
- 2 トレンチ 2 トレンチは、1 トレンチ 1区から西に伸びる東西約80mの調査区である。約25mピッチで、東より3区に分けた。基本層序は、1 トレンチとほぼ同様で遺構面は3面検出された。
- S D 201 中世遺物包含層は、西に薄く東に厚く堆積している。1区では、S D 201が検出された。前述したが1 トレンチで検出されたS D 101と連続するものであろう。この他に遺構は3区まで検出されなかった。3区では、幅
- S D 203 0.6m、深さ0.1mの溝 (S D 203)と二股に分岐する幅0.3~0.6m、深さ
- S D 204 0.1mの溝 (S D 204)が検出された。ともに浅い溝で微量の土師器片が出土した。このほかにピット3基が検出されたが、掘立柱建物としてまとまるものではなかった。

中世遺構面を削除すると、古墳時代遺構面となる。古墳時代遺構面に至るまでの堆積土は薄く、遺物包含層とは認めがたい。

この遺構面では、住居址2棟・溝6条・土坑2基・落ち込み状遺構1基・ピット3基が検出された。この遺構面は先に触れたが、3区付近が高く、2区S D 202の東肩から下がりをはじめ、1区で1 トレンチの古墳時代遺構面につながる。その比高差は、約0.5mである。



fig. 93
2 トレンチ
第2遺構面全景
(西から)

- S D 208** 1区では東端でS D 208が検出された。幅0.7m、深さ0.2mの溝状遺構で少量の土師器が出土した。S D 201は、方向からみて1トレンチのS D 101の北に伸びる続きであると考えられる。
- S K 202** S K 202は、S D 201の西側に検出された土坑である。S D 201の埋まった後の堆積した面に検出された。深さは0.15mと浅く、出土遺物はない。中世以降、古墳時代中期までの時期の遺構である。
- S D 207** S D 207は、幅0.7m、深さ0.2mの流路状遺構である。古墳時代の土師器甕・高坏などが出土した。須恵器を含まないことから、古墳時代前期頃と考えられる。
- S D 202** S D 202は、約幅1.6m、深さ0.2mの流路状遺構である。古墳時代の土師器甕・高坏などが出土した。出土遺物からS D 207と同じ時期と考えられる。
- S D 205** S D 205は、約幅0.8m、深さ0.2mの溝状遺構である。古墳時代の土師器甕・高坏・小型丸底壺などが出土した。出土遺物から古墳時代前期頃と考えられる。

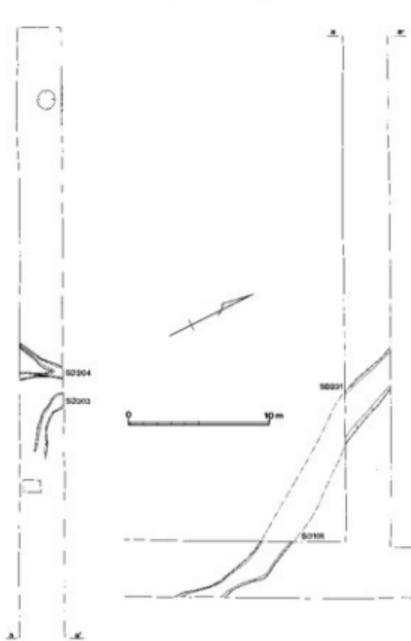


fig. 94 2トレンチ第1遺構面遺構配置図

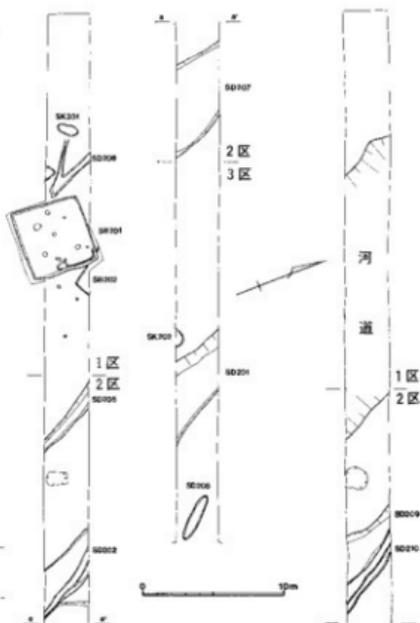


fig. 95 2トレンチ第2・第3遺構面遺構配置図

S B 201 S B 201は、1辺4.8mの方形竪穴住居址である。支柱穴は、4ヵ所で、柱間は、2.0m前後である。残存する周壁の高さは0.2m前後で、東辺から北辺の一部に周壁溝が存在する。また東辺中央には、炭を少量含む長径0.8m、短径0.5m、深さ0.1mの土坑が検出されている。出土遺物には土師罌壺・埴・高坏、砥石・叩石などがある。時期としては5世紀後半頃と考えられる。

S B 202 S B 202は、S B 201で切られた方形竪穴住居址である。西南部を検出したにとどまり、規模は不明である。古墳時代の土師器が、出土している。S B 201と大差ない時期の遺構と考えられる。

S B 201とS D 205の間に、ピットが3基検出された。層序より古墳時代のピットと考えられるが、その性格は不明である。

S B 201の西側では、落ち込み状遺構、二股に分岐する溝状遺構、長径1.4m、短径0.6m、深さ0.05mの長円形の土坑が検出されている。いずれも浅く出土遺物も微量であった。層序と遺構内堆積土から古墳時代のものと考えられる。

第3面の遺構は、S B 201からS D 202にかけての遺構面の高い部分に存在する。S D 202以东は、第2面の遺構面の断ち割りの結果、1トレンチと同様の層序となる。なお、S D 202以东では、出土遺物はなかった。

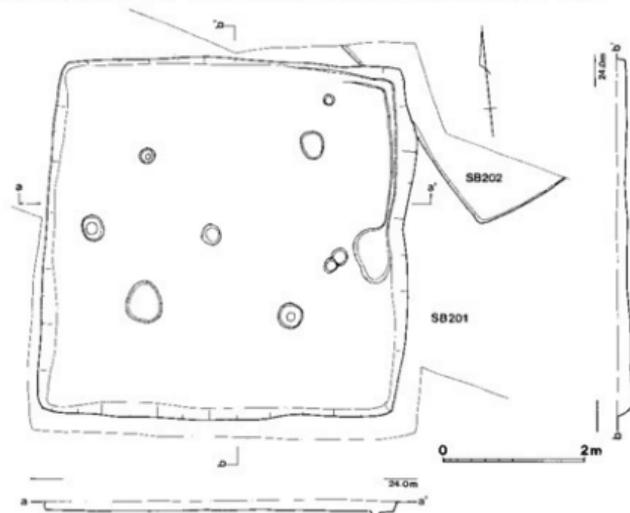


fig.96 2トレンチS B 201・202平面・断面図



fig.97 2トレンチS B 201全景（西から）

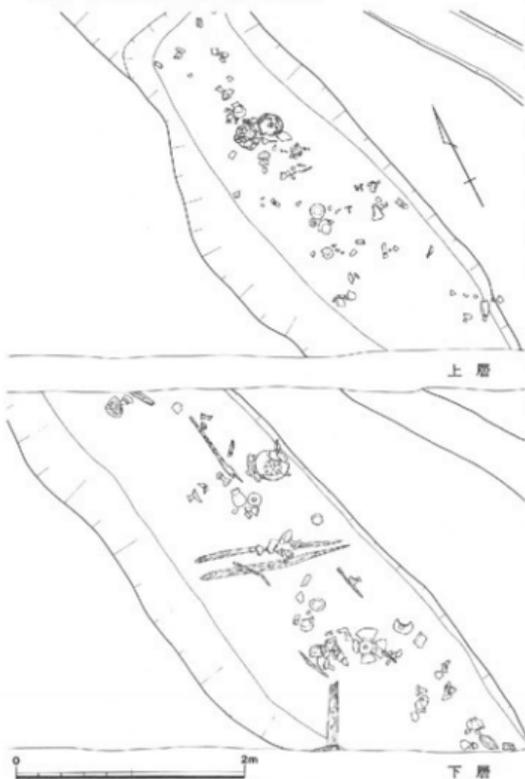


fig.98 S D 209遺物出土状況図

S D 209

S D 209・210は、S D 202の下層で検出された遺構である。S D 209は、幅2.1m、深さ0.5mの溝状遺構である。遺構内堆積土は、大きく2層に分けられる。最上層の薄く堆積した土を除去すると、1層目の遺物があらわれる。古墳時代土師器壺・甕・坑・高坏・ミニチュア土器などとともに、双孔円板が出土した。1層目の遺物を取り除くと2層目の遺物があらわれる。2層目の遺物も1層目の遺物と大差ない時期と思われる。ほかの器種として甕が出土した。また1.3mほどの杭状の木・刀桴と考えられる木器・炭化した木など多くの木片と炭が出土した。

S D 210

S D 210は、幅2.1m、深さ0.5m、S D 209と平行して流れる溝状遺構である。少量の古墳時代の土師器が出土した。



fig.99 S D 209上層遺物出土状況

fig. 100
S D209下層遺物
出土状況（南から）



住居址の下層には、幅約20mほどの河道が検出された。出土遺物の量は、それほど多くはないが、弥生時代前期の土器が出土した。

以上、検出された10条の溝は、2条程を除いてすべて北西方向から南東方向に流れている。住居址の検出されたあたりを中心として微高地が存在しているが、溝の方向から微高地は、北西方向から南東方向に伸び、その上に集落が営まれ、東辺部に溝が流れていたことが想定される。微高地の南北の規模は明らかではない。しかし東西の規模は、現地地形からの推定ではあるが200m前後と考えられる。そして1トレンチの1～7区は、湿潤な地形であったことが窺われる。

3トレンチ
S X305

1トレンチを挟んでS B301・302より東側（1・2区）では、中世遺物包含層下に、東西の幅約14m、深さ1.3mの落ち込み状遺構（S X305）が検出された。堆積土は大きく3層に分けられ、上層は中世の遺物を含み、中・下層は古墳時代の遺物を含む層となる。中・下層に時期差は認められなかった。弥生時代後期の土器と古墳時代の土師器・須恵器が多量に出土した。下層からは中層より多くの木器・木片が出土した。木器は、整形した板材に三角形の切込みをいれた用途不明木器・復元すると角盃もしくは舟形の容器と考えられる木器・農具と考えられる木器（鋏）が出土した。この遺構の時期は、遺物より古墳時代後期である。

S X305は、旧地形から段丘崖にあたるものと考えられる。1トレンチ7区の土器の多く堆積した部分や後述するS X306も同様に段丘崖下に、段丘上から土器が投棄されたか、流されて堆積したのと考えられる。

1・2区では、S X305以外の遺構は検出されなかった。

1トレンチを挟んで西側は、約20mピッチで、区画割りを行った。段丘

上が4・5区、段丘下が6・7区となる。4・5区は、中世と古墳時代の遺構面が、それぞれ1面ずつ存在する。

SD301 住居址群の西側3区から4区にかけて、L字形のSD301が検出された。幅約0.6m・深さ0.15mの溝状遺構である。出土遺物は、少量の中世土師器片である。

SD303 SD303は、幅0.3m・深さ0.1mの溝状遺構である。時期を決める出土遺物がなかった。層序より中世から近世と考えられる。

ほかに3区から4区にかけて、ピット7基が検出された。散在しており、掘立柱建物などにはまともらなかった。

SD304 古墳時代の遺構面では、4区で二股に分岐する幅0.2~0.4m・深さ0.1mの溝(SD304)が検出された。層序と遺構内堆積土より古墳時代と考えられる。

SX304 SX304は、5区で検出された東西の幅約6.4m・深さ0.7mの落ち込み状遺構である。遺構は二段に落ちる。東側の肩と一段目の落ちた面に、ピットがそれぞれ1基存在する。遺構内堆積土から時期などを決める明確な遺物は出土しなかった、ほかに炭片が出土した。

SD304とSX304の間では、ほかにピットが7基検出された。層序と遺構内堆積土より古墳時代と考えられる。

6・7区では、中世遺物包含層下に落ち込み状遺構が2基検出された。

SX306

SX306の東側は段丘崖の地山面となる。東西の幅は段丘上から約15m、深さは中世遺物包含層を削除した面から約0.5mである。上層は、中世の遺物が出土し、下層は弥生土器と古墳時代の土師器・須恵器が出土した。

SX302

7区では、長径2.0m、深さ0.1mのSX302が検出された。遺構内より弥生時代後期の土器が出土した。

下層の状況を確認するために、東西2カ所で断割調査をおこなった。下層は1トレンチ1~6区と同様の堆積状況で、遺構・遺物は検出されなかった。

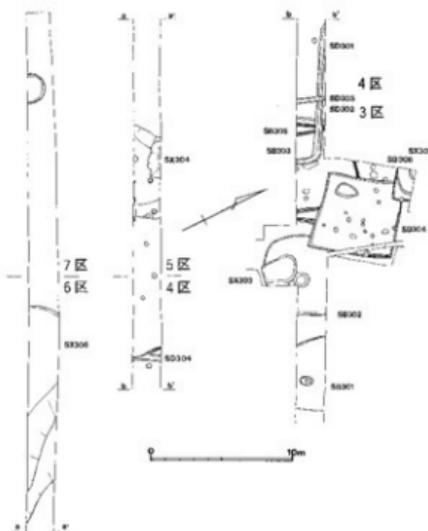
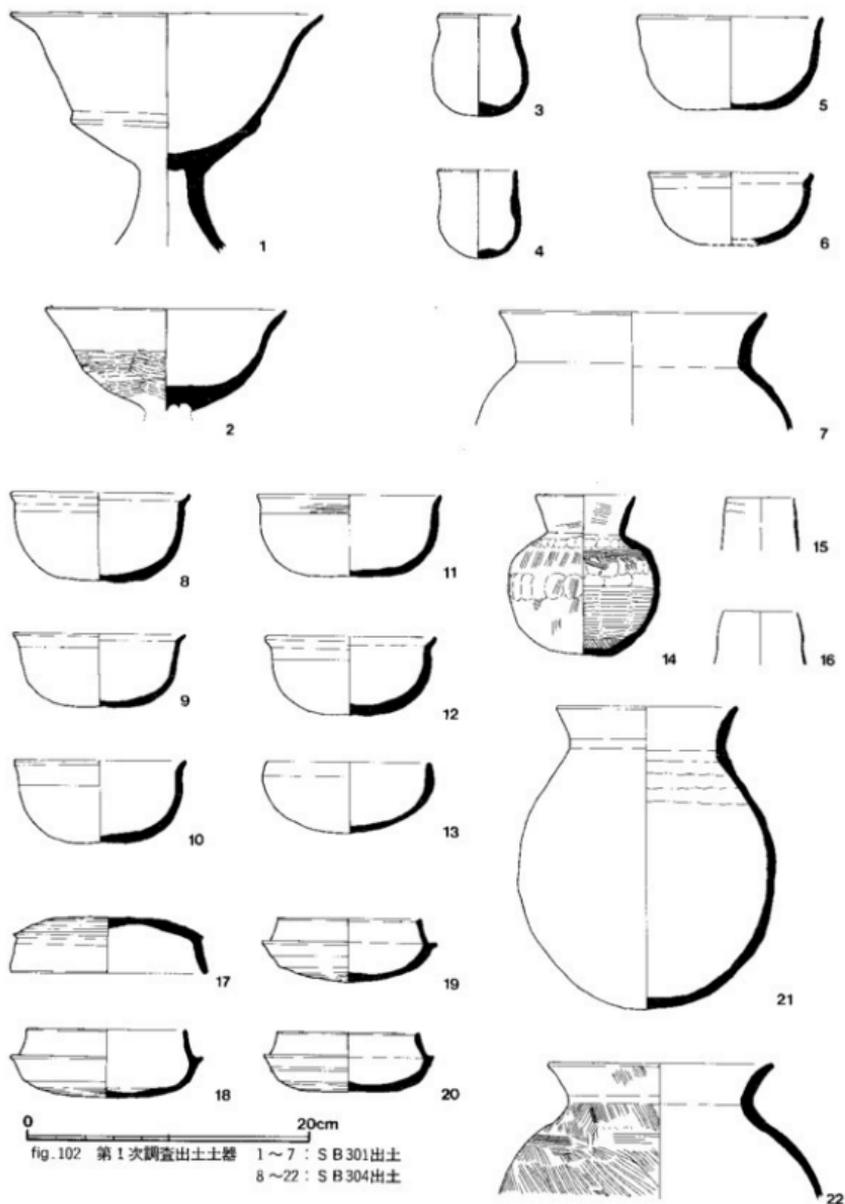


fig.101 3トレンチ遺構配置図



第2次調査 基本層序は、現耕作土、旧耕作土、灰色粘質土、灰色粘土（包含層）、
4トレンチ 黄灰色粘土（地山）である。

灰色粘土は、調査区全域に存在し、弥生時代後期～中世の遺物を包含する。また、検出された遺構は、第1次調査において検出された溝（SD 101・201）につながるSD401のみである。

SD401 3区で検出された溝で、北西から南西に流れていたと考えられる。検出状況から第1次調査と同様、二時期に分けられる。上面は平安～鎌倉時代、下面は古墳時代中期である。

上面で検出された溝は、平安～鎌倉時代の遺物を包含する。幅1.5m、深さ0.3mを測る。

上面の溝とほぼ同一の場所で古墳時代前期の溝を検出した。幅2.0m、深さ0.7mを測る。

遺物は、小型丸底壺、甕、壺、杭等が出土した。出土状況は第1次調査時と類似しており、溝底直上の灰色粗砂から出土した。小型丸底壺は、内面に穀類を煮焚きにした痕跡が残っている。

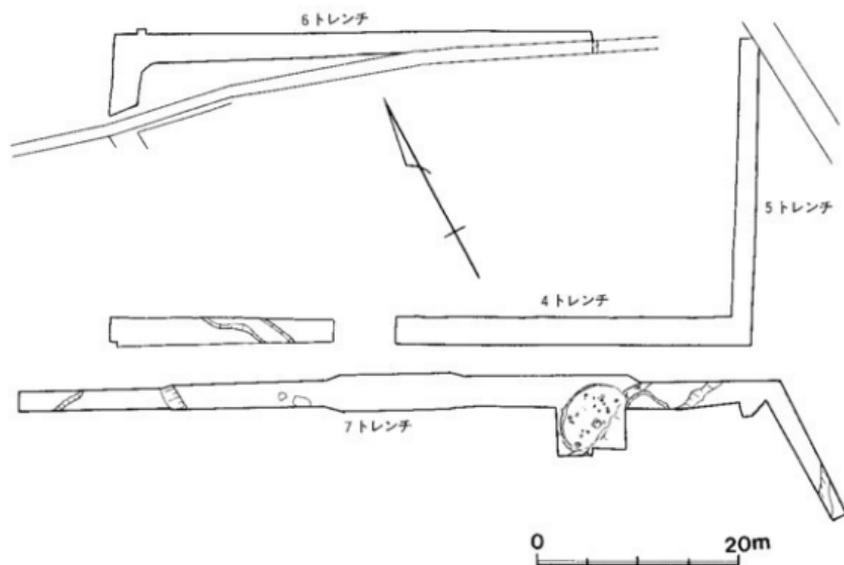


fig.103 4～7トレンチ遺構配置図

fig. 104
S D 401
遺物出土状況（西から）



木製品 杭状の木製品が5本出土した。いずれも火熱を受けた痕跡がある。

	残存長(m)	最大径(m)	調整	表皮	炭化状況	その他
W1	63.0	4.8	片側尖	なし	上部	片側焼失
W2	50.5	2.5	なし	1/2	全面	両端欠損
W3	18.0	3.8	片側尖	なし	なし	片側欠損
W4	55.0	4.0	なし	なし	一方	両端欠損
W5	142.5	8.5	片側尖	1/2	全面	片側欠損

墨書土器 5区において、平安時代前半の墨書土器片が2点検出された。須恵器坯蓋に「牟」と印されているものと、判読不可能な須恵器坯身である。

5トレンチ 基本層序は、4トレンチと同一である。遺構は検出されなかった。

6トレンチ 基本層序は、現耕作土、旧耕作土、灰色粘質土、暗灰色粘土（遺物包含層）、黄褐色粘質土、黄色砂礫（地山）である。調査区は、東側から西側にかけて緩やかに傾斜しており、東側半分は耕作土直下で地山が検出された。暗灰色粘土層は調査区西側部分で検出された遺物包含層である。完形品に近い甕2点以外は細片の土器が多く、遺構は検出できなかった。

7トレンチ 福中城址の北西方向に隣接する地点である。基本層序は、現耕作土、旧耕作土、灰色粘質土、暗灰色粘土（遺物包含層）、黄褐色粘質土、黄色粘土（地山）である。現地表は東から西に傾斜しているが、現水田土を除去すると、2区のレベルが低く、3区で急に高くなり、西側に向かって緩やかに傾斜している。

1区では、奈良～平安時代の遺物包含層を検出した。工事影響レベル下に約20～40cmの厚さで堆積している。立地条件などから復元すると、東側の谷又は東から伸びる尾根上に当時期の遺構が存在する可能性が高い。

遺構は、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての竪穴住居址1棟を検

出した。

馬形土製品

遺物包含層からは、弥生時代後期から中世の遺物が混在して出土した。住居址を覆う洪水層と考えられる礫層の上面より、馬型土製品が出土した。頭部から勁部にかけての破片で、竹管による刺突で目と手綱を表現し、たてがみはつまみあげている。胴部は中空である。

礫層を除去すると、南西方向に傾斜する黄色粘土層が検出された。当層より下は遺物を包含しない。この面で竪穴住居址、土坑1基が検出された。

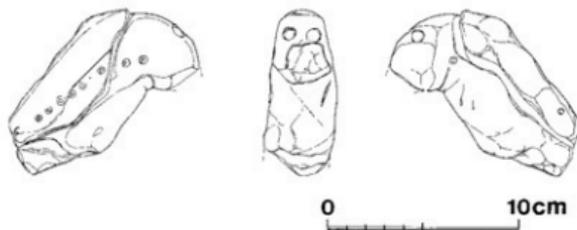


fig.105 7トレンチ出土馬形土製品

S B701

3区で検出された弥生時代後期の円形竪穴住居址である。東南部分は現水田造成時に削られて失われているが、調査区内で最もレベルの高い場所に立地している。復元径約7.2mと推定される。焼土、炭化材が多く遺存している。焼土は北側に特に多く、炭化材はほぼ全面から検出され、放射状に残存している。

周壁溝は、北側を除く床面残存部で検出され、北側から南側に排水していたと考えられる。

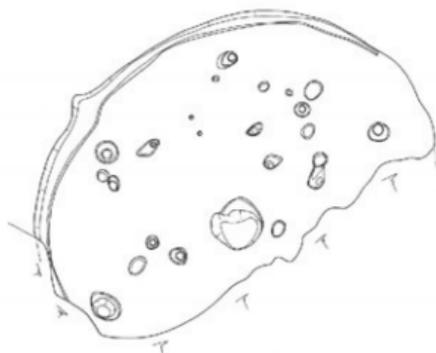
主柱穴は、ほぼ等間隔で、4基検出された。掘形径約40cm、柱痕径約15cmを測り、復元すると6本柱の建物となる。柱穴1 (SP01) では、柱材の痕跡がわずかに認められた。これらの主柱穴以外に、掘形径約20cm以下の柱穴が数基検出されたが、規則性は認められない。床面北側で検出された焼土は、炭化材上より検出されており、屋根上に置かれていたか、住居が火災中または直後に置かれた土が熱を受けたものである。

中央土坑は、長径95cm、短径90cm、深さ30cmを測る。埋土上層で土器片と炭化材が出土した。

遺物は、すべて炭化材の検出レベルより低い位置で検出されており、完形に復元できる土器は、すべて床面直上で出土した。



炭化材出土状況



床面完掘状況

fig. 106 S B 701平面図



fig. 107 S B 701炭化材出土状況 (南東から)



fig. 108 S B 701床面完掘状況 (南東から)



fig. 109 S B 701上面土器出土状況 (南から)

S K 701 長辺90cm、短辺60cmの隅円方形の土坑である。埋土は礫の単純層で、遺物は出土しなかつた。



fig. 110

7 トレンチ全景 (東から)

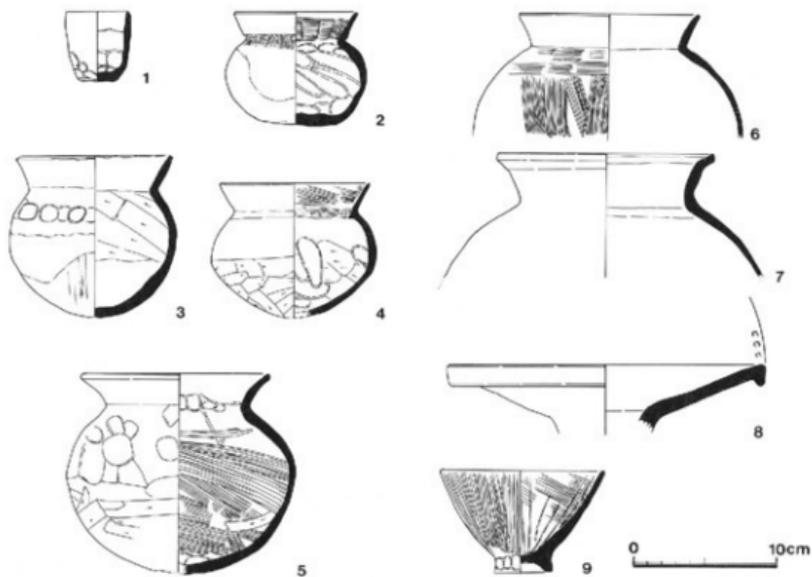


fig. 111 第2次調査出土土器 1~5 : S D 401 6・7 : 6 トレンチ 8・9 : S B 701

3. ま と め

第1次調査

まず1点目として、弥生時代から中世にかけての各時期の遺構・遺物が検出されたことがあげられる。

2点目として、段丘上と沖積地という立地の条件の異なる地点で、古墳時代のほぼ同時期の集落が存在したことである。

3点目として、沖積地における微高地の存在が、限定された条件ながら明らかになった点である。

4点目として、弥生時代前期の遺物が出土したことにより、この時期の遺構が付近に存在することが予想される。また同時期の遺跡が、印路遺跡・西戸田遺跡・常本遺跡・鍋谷池遺跡と連なることから、明石川中流域で稲作文化が面的に広がっていたことが指摘できる。

以上調査の成果をあげたが、今後の課題として、条里遺構の復元があげられる。今回の調査でも畦畔確認のための精査をおこなったが、時期の限定できる良好な畦畔が発見されなかった。また字名と福中城址との関連の追求なども課題としてのこる。

さらに2トレンチの溝内から出土した祭祀的な遺物と製塩土器の関連も今後の検討課題となろう。

第2次調査

S D 401出土の遺物は、今回及び前回の調査での検出状況から、祭祀に使用された可能性が高い。植物遺体が内面に付着していた小型丸底壺や、焦げた木材等、当時の祭祀の内容を復元できる可能性がある。

S B 701は、段丘上の微高地に立地しており、当地域の弥生時代後期の居住区が、低位段丘から高位段丘まで広がっていることを示している。

7トレンチで福中城址関連の遺物遺構を検出することはできなかった。岡久雄氏の復元図では、当トレンチの位置には、堀割等の城址関連の施設は記されていない。しかし、2区で検出された東側に落ちる落ち込みは、人為的な施設ではなくとも、自然地形を利用した堀割的な施設である可能性は指摘することができる。



fig. 112
調査地遠景

8. ^{いんじ}印路遺跡

1. はじめに

印路遺跡は明石川の西岸に位置しており、昭和63年度の発掘調査では古墳時代前期の集落の一部などが確認され、以前は遺物散布地程度の認識しかなかった当遺跡の実態が次第に明らかになってきた。

今回の調査は平成元年度の印路地区土地改良事業に伴うもので、本調査に先立ち平成元年4月に試掘調査が行われ、弥生時代前期～中世の遺構・遺物が確認された。そして、今回の調査では旧石器時代～近世に至るまでの遺構・遺物が確認され、長い時期にまたがる複合遺跡であることが明らかになった。

2. 調査の概要

試掘調査により埋蔵文化財の存在を確認した箇所のうち、排水路・パイプラインなどの設置により埋蔵文化財が破壊される箇所について調査を行った。

調査地区は便宜上、Iトレンチ～Xトレンチの10ヵ所のトレンチを設定し、順次調査を進めていった。



fig.113 調査地位図 S = 1 : 5000

Iトレンチ Iトレンチでは、4面の遺構面が確認された。

層序はトレンチの東半部と西半部とで若干異なり、東半部では上層より耕土、床土、淡黄灰色粘質土、灰色砂質土、暗灰色粘質土、茶灰色砂質土、灰茶色砂質土、黄灰色細砂、黒茶色粘質土、青灰色シルトの順で、灰色砂質土は中世の遺物、暗灰色粘質土は古墳時代前・中期の遺物、黒茶色粘質土は縄文時代後期～弥生時代中期の遺物をそれぞれ包含する層である。

西半部の層序は灰色砂質土と茶灰色砂質土との間に暗灰色粘質土ではなく、黄灰色粘砂土が存在し、また、灰茶色砂質土の下層の黄灰色細砂が存在しない他は東半部とほぼ同じである。

第1遺構面 中世包含層である灰色砂質土を除去した時点で検出された遺構面で、時期・性格が不明の土坑状遺構（SK01）が確認された程度である。

第2遺構面 暗灰色粘質土、黄灰色粘砂土を除去した時点で検出された遺構面で、溝状遺構5条、土坑状遺構（SK11）の他に、数基のピットなどが確認された。

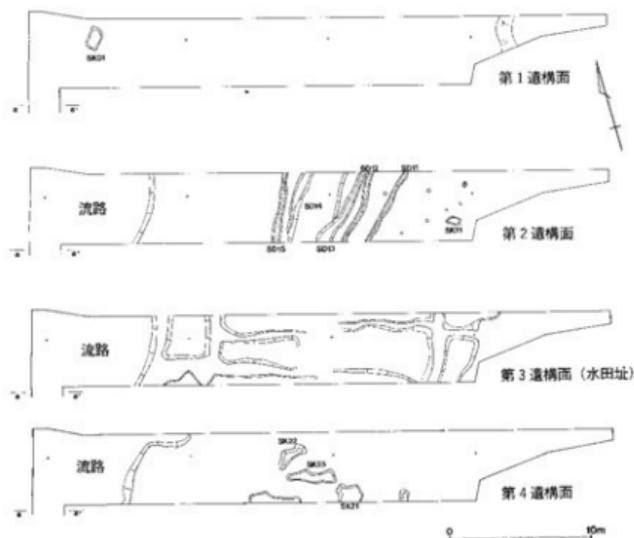


fig. 114 Iトレンチ平面図

溝状遺構

いずれもその出土遺物から古墳時代前～中期頃の遺構と考えられる。
それぞれの溝のおおよその規模は下記の通りである。

・ S D11	30×15	(幅×深さcm)
・ S D12	25×15	
・ S D13	80×40	
・ S D14	330×50	
・ S D15	50×30	



fig.115

1 トレンチ

第2遺構面全景(西から)

24.0m



- | | | |
|---------------|-------------|-----------------|
| 1. 暗灰茶色粘質土 | 7. 灰茶色砂質土 | 13. 濃灰茶色シルト |
| 2. 暗灰色シルト | 8. 茶色粘砂土 | 14. 濃灰茶色細砂混リシルト |
| 3. 灰色シルト | 9. 濃灰色粘質土 | 15. 灰茶色中砂 |
| 4. 淡灰色粘質土 | 10. 暗黄灰色シルト | 16. 淡茶色粘質土 |
| 5. 淡灰茶色粘質土 | 11. 濃灰色シルト | 17. 淡灰色シルト |
| 6. 暗灰色細礫混リシルト | 12. 濃灰茶色粘砂土 | |

fig.116 S D14上層断面図

第3遺構面

水田址と考えられる遺構面で、第2遺構面のベースとなっている茶灰色砂質土が水田土壌と考えられる。小畦畔による一区画がかなり小規模で、詳細な時期は不明であるが、弥生時代後期～古墳時代前期頃の遺構と考えられる。

第4遺構面

黒茶色粘質土を除去した時点で検出された遺構面で、土坑状遺構2基(S K22・23)、不定形落ち込み状遺構3基(S X21他)が確認された。

また、S K22・23、S X21より縄文時代後期のものと考えられる遺物が確認された。

- S K22 深さ約40cmの不整形土坑状遺構で、縄文時代後期の土器片とサヌカイトの剥片が確認された。
- S K23 深さ約15cmの不整形土坑状遺構で、S K22と同様に縄文時代後期の土器片とサヌカイトの剥片が確認された。
- S X21 深さ約10cmの不定形遺構で、土坑状遺構と同様に縄文時代後期の土器片とサヌカイトの剥片が確認された。

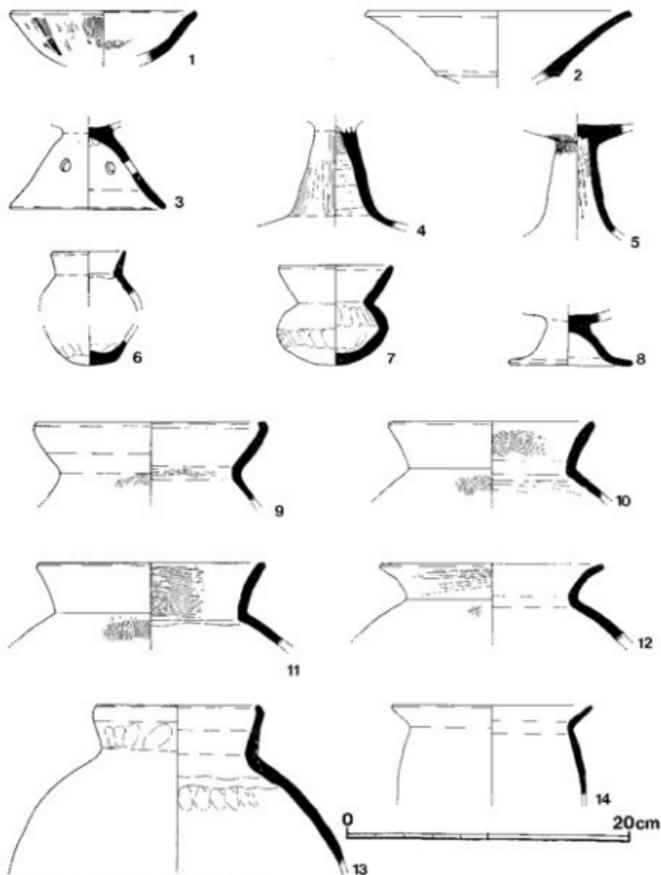


fig. 117 I トレンチ S D14出土土器

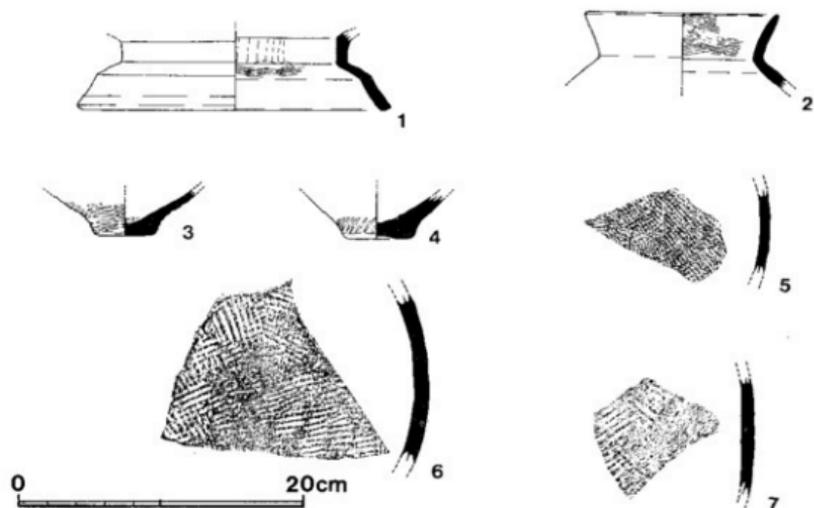


fig. 118 Iトレンチ出土土器 1・6・7:S D14 5:S D13 2~4 褐色粘質土

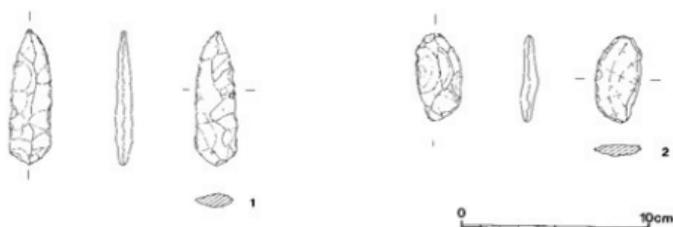


fig. 119 Iトレンチ出土土器 1:黒茶色粘質土 2:灰色粘質土

I トレンチ Iトレンチの西端部に直交するトレンチで、Iトレンチの第2遺構面に相当する面が存在せず、3面の遺構面のみ確認した。

層序は北端部ではIトレンチの西半部と同様であるが、それ以南では少し異なり、また、トレンチの北半部と南半部でも若干異なる。北半部は上層より耕土、床土、淡黄灰色粘砂土、黄灰色砂質土、茶灰色粘砂土、茶灰色砂質土、黒茶色粘質土、淡茶色シルトの順で、南半部では茶灰色砂質土と淡茶色シルトとの間に黒茶色粘質土ではなく、黄灰色細砂が存在する。黄灰色砂質土が中世包含層に相当する層で、他はIトレンチと同様である。

- 第1遺構面** 黄灰色砂質土を除去した時点で検出された遺構面で、Iトレンチの第1遺構面と同一の面である。
 検出された遺構は小規模な溝状遺構(SD01~03)、不定形落ち込み状遺構(SX01・02)などで、SD01より土師器の細片が出土した程度である。
- 第2遺構面** Iトレンチの第3遺構面に相当する面で、Iトレンチと同様に茶灰色粘砂土を除去した時点で検出された遺構面である。
 Iトレンチと同様、水田址と考えられる遺構面で、茶灰色砂質土が水田土壌であると考えられる。
- 第3遺構面** Iトレンチの第4遺構面に相当する面で、黒茶色粘質土・黄灰色細砂を除去した時点で検出された遺構面である。
 土坑1基(SK21)、溝状遺構3条(SD21・22・24)などが検出され、縄文時代後期に属すると考えられる遺物が確認された。
- SK21** 長径約150cm、短径約90cm、深さ約40cmの土坑で、縄文時代後期の粗製深鉢土器片が確認された。



fig. 120 Iトレンチ第3遺構面(北から)

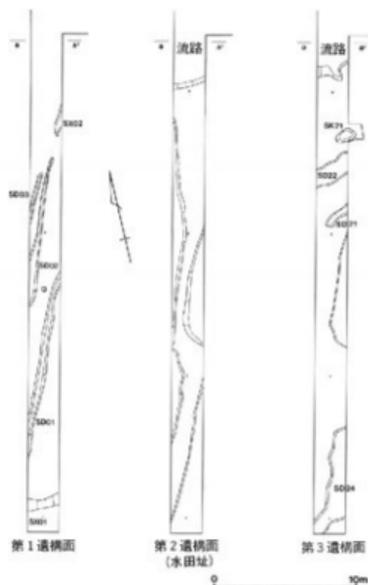


fig. 121 Iトレンチ平面図